

平成24年度
(2012年度)

博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

はじめに

博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる、地域の中軸施設であることも求められています。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者の要求に、より高い満足度をもってこたえていくため、当館では今年度もいろいろな博物館事業を実施してまいりました。

博物館の教育普及活動は、首里の博物館時代から取組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業を取り込むことを基本にして推進してきました。学校連携事業では、学校団体受入の充実を図るため、第5期ボランティアの募集と養成をおこない、総勢97名のボランティアを確保するとともに、学校団体支援体制の強化を推進しサービスの向上を図ってきました。また、文化講座及び展示会関連講座は「語り始めた大地—本部半島でのジオパーク活動」を皮切りに全12回実施し、県民の皆様にご参加をいただき好評を得ることができました。その他にも、「紅型にチャレンジ」をはじめとする2種の体験学習教室の開催と、常設展展示解説会11回、学芸員講座とバックヤードツアーをそれぞれ13回、夏休み企画として「博物館学芸員教室」を全9教室、開催してまいりました。

当博物館としては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様をとおして、沖縄の自然や歴史及び文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。そして、新しい時代に対応した、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく展開させ、県民と共に知的財産を創造していく博物館をめざしていきたいと考えております。

本年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成25年3月

沖縄県立博物館・美術館
職務代理者

副館長 千木良 芳範

博物館教育普及活動

目次

はじめに

I 博物館活動について …………… 1

- 1 はじめに
- 2 博物館活動（四つの車輪）
調査活動 展示活動 教育普及活動
保存管理
- 3 博物館の機能
- 4 博物館の施設
- 5 博物館教育普及活動の概要

II 学校連携 …………… 7

- 学校団体受け入れ要項
- 先生方へのお願いと確認
- プログラム例・県内学校団体受入一覧

III 体験学習教室 …………… 19

- 1 博物館体験学習教室実施要項
体験学習教室活動状況・資料

IV 博物館文化講座 …………… 38

- 1 博物館文化講座実施要項
- 2 文化講座の実施状況

V 博物館学芸員講座 …………… 49

- 1 博物館学芸員講座実施要項
- 2 学芸員講座の実施状況

VI 展示解説会 …………… 61

- 1 博物館展示解説会実施要項
- 2 実施状況

VII バックヤードツアー …………… 63

- 1 バックヤードツアー実施要項

VIII 夏休み！博物館学芸員教室 …… 64

- 1 夏休み！博物館学芸員教室実施要項
- 2 実施状況

IX ふれあい体験室 …………… 68

- 1 ふれあい体験室の概要
- 2 体験キットの種類
- 3 スタッフの配置状況
- 4 利用者状況
- 5 ふれあい体験室の取組み

X ボランティア養成事業 …………… 73

- 1 沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティア活動実施要項
博物館ボランティア各種講座関連資料
博物館ボランティア登録申請書
ボランティア登録証交付式関連資料
博物館ボランティアのてびき
ボランティア通信

XI その他 …………… 101

- 1 移動展
- 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス
- 3 職場体験
- 4 けんぱくキット貸出
- 5 ボランティアによる展示ガイド
- 6 企画展関連事業
- 7 常設展に関する取り組み
- 8 新聞・雑誌等掲載一覧
- 9 印刷物一覧

I 博物館活動について

1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の四つを館活動の車輪としています。それら車輪を機能させるために館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- ・琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ・人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ・沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ・博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

2 博物館活動(四つの車輪)

◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に生かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連絡協力を行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「友の会」と連携したボランティア活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「体験学習教室」等を実施、遊びながら学べる「ふれあい体験室」も普及事業を担っています。

◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に涉っています。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけでなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は、展示や講座、論文、インターネットなどにいろいろな媒体を通して、県

民の知的財産として蓄積されていきます。

いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

◎資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護します。

◎資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・歴史・文化に関する展示会が開催されます。

◎学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験とおした学習を行う講座室等があります。

◎資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、この学芸員研究室を中心に行われます。6分野の学芸員が共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。

◎博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

4 博物館の施設

(1) 常設展示

常設展示のメインテーマは、「海と島に生きる-豊かさ、美しさ、平和を求めて-」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は、次の10のテーマによって、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年に亘る沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今、そして未来へ」の順に展示を観ることが出来ます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指します。

自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに。島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることが出来ます。

考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができます。

美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求します。

歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていきます。

民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統と暮らし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。

(2) 屋外展示

高倉

高倉は、穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンプン（中垣）は、外部への目隠しとなります。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、平時も靴を脱いでいただいたの内覧も可能となっています。

湧田窯

湧田窯は17世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に、屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

(3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、27種類の体験キットが準備されています。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。

(詳細については「IV ふれあい体験室」を参照)

(4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料の検索や、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。

(5) 講堂・講座室等

講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212 席(車いす 2 人含む)を収容することができます。

講座室

100 名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生 150 名程度の集会が可能です。

実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40 名程度の収容が可能です。

(6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能です。(ベッド数 1 台)

(7) 駐車場

一般車両 140 台(身障者用 4 台含)、バス 10 台が駐車可能です。
特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してあります。
また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してあります。

(8) コインロッカー

百円コインが返還される、無料のロッカーが 204 本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

(9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けています。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置しています。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の 2 ヶ国語表示としています。

(10) 環境への配慮

太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10 k w 程度の太陽光発電装置を設置しています。

雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用しています。

夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています。

総合的有害虫管理（IPM）施設 IPM（Integrated Pest Management）

博物館・美術館では、病害虫を管理するために総合的有害虫管理（IPM）を行っています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用する方には、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいています。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしています。

5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。一つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。二つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取り組みました。

(1) 学校連携事業

学校連携事業では、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

今年度は、博物館展示資料と教科書の関連性を一覧にした『博物館が教室になる』（A3二つ折り）と貸し出し資料を一覧にした『けんぱくキット』（A3二つ折り）の2種類を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布しました。

今後、県内外の多くの子どもたちに対し、博物館を利用した学習が幅広くおこなわれ、沖縄の自然、歴史、文化を伝え、学びの拠点になれるように一層の努力で取り組みます。

(2) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、実演、現地研修、回によっては講演後には関連した展示場所での担当学芸員による展示解説を行う等、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

(3) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担いました。

(4) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点から分かり易く解説しました。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会としました。

(5) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会としました。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

(6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施しました。普段は、入ることの出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会としました。

(7) 夏休み！博物館学芸員教室

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入となる内容を検討し、体験型の教室を開催しました。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供しました。

(8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入しています。

平成 24 年度は、第 5 期新規のボランティアを募集し、半年間にわたる養成講座をおこない、31 名のボランティア員の登録ができました。また今年度の特徴として、多様化する来館者のニーズに対するよりきめ細かなサービスへの寄与を目的として、ふれあい体験室専属で、土・日・祝日のみ活動できるボランティア員の募集と養成講座をおこない、9 名の登録もおこなうことができました。

(9) その他

フリーパス

県内の各小中学校に、施設を身近に感じてもらい、より多く来館してもらうために、フリーパスの制度を取り入れています。「ふれあい体験室」や博物館・美術館双方の常設展や特別展、企画展などに訪れた時に総合案内に提示すると、スタンプを押してもらうことができます。30 ポイント貯まると県立博物館・美術館オリジナルの景品をプレゼントします。

移動展

ふだん当館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供しました。今年度は、粟国島で開催しました。

教育普及資料貸出

今年度は、博物館の教育普及資料の「豆腐づくり」に関する資料（石臼や桶、型枠などを 2 セット）を 2 件貸出しました。

II 学校連携

平成 24 年度 沖縄県立博物館・美術館—博物館利用学校団体受け入れ要項

1、ねらい

- ・博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ・博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- ・博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

2、対象・受け入れ内容等

	対象	学習領域	受け入れ内容 *内容は、学校と博物館が調整して決める。	見学方法
1	【県内】 小学校 中学校 高等学校 特別支援諸学校 (各学年)	各教科の学習、 道徳、特別活動、 総合的な学習の時 間など	展示資料を、郷土について知るための 教材として活用し、博物館や沖縄を知る ための教室として利用してもらう。	A 自由見学 (下見打合せ/無) B ボランティアサポート (下見打合せ/有) C 夏季課題学習 (下見打合せ/有)
2	【県内】 小学校 (3 年)	社会科*「昔の道具 を体験しよう」など	民具体験学習(博物館収蔵の民具を 活用した体験学習を行う)	ボランティアサポート (下見打合せ/有)
3	県内の教職員 (全校種)	校内研修など	博物館利用解説やバックヤードツアー 等	(下見打合せ/有)

3、方法※①②は館内情報センター(指定管理者)、③は博物館(県担当学芸員)が対応します。

①必要事項を別紙『団体受付申込』に記入の上、沖縄県立博物館・美術館内の情報センターに **11 月末までに** FAXで申込む。

※希望日の受け入れについては、先着順

※情報センターに『団体受付申込書』を提出後、博物館の担当職員との下見の日程調整が必要です。

②**見学の2ヶ月前までに**、当日引率する教師全員来館による、下見を行う。 * 博物館担当学芸員が対応

③**見学の1カ月前までに**、学習計画書を提出する。

※自由見学の場合、下見の実施と学習プログラム(学習計画書)の提出は必要ありません

11 月末までに 『団体受付申込』の提出 *情報センターにFAXで申込	見学の2ヶ月前までに(～11 月末) 下見 *博物館担当者対応 *引率教員全員参加	見学の1ヶ月前までに 学習プログラムの完成 *ボランティアへの支援 依頼開始	来館当日
---	--	---	------

夏季・秋季休業等を利用される
ことをおすすめします。

学年会、教科会として
利用することも可。

4、その他

下見の受け入れ 期間:4～11 月末 時間:9:00～17:00 所要時間:2時間程度

問合せ先:

〒900-0006 那覇市おもろまち 3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

『団体受付申込書』の提出→【情報センター】 Tel 098-941-1187 Fax098-941-3530

下見・学習計画書の提出→【博物館班 教育普及担当(池原)】 Tel098-851-5401

Fax098-941-3650

●博物館を利用して学ぶ

1 はじめに

博物館では、子どもから大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することが可能です。

博物館の各展示室では、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに地域について理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ結びつけることもできるでしょう。

2 学校が利用する場合

(1) 日程の調整

- ① 施設の予約・日程調整等は情報センターで行います。
- ② 施設の下見から学習内容の調整を、博物館教育普及担当とともにを行います。
- ③ 沖縄県立博物館・美術館は、指定管理者（文化の杜共同企業体）が館の管理運営を行います。
観覧当日の対応は、指定管理者がボランティア員を活用し対応します。

—指定管理者—

指定管理者とは「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人などでも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法第244条の2）
博物館・美術館においては、文化の杜（共同企業体）が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うこととなります。

(2) 博物館下見、打合せ

【下見の前半】情報センター円卓にて

- ① 来館日、来館時間、クラス(生徒)数、当日の日程、引率者など申請書の確認
- ② 博物館利用にあたってのマナー確認

○観覧マナーについて

「博物館での見学マナー」を児童生徒に、事前に指導しておいて下さい。 *コピー可

- ③ 学習のねらい(めあて)の確認(なぜ博物館を利用するのか?)
- ④ 学習の展開方法(学習形態等)の確認(体験内容・学習方法・ボランティア活用・保護者協力など)
- ⑤ 筆記の際の支え(探検バッグ・ファイル)や持ち物(水筒・カメラなど)の確認
- ⑥ 博物館への飲食物持込みは禁止されています。〈IPMの考え方により〉

*博物館では、IPMの考え方から、環境にやさしい施設を目指しております。

飲み物や食べ物の館内持込みはご遠慮ください。

遠足時の行事の際にも、荷物を車で管理するなど配慮をお願いします。

— IPM (Integrated Pest Management) —

耕種的、生物的、科学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的被害を生じるレベル以下に害虫個体群を減減させ、かつその低いレベルを維持させるための害虫個体群管理のシステムです。

(3) 博物館を利用した授業の、学習計画を考えます

* 授業の導入での活用、 展開で活用、 まとめで活用するのか？

- ・博物館からの情報提供をもとに、学校主体で学習計画案を作成します。
- ・見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
- ・学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
- ・博物館利用のマナーについて、授業計画に入れて下さい。
- ・保護者引率の場合、事前に学習内容と役目等の説明を、学校側で行って下さい。
- ・ボランティア員への協力要請は、学習プログラム決定後に行います。

(ボランティア員に連絡を入れます。急な変更には対応できません)

☆引率の先生が校外で行う授業です。免許を持たないボランティアは授業を行えません。

先生が、見学者やカメラマンにならないようにお願いします！

— ボランティア員 —

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティア員を養成しています。現在は①誘導ボランティア ②展示ガイドボランティア ③体験サポートボランティア があります。

博物館ボランティアによる支援

① 誘導ボランティア

博物館の展示では、総合展示と、総合展示の周りに配置された部門展示室があります。広くて他の観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に、案内人が必要となります。誘導ボランティア員は、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。

② 展示ガイドボランティア

展示室における資料の解説は、ボランティアが行っており、解説ポイントをふまえ、学校側から依頼することができます。ただし、全ての要望には応じられないこともご了承下さい。

*ワークシートの活用について（答え合わせの為の展示ガイドにならないようにお願いします）

③ 体験サポートボランティア

博物館での民具体験学習では、社会科の学習内容に対応した内容を推進しています。

体験内容には、運搬に関する体験、洗濯体験、着衣等の昔の暮らしの体験があります。

この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います。（教員や保護者の引率者の参加協力をお願いします。）

【下見の後半】常設展示室、屋外体験実施場にて

- ・学習に必要な展示資料や以下の施設を確認します。(トイレ, 集合場所, 展示室, 実習室, 講座室, 屋外等)

3 当日の学習プログラムの流れ

☆入館した際、トイレを先に使用してから、オリエンテーション会場に入ります。

☆チケットは、主任の先生が「チケット売場」で、まとめて受取っておいて下さい。(欠席分は引く)

(1) オリエンテーション(児童向けのオリエンテーション約20分)=先生とボランティア員とのミーティング *学習プログラムの確認、生徒の様子など申し送りなどを行います。

★博物館紹介(映像)―運営担当の職員(指定管理者)が行います。

ア マナーを含めた映像を準備しています。『みゅー爺』と『アム』というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設の紹介、展示品の紹介を、掛け合い言葉により行います。

イ 本時の「ねらい」の確認

*事前の下見調整において確認された内容の「めあて」を司会が読み上げます。

*博物館での約束(マナー)を、児童・生徒と一っしょに声に出して読み合わせて確認をします。

ウ ボランティア紹介(当日の対応は指定管理者が行います)

*当日の学習プログラムの、ボランティア員(誘導ボランティア員)を紹介します。

*展示室や屋外(民具体験)では(展示ガイドボランティア/体験サポートボランティア)の紹介があります。

(2) 博物館において学習活動を展開する

- ・児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように、博物館、指定管理者、ボランティア、教師、保護者が連携して、博物館での学習を支援します。(安心安全な学習環境、主体的な学習を展開)
- ・体験では、実物に触れることで、子どもたちに感動の場を提供します。

(3) 体験学習(観覧体験のサイクル)

- ・観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数になると屋外での体験を先に行うクラスと、館内での観覧学習を先に進めるクラスを設定しています。
- ・体験資料(用具)や解説場所の関係上、少人数のグループ編成をしていただきます。

(4) まとめ

- ・一日の観覧・体験が終了した際に、博物館のホールや屋外の広場でまとめを行っています。基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら進行します。博物館側からは、当日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加します。

(5) 博物館における学習活動を、次の学習に生かす

- ・博物館での活動を通して、分かったこと疑問点を確認。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査。
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。

*博物館には、情報センターがあり、学習内容の研究を行うことができます。

発 展 ★生徒用フリーパスの活用を呼び掛けて下さい

4 学習プログラムの組み立てについて

学習プログラム・・・学校が団体に博物館を利用する際に、学習内容等を組立てた計画

- (1) 学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開などを、学校の実態に合わせて編制します。
- (2) 学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- (3) プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。
⇒申し込みの際に、情報センターとの調整になります。
- (4) 学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- (5) 実施計画は、当日の天候や渋滞等により、遅れなどといった学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- (6) 学校が博物館を教科単元の時間に活用する場合や、学校行事、サークル活動などさまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- (7) 教育普及担当との調整では、過去の計画案や展示資料の紹介などを行います。
- (8) 教員・保護者(協力者)の博物館での役割配置は、協議しながら決めていきます。
- (9) 先生方と行う下見調整は、プログラムの作成のために実施します。

5 ワークシートについて

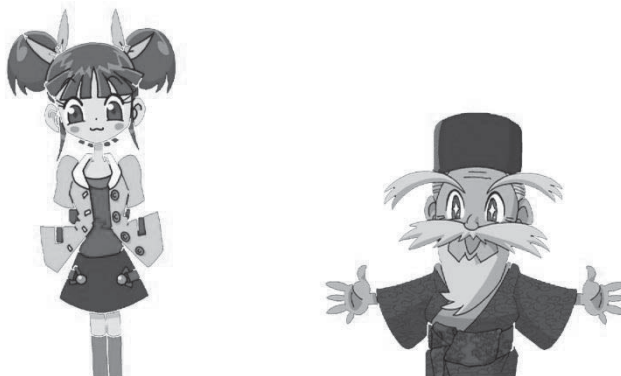
- (1) 学習のねらいをはっきりとさせましょう！

*本時のねらいは？ ・授業の導入、展開、まとめとしての見学なのか？

*博物館のホームページを確認して下さい「博物館学習ノート」がダウンロードできます

- (2) 「博物館学習ノート」を活用し、生徒の実態に合わせた問題構成を考えましょう。
- (3) ワークシートは1コーナーにつき1・2問にし、あとは、感想・気づいたことや気に入ったものが記入できるようにしておくといいでしょう。1問につき回答時間はおよそ15～30分前後かかります。
- (4) ワークシートは記入欄を多くすると、生徒が説明を聞かず、記入することに集中するため、博物館では収蔵品を観ること、ガイドの話聞くことが大切です。

*当日は見学に専念し、学校で振り返り学習することも考えられます。



『アム』と『みゅー爺』

○小学校3年生社会科 「昔の道具を体験しよう」「きょうとしりょう館をたずねて」

- ・ 地域に残る古い道具について～ 知る・ふれる(感じる)・考える・調べる
- ・ 昔の道具の使われ方(当時の暮らしの様子、生活の変化)～ 考える、調べる

* 児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる
～引率の先生が(博物館で)行う授業です!

★博物館が提供できるメニュー

オリエンテーションとA:映像の視聴=(日本民藝館制作。昭和14年頃的那覇の市場などの風景。モノクロ映像)

* 博物館利用のオリエンテーションと合わせて 20分間

* 先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行いません。

* 70年程前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

B:民具解説 (民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます)

15分間

C:民具体験

* ペアで行動。グループ単位で、ローテーションで体験学習をする

1) 運搬に関する道具＝ **バーキ**↓

(魚や作物の
運搬等で使用)



ガンシナ↓



ティール↓



2) 運搬に関する道具＝ **オーダー**↓

(薪の運搬等で使用)



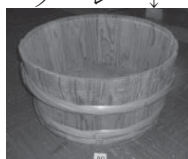
担ぎ棒→

2)3)で使用

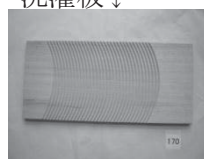
3) 運搬に関する道具＝ **ターグ** →

(井戸水の運搬で使用)

4) 洗濯に関する道具＝ **ターレー**↓



洗濯板↓



5) 着衣に関する道具＝ **アダン葉サバ**↓

(畑仕事等で使用)



クバンヌー↓



クバガサ↓

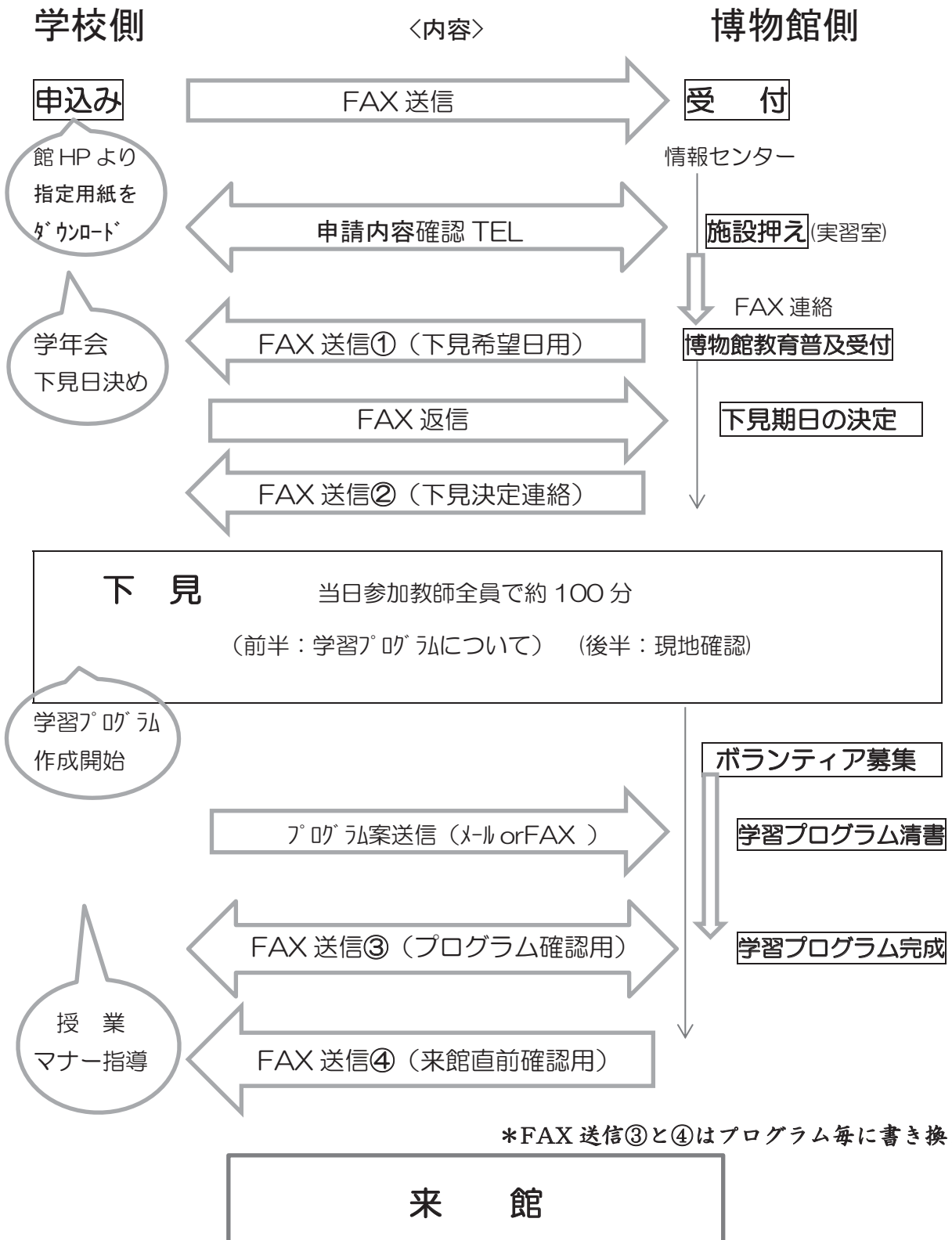


* Dは、取り止めました (総合展示室での模型解説)

E:民俗展示室での展示品解説 ①畑の道具 ②田んぼの道具 ③海の道具 ④台所周辺道具 →2か所選択

* 1か所およそ7分×2か所+移動=15分間

学校団体受入のキャッチボール (博物館を活用した授業)



(池原盛浩)

社会科 ～博物館を利用した学習～

学校名： 小学校 学年 児童 名 (クラス)
 2012/ () :00～ :00 引率教師 名・保護者 名

オリエンテーション:美習室にて
 展示物解説:民俗部門展示室にて
 民具解説:美習室にて
 民具体験:屋外(民家周辺)にて

1 単元名「さぐってみよう昔のくらし」

2 単元目標

3 本時の指導目標

4 目標行動(本時のねらい)

5 博物館学習のポイント

- | |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |
| ④ |
| ⑤ |
| ⑥ |
| ⑦ |

6 観覧の展開(例)

時	内容	教師	博物館	児童生徒
	オリエンテーション(美習室にて)	児童着席指示	職員あいさつ	トイレをすませ入室 着席
	マナー&施設案内映像放映	※児童映像視聴時に担任と誘導ボランティアの顔合せ	観覧順等確認	施設利用の学習
	本時の目標の確認		博物館学習の目標	めあての確認
	ボランティア紹介(誘導)	学級担任のリード	誘導ボランティア紹介(誘導ボランティアは、担任と連携した動きを行う)	出発準備
開始時刻	【学級別観覧】			
	1組	・授業の進行(ボランティアを活用した授業展開)	・オリエンテーション、A、Bの解説は文化の杜が行う。 ・観覧順序に合わせ	【博物館学習】 ・体験(ふれる) ・聴講(知る・考 える) ・観覧(調べる) ・メモ(記録)
	2組		・展示物解説はボランティアが行う(教師の進行に合わせてガイド、質問への回答)	
	選択する民具体験	・探検バッグの有無(学習内容に合わせてクワートの準備)-博物館学習ノート参照一 有・無		※教師やガイドに従ってすみやかに
	□1) 運搬に関する道具(魚など) □2) 運搬に関する道具(薪など) □3) 運搬に関する道具(水) □4) 洗濯に関する道具 □5) 着衣に関する道具(畑)			
	ボランティアの配置			
	A画像解説 B民具解説 C民具体験 E展示物解説 ☆誘導ボランティア	文化の杜対応 (名) (名) (名)		
終了時間	まとめ：感想・お礼の挨拶(全体)	・司会進行(学校対応)		・整列 ・あいさつ

2012/ / () : 00 - : 00 市立 小学校 学年 クラス 名

単元名「さぐってみよう 昔のくらし」

《ねらい》

ポイント

1クラス≡ 名
C:1グループあたり≡ 名
E:1グループあたり≡ 名

ボランティア 名

★ 確認事項

- ①アンケート: 有・無
- ②持ち物: 有・無
- ③名札の準備: 有・無
- ④支援が必要な児童の有無: 有・無
- ⑤来館方法: 有・無
- ⑥その他:

本日の来館団体名	時間/人数	10時	11時	教師/保護者 名
1組	9:30	50	55	
	移動			
2組	9:30	55		
	移動			
3組	9:30	55		
	移動			

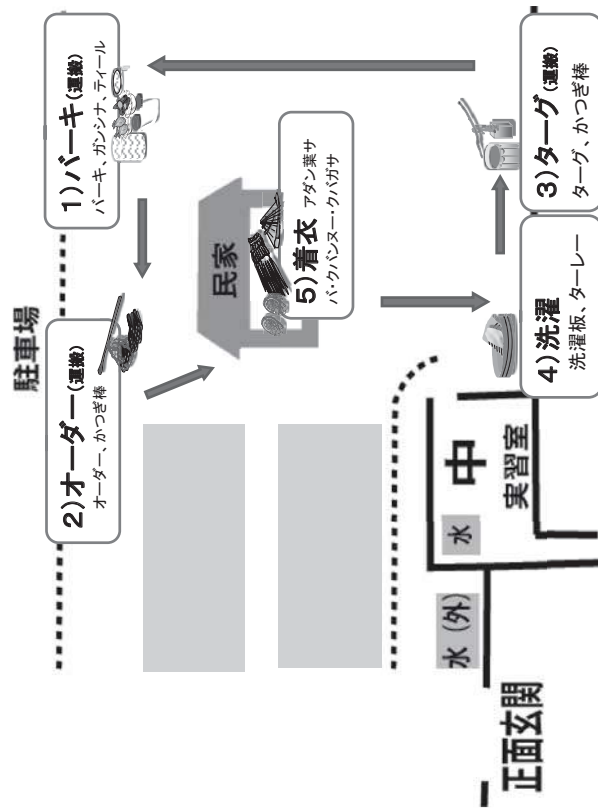
☆ 運動ボランティア...各1~2名

1組	2組	3組
活動見学期ボランティア		

オリエンテーション A:画像解説	文化の杜(中村)	B:民具解説	文化の杜(大瀬)	Bサポート()
C:民具体験サポート...各1~2名 各クラス、グループに分かれ、分交代				
1)運搬に関する道具 =パーキ・ガンシナ、ティール (必要に応じて支援に入ってもよい)				
2)運搬に関する道具 =ターゲット、かつぎ棒				
3)運搬に関する道具 =ターゲット、かつぎ棒				
4)洗濯に関する道具 =洗濯板・ターレー(たらい)				
5)着衣に関する道具 =カハカ・カハンスー・アダン・アサバ				
E:展示物解説...各1~2名 ※2グループに分かれ、0-10分を回る7分交代				
活動見学期ボランティア				

[C:民具体験配置図]

各 分の体験 1グループ約 人 グループの0-10分
1→2→5→4→3
児童1人に付き()つの体験



☆スタート、2分前、移動の合図は電子ホイッスルで。

- ・スタート・・・ホイッスル1回
- ・2分前・・・ホイッスル2回
- ・終了(移動)・・・ホイッスル3回

プログラム例

■ 1クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時				
9:30		50	5	10	30	40		15	20	30
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具解説	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	ト移動 イレ・ 休水	C 民具体験 1・2・5・4・3	移動	まとめ・お礼 (実習室)	

9時		10時				11時					
9:30		50	5	10	25	35		10	15	20	35
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具解説	移動	E 展示物解説	ト移動 イレ・ 休水	C 民具体験 1・2・5・4・3	移動	まとめ・お礼	自由観覧		

■ 2クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時						
9:30		50	55	10	15	40	50	5	20	25	35	
1組	Aオリエンテーション 画像解説(実習室)	移動	B 民具解説	移動	C 民具体験 1・3・5	(移動・ 玄動・ 水)	〇〇タイム トイレ休	E 展示物 解説	移動	まとめ お礼 (実習室)		
		55		10	15	30	45	55		20	25	35
2組		移動	E 展示物 解説	移動	B 民具 解説	〇〇タイム トイレ休	移動 (中)・ 水	C 民具体験 1・3・5	移動	まとめ お礼 (実習室)		

9時		10時				11時						
9:30		50	55			35	45	5	10	25	35	
1組	Aオリエンテーション 画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・2・5・4・3		ト(移動・ 玄動・ 休水)	E 展示物 解説	〇〇タイム	移動	B 民具 解説	まとめ お礼 (実習室)		
		55	5	10	30	40				20	25	35
2組		B 民具 解説	移動	E 展示物 解説	〇〇タイム	ト(移動・ 玄動・ 休水)	C 民具体験 1・2・5・4・3		移動	まとめ お礼 (実習室)		

■ 3クラスの組み合わせ例

		9時				10時				11時			
		9:30	50	55	20	30	45	55	15	20	25	35	
1組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動(中)	C 民具体験 1・5・3		移動(中) 水	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	まとめ お礼 (実習室)		
		55	10	20	25	40	45	55	20	25	35		
		移動	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	E 展示物解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1・5・3	移動	まとめ お礼 (実習室)			
2組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1・5・3	移動(中)	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	まとめ お礼 (実習室)			
		55	10	15	25	50	55	10	20	25	35		
		移動	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	E 展示物解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1・5・3	移動	まとめ お礼 (実習室)			
3組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	移動(中)	C 民具体験 1・5・3	移動(中)	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	まとめ お礼 (実習室)			
		55	10	15	25	50	55	10	20	25	35		
		移動	E 展示物解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1・5・3	移動(中)	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	まとめ お礼 (実習室)			

		9時				10時				11時				12時まで	
		9:30	50	55	30	45	5	10	25	30	45	50			
1組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	C 民具体験 1・5・4・3		ト(移動・水 イ玄関 イレ休)	E 展示物解説	移動	〇〇タイム	移動	B 民具解説	移動	まとめ お礼 (実習室)			
		50	55	15	30	35	10	25	45	50					
		移動	E 展示物解説	移動	B 民具解説	移動(中)	C 民具体験 1・5・4・3	ト(移動・水 イ玄関 イレ休)	〇〇タイム	移動	まとめ お礼 (実習室)				
2組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	B 民具解説	移動	E 展示物解説	移動	〇〇タイム	ト(移動・水 イ玄関 イレ休)	C 民具体験 1・5・4・3	移動	まとめ お礼 (実習室)				
		50	55	10	15	35	40	55	10	45	50				
		移動	E 展示物解説	移動	B 民具解説	移動(中)	C 民具体験 1・5・4・3	ト(移動・水 イ玄関 イレ休)	〇〇タイム	移動	まとめ お礼 (実習室)				
3組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	E 展示物解説	移動	B 民具解説	移動	〇〇タイム	ト(移動・水 イ玄関 イレ休)	C 民具体験 1・5・4・3	移動	まとめ お礼 (実習室)				
		50	55	10	15	35	40	55	10	45	50				
		移動	B 民具解説	移動	E 展示物解説	移動	〇〇タイム	ト(移動・水 イ玄関 イレ休)	C 民具体験 1・5・4・3	移動	まとめ お礼 (実習室)				

■ 4クラスの組み合わせ例

		9時				10時				11時			
		9:30	50	55	15	25	40	55	20	25	35		
1組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	C 民具体験 1⇄4 3⇄5		(移動・水 中)	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	まとめ お礼 (実習室)	
		55	15	20	40	50	5	20	25	35			
		移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動(玄関)	C 民具体験 1⇄4 3⇄5	(移動・水 中)	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	移動	まとめ お礼 (実習室)		
2組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	〇〇タイム	E 展示物解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1⇄4 3⇄5	移動(中)	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	移動	まとめ お礼 (実習室)	
		55	10	30	40	10	25	35					
		移動	〇〇タイム	E 展示物解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1⇄4 3⇄5	移動(中)	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	移動	まとめ お礼 (実習室)	
3組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1⇄4 3⇄5	移動(中)	まとめ お礼 (実習室)		
		55	10	25	30	50	20	25	35				
		移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	B 民具解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1⇄4 3⇄5	移動(中)	まとめ お礼 (実習室)		
4組	A 画像解説(実習室) オリエンテーション	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	移動	B 民具解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1⇄4 3⇄5	移動(中)	まとめ お礼 (実習室)		
		55	10	25	30	50	20	25	35				
		移動	B 民具解説	〇〇タイム トイレ休	移動	E 展示物解説	〇〇タイム	(移動・水 玄関)	C 民具体験 1⇄4 3⇄5	移動(中)	まとめ お礼 (実習室)		

平成 24 年度 県内学校団体受入一覧

〔学習プログラム対応校〕

	学校名	月	日	曜日	観覧時間	学年	クラス	生徒数	保護者数	ボランティア数
1	阿波連小学校	5月	30日	(水)	13:00-15:00	小3・4	1	7	0	5
2	渡嘉敷小学校	9月	12日	(水)	13:00-15:00	小3・4	1	4	0	5
3	具志頭小学校		14日	(金)	9:30-11:30	小3	2	59	0	11
4	津覇小学校	10月	26日	(金)	9:30-11:30	小4	3	79	2	19
5	佐敷小学校		31日	(水)	9:30-12:00	小3	2	64	3	19
6	兼城小学校	11月	1日	(木)	9:45-11:45	小3	4	114	6	17
7	高嶺小学校		8日	(木)	9:30-12:00	小4	2	50	0	20
8	小緑南小学校		13日	(火)	9:30-11:30	小3	4	132	15	24
9	城東小学校		15日	(木)	9:30-11:15	小3	3	105	0	18
10	西崎小学校		22日	(木)	9:30-11:30	小3	3	109	7	18
11	城北小学校	12月	12日	(水)	9:30-11:20	小3	4	135	10	18
12	座安小学校		13日	(木)	9:30-11:30	小3	3	88	0	19
13	識名小学校	2013年 1月	9日	(水)	9:30-11:30	小3	4	123	8	18
14	さつき小学校		10日	(木)	9:30-11:30	小3	3	99	3	15
15	牧港小学校		11日	(金)	9:30-11:30	小3	3	85	12	21
16	上間学校		30日	(水)	9:30-11:30	小3	4	115	12	24
17	城岳小学校	2月	5日	(火)	9:30-12:00	小3	3	97	9	18
18	古蔵小学校 A		6日	(水)	9:30-11:30	小3	2	58	0	18
19	前島小学校		7日	(木)	9:30-11:30	小3	2	45	0	12
20	古蔵小学校 B		8日	(金)	9:30-11:30	小3	2	60	0	18
21	銘苺小学校		14日	(木)	9:30-11:30	小3	4	130	9	17
23	小緑小学校		19日	(火)	9:30-11:15	小3	2	69	8	15
24	石嶺小学校		20日	(水)	9:30-11:30	小3	4	140	0	21
25	真和志小学校		21日	(木)	9:30-11:30	小3	3	88	9	16
26	北谷小学校		26日	(火)	9:30-11:30	小3	4	135	4	21

〔解説補助対応校〕

	学校名	月	日	曜日	時間	種類	対象	人数
1	沖縄工業高等専門学校	5月	12日	(土)	10:00 ~ 12:00	バックヤードツアー	学生	40名(内引率5名)
2	南風原高等学校 郷土文化コース	5月	23日	(水)	10:00 ~ 12:00	企画展展示解説会	学生	27名(内引率3名)
3	渡名喜小学校	6月	5日	(火)	14:00 ~ 16:00	バックヤードツアー	児童	6名(内引率1名)
4	西原小学校	7月	31日	(火)	14:00 ~ 16:00	職員研修	職員	30名
5	西原中学校	8月	1日	(水)	09:30 ~ 11:30	職員研修	職員	30名
6	西原児童館	8月	7日	(火)	09:30 ~ 10:30	バックヤードツアー	親子	30名
7	那覇地区小学校 社会科研究会	8月	7日	(火)	13:30 ~ 15:30	職員研修	職員	30名
8	京都造形芸術大学 通信教育部	12月	14日	(金)	09:30 ~ 10:40	展示解説会	学生	10名(内引率2名)
9	近畿日本 ツーリスト沖縄	2月	20日	(水)	13:00 ~ 15:00	職員研修	職員	15名

Ⅲ 体験学習教室

1 博物館体験学習教室実施要項

(1) 主旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

(2) 内容

博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

回	期日	題	講師名	内容	定員
1	① 12.4.28(土) [13:15~16:30]	紅型にチャレンジ!	城間栄市氏	2日間の日程で、筒描きによる紅型作品を制作。1日目に図柄のデザインと糊置き、2日目に色差しをおこなった。	15組 (親子)
	② 4.29(日) [10:00~13:00]				
2	13.1.20(土) [9:30~18:00]	うこん染で手織り	江谷紋子氏	身近な道具や材料で糸染めと機織りに挑戦。博物館の資料を通して先人の技や思いについて考える。参加者間での鑑賞会も行った。	12組 (親子) と大人6名

(3) 実施日と場所

企画展や特別展、行事、博物館の展示等に関連したテーマに合わせて年間2回程度の実施。3時間を基本とし、内容によって終了時間の調整(昼食時間を設ける等)を行った。場所は、基本として実習室。

(4) 受講方法

- ※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。(公平を期すため、館長もしくは副館長による抽選)
- ※抽選の場合、当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

(5) 体験学習に係る役割

i 前日まで

①	事業起案及び講師依頼	博物館(教育普及担当)
②	マスコミ各社への取材依頼	指定管理者
③	受講生受け付け	指定管理者
④	講師事前打ち合わせ	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	説明資料作製	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑥	材料・道具等の諸準備	博物館(教育普及担当)、指定管理者、講師
⑦	ボランティア事前学習・準備作業調整	博物館(教育普及担当)、指定管理者



「紅型にチャレンジ！」1週間後の糊落とし
ボランティアの指導を受ける子ども



ボランティア向けの事前勉強会の様子

ii 当日運営

①	受け付け及び材料費の徴収	指定管理者
②	開講式 司会	指定管理者
③	講師紹介	博物館(教育普及担当)
④	講座の進行	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	材料等の準備及び配布	博物館(教育普及担当)、指定管理者、ボランティア
⑥	記念撮影	指定管理者
⑦	報償費支払い事務	指定管理者



「紅型にチャレンジ」
模様(柄)の説明をする講師

作品完成後、感想
を発表する参加者



「うこん染めで手織り」講師
が準備した材料と道具の
数々と作品見本



平成24年度

博物館体験学習教室

第1回講座

『紅型にチャレンジ!』



期日 平成24年4月28日(土) 13:15 ~ 16:30
時間 4月29日(日) 10:00 ~ 13:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

4月 28日 (土)	受け付け	13:00	~	13:15
	開講式	13:15	~	13:30
	講座(実習)	13:45	~	16:15
	片づけ・諸連絡		~	16:30
4月 29日 (日)	講座(実習)《色差し》	10:00	~	12:30
	後片付け		~	12:45
	閉講式	12:45	~	13:00

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成24年4月28日(土) 13:15～16:30
4月29日(日) 10:00～13:00

3 対象者

小学校高学年～中学生

4 募集人員

(14)名

5 場 所

博物館実習室

6 日 程

4月 28日 (土)	用具等搬入	11:00	～	
	受付	13:00	～	13:15
	開講式 <実習室> 始めの言葉……司会 (文化の杜:大瀨) 講師紹介……教育普及担当(池原)	13:15	～	13:30
	講 座<実習室> 《 紅型とは 》講師による解説	13:30	～	13:45
	《 下絵描き 》	13:45	～	15:00
	《 のり引き 》	15:15	～	16:15
	後片づけ・連絡等(5/6の糊落とし)		～	16:30
29日 (日)	受付	9:45	～	10:00
	《 色差し・地染め・色止め 》	10:00	～	12:30
	後片づけ		～	12:45
1週 間後 5/6 (日)	閉 講 式 始めの言葉……司会(文化の杜:大瀨) 講師によるまとめ 記念撮影 終わりの言葉……司会	12:45	～	13:00
	水洗い・乾燥～ 各自持ち帰り * 当日朝、桶の水に作品を漬けておく。受講者各自が作品を受け取りに来る。 受講者の対応は文化の杜が行う。			

7 講 師

城間 栄市(紅型作家)

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 事業起案及び講師依頼 | 與那嶺・池原 |
| ② マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ③ 受講生受け付け | 文化の杜 |
| ④ 講師打ち合わせ | 與那嶺・池原・大濱・中村 |
| ⑤ 説明資料作成 | 與那嶺・池原・大濱 |
| ⑥ 報償費支払い事務 | 文化の杜 |
| ⑦ 材料・用具等の諸準備 | 文化の杜 博物館ボランティア |

(2)当日の役割分担

- | | |
|---------------------|-----------|
| ① 受け付け及び材料費の徴収 | 大濱 |
| ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 大濱 |
| 講師紹介 | 池原 |
| ③ 講座の進行 | 大濱 |
| ④ 材料等の準備及び配布 | 博物館ボランティア |
| ⑤ 記念撮影 | 文化の杜 |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

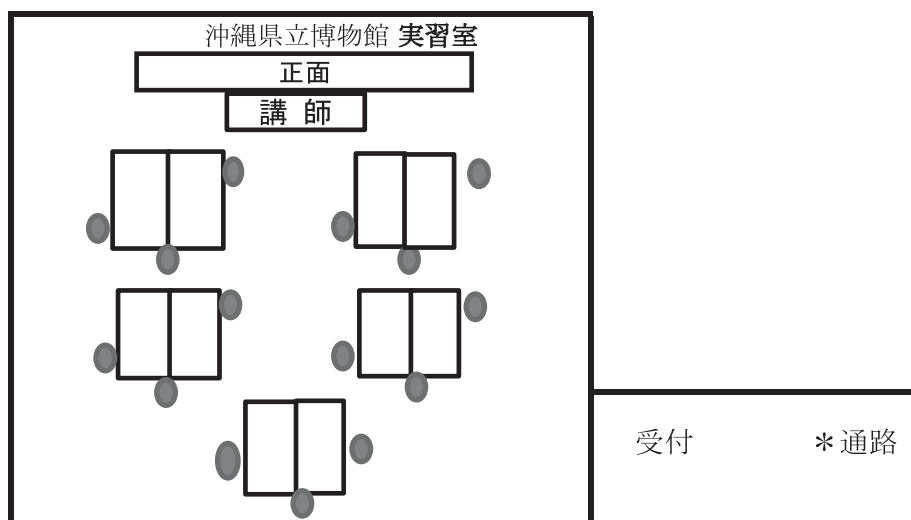
○館側が準備するもの

- ・作業版(博物館)
- ・不織布、型紙見本3種類×5テーブル=15枚(講師)
- ・新聞紙、画鋏(文化の杜)
- ・紙コップ 10色×5テーブル+講師分=約60個(文化の杜)
- ・マジック、模造紙(文化の杜)

○受講生が準備するもの

- 作業ができる服装
- 材料費 1名(1,000)円

10 体験会場



**沖縄県立博物館・美術館アンケート
体験教室【紅型にチャレンジ！】**

【実施】

1日目 4月28日(土)13:15～16:30
2日目 4月29日(日)10:00～13:00

講師:城間栄市氏(染色家)

回答者数 12人

参加人数 12人 / 定員15人(2名は当日、体調不良のためキャンセル)

問1、性別

※単位=人

男性	女性	無回答	合計
1	11	0	12

問2、年齢

9歳	10歳	11歳	12歳	14歳
4	1	5	1	1

問3、交通手段

自動車	モノレール	公共バス	観光バス	バイク	自転車	徒歩	その他	無回答
9	2	0	0	0	0	1	0	0

問4、今回の講座を何で知ったか？

沖縄タイムス	琉球新報	館内チラシ	館外チラシ	ポスター	友の会	ネット	以前に参加して	その他	無回答
1	1	2	7	0	1	0	0	0	0

※館外:学校、自宅

問5、今回の講座に参加するにいたった理由は？

講師に魅力を感じて	タイトルをみて	内容に興味があった	その他
1	1	9	1

※いとこのお母さんが応募していたこと

問6、今回の講座の内容はどうだったか？

たのしかった	ふつう	つまらなかった
10	2	0

問6で「その他」と回答した方へ質問、今後改善すべき点は？

※ 特になし

問8、今まで当館で開催された中で一番たのしかったことを教えてください。

「今回」(他4件)

「いわさきちひろ展」

「紅型の展示会でいろいろな種類の紅型を鑑賞したこと」

問9、博物館でやってほしい教室があれば教えてください。

※ 紅型をはじめとする美術工芸分野の教室を求める声が多い。

美術工芸:「花織」

「紅型」

「陶芸教室」

その他 :「料理教室」(他1件)

「お裁縫教室(無料がいいな)」

問10 先生にメッセージを書いてね。

※今回は、2日間かけて紅型の工程を一通り体験できたこともあり、参加者の満足した様子が伺える。また、人数もちょうど良く、講師と参加者が、コミュニケーションをとりながら作業を進めた点がよかったようだ。

感想

「たのしかった。先生が作るのを見てみたい」

「むずかしかったけど、楽しかった」

「色を塗っているときに楽しかった」

「紅型を教えてくださいましてありがとうございました」(他1件)

「のりを引いて絵をなぞる時が一番楽しかった。紅型をどのように作るのかがわかり、勉強になりました」

「はじめてやったので楽しかったです」(他1件)

「今回の体験教室で紅型の楽しさを再び体感することができました。有難うございました」

「優しく教えてもらったり、アドバイスをもらったので、とても楽しかったです」

「はじめて下書きから色を塗るまでやって楽しかった」

「色塗りなど、超楽しかったです。紅型に「ロボい」を入れることができ、よかったです。また、作りたいです。2日間ありがとうございました！」

○講師（染色家）城間栄市

<事前準備>

- ・ 広報、抽選、応募者への連絡、材料・用具買い出し（中村・大濱）
- ・ ボランティアへの呼びかけ（大濱）

○前日準備

- 打合せ 第1回 1月26日(木)
第2回 4月26日(木)

○体験教室当日

- 日時 2012年4月28日(土)午後1時～午後3時30分（予定より1時間繰上げ）
4月29日(日)午前10時～午後1時（予定より30分繰上げ）
- 参加者 申込者：児童生徒14名 *内2名当日キャンセル
ボランティア（4名）（島袋、長嶺、池間、辻本、當間）
職員（池原、久田、中村、大濱）

3 体験教室の様子

1日目

- 11:00～ 用具等搬入・会場準備
- 13:00～13:15 受付開始
- 13:15～13:20 開講式
・ 初めの言葉(文化の杜：大濱)・講師紹介(博物館：池原)
- 13:20～15:30 実習
・ 講師による解説《紅型とは》13:20～13:30
・ 下絵描き 13:30～
・ のり引き ～15:20
- 15:20～15:30 片づけ、諸連絡

2日目

- 9:45～10:00 受付
- 10:00～12:00 色差し・地染め・色止め
- 12:00～12:30 後片付け
- 12:30～13:00 閉講式 写真撮影

1週間後 5月6日(日曜) 13:30～ 糊落とし/作品持ち帰り

—体験教室の様子と反省—

○打合せ

- ・早い段階から打合せを始めたので、募集も早くかけることができた
- ・過去に旧館でも行ったことのある講座であったため、当時の資料を基に講座内容をスムーズに決めることができた。

○前日準備

- ・講師の準備する材料が多かった。参加した子ども達（初心者）が描けるように工夫した図案を3種類も用意して頂いた。
- ・当日画鋸が不足した。数量に関して準備を徹底したい。

○当日

●受付・開会式

- ・開始5分前には全員がそろっていたため、時間通りに始めることができた。

●展開

【1日目】

解 説／本物の風呂敷(筒描き見本として)と技法解説パネルを使用した講師の解説は、工程を理解する上で参考になった。

下書き／講師が予め用意した図案を元にデザインを始めた。当初図案を書き写す子どもが多いのではと心配したが、子どもたちは図案を自由に組み合わせ、オリジナルな画面を制作していった。世界に一つしかない作品ばかりであった。

糊引き／講師の見本の後、子ども達は黙々と糊引きの作業に取り組んでいた。とてもスムーズに作業が進み、予定時刻より早く終えることができた。

【2日目】

色差し・地染め・色止め／グループごとに7色の顔料を用意。子どもたちは道具をゆずり合いながら色差しを行った。グループごとに講師がポイント解説を行い、子ども達の気持ち(表現したい色や形)をくみ取りながら指導していった。

●閉会式・片づけなど

- ・講師が一人ひとりに作品の好評を行い、子ども達は喜んでいた。
- ・全員で片づけがスムーズにできた。作品は1週間実習準備室で保管乾燥させた。

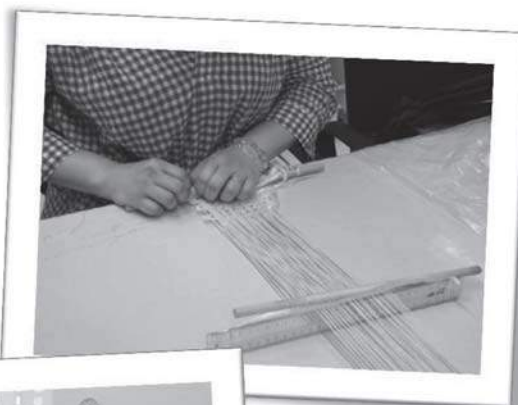
●作品受け取り(一週間後の5/6の様子など)

- ・時間前から参加者が集まり賑わった。
- ・新聞(沖縄タイムスワラビー)でも取り上げられた。
- ・ボランティアの支援もあり、6つの桶に水を張り作品を1時間ほど漬けた。糊はしっかり落ちることができた。
- ・天候にも恵まれ、野外で糊の水洗いが行えた。
- ・糊落としの当日1名のみ欠席で、全員分の作品が仕上がった。
- ・完成した作品は、新聞紙に包み(多少濡れてはいたが)各自持帰った。

平成24年度 第2回講座

博物館体験学習教室

『うこん染めで手織り！』



期日 平成25年1月20日（日） 9:30～17:50
時間

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

午前	受け付け	09:15	～	09:30
	開講式	09:30	～	09:40
	講座(実習)《 糸染め 》 *約2時間30分	09:40	～	13:00

昼食～各自館外にて～(糸の乾燥)13:00～14:00

午後	講座(実習)《 手織り 》 *約3時間	14:00	～	17:10
	後片付け		～	17:30
	閉講式	17:30	～	17:50

1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日時

平成25年1月20日(土) 9:30～17:00

3 対象者

小学校3年生以上～

4 募集人員

親子15組

5 場所

博物館実習室

6 日程

用具等搬入	8:30	～	
受付	9:15	～	9:30
開講式「実習室」	9:30	～	9:40
始めの言葉……司会（文化の杜:大濱）			
講師紹介……教育普及担当（池原）			

講座「実習室」

《 本日の流れ 》 講師による解説	9:40	～	9:50
《 糸染め体験 》		～	
1 かすり糸づくり	9:50	～	10:30
2 うこん染め	10:30	～	13:00
～ 昼食 ～ 糸の乾燥	13:00	～	14:00

講座「実習室」

《 手織りとは 》 講師による解説	14:00	～	14:10
《 手織り体験 》			
1 経糸(たていと)をはろう!	14:10	～	
2 平織(ひらおり)の準備をしよう!			
3 横糸(よこいと)を入れよう!			
4 結んで、糸の始末をしよう!～仕上げ		～	17:10

後片づけ 17:10 ～ 17:30

閉講式「実習室」 17:30 ～ 17:50

始めの言葉……司会(文化の杜:大濱)
講師によるまとめ
記念撮影
終わりの言葉…司会

7 講師

江谷 紋子 (染織家)

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 事業起案及び講師依頼 | 池原 |
| ② ちらし作成 | 文化の杜 |
| ③ マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ④ 受講生受け付け | 文化の杜 |
| ⑤ 講師打ち合わせ | 池原・大濱 |
| ⑥ 説明資料作成 | 池原・大濱 |
| ⑦ 報償費支払い事務 | 文化の杜 |
| ⑧ 材料・用具等の諸準備 | 文化の杜 博物館ボランティア |
| ⑨ ボランティア募集 | 池原 |

(2)当日の役割分担

- | | |
|---------------------|-----------|
| ① 受け付け及び材料費の徴収 | 大濱 |
| ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 大濱 |
| 講師紹介 | 池原 |
| ③ 講座の進行 | 大濱 |
| ④ 材料等の準備及び配布 | 博物館ボランティア |
| ⑤ 記念撮影 | 文化の杜 |

9 準備するもの(材料・用具等)

◎必要な材料・用具

○準備するもの(材料・用具など)

【染め】

- ・かすり台 ・プロピレンひも ・糸
- ・うっちゃん茶 ・みょうばん ・IHコンロ
- ・鍋 ・ボール ・さいばし ・計量カップ
- ・はさみ

【織り】

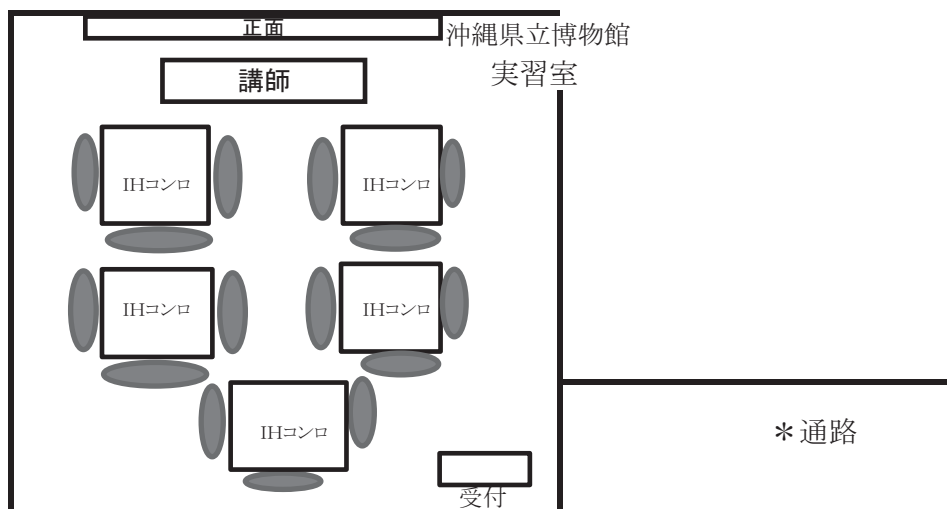
- 織りキット
- ・丸棒30cm×2本 ・ものさし ・厚紙
- ・ひ(釣り具用品代用) ・くし(打ち込み用)
- ・織り糸(経糸・横糸) ・セロハンテープ

○受講生が準備するもの

作業ができる服装




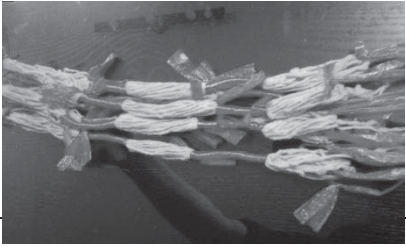
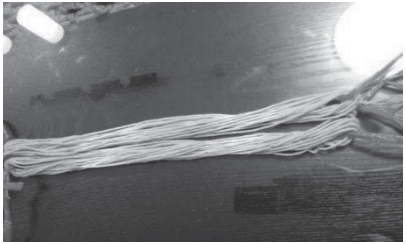
材料費 1名(1,000)円

10 体験会場



2013.1.20 博物館 体験学習教室「草木染めで手織り」

うこん 染め

時間	1の鍋	2の鍋	お話
5分	水__Lに うこん茶葉_____gを入れる 綿糸=_____g		
15分	沸騰させる		染める糸の準備 括り（くく）の説明
20分	沸騰したら、中火で煮出す		括り準備
7分	いったん火を消す うこん茶葉を取り出す 染液に糸をつけて、火にかける		染液にちゃんと浸るように注意する。
15分	沸騰したら、中火にしてひたす		媒染剤を使う理由 媒染剤の作り方の説明
20分	火を止める さめるまで浸しておく	媒染剤をつくる 水__Lにみょうばん を糸の重さの3%とかす (今回は3%=約3g)	
20分		糸を媒染液の中に浸す 	媒染液にちゃんと浸るように注意する。
5分	染液に戻す 沸騰させて火を止める		
20分	糸を入れてさます		
20分	水に色が出なくなるまで洗う 絞り干す 乾燥したら括りをほどいて 仕上がり		洗い方の説明 括りのほどき方の注意

2013.1.20 博物館 体験学習教室「草木染めで手織り」 絣糸作り

1. 絣台に糸を巻く

注意

- ゆるくなり過ぎないように、均一に巻く
- 糸は_____回 巻く
- 最後は、始めの部分の糸と結ぶ



2. 絣部分をくくる

注意

- 白く残す所をビニールひもでくくる
- ひもとひものすき間をあけないように
ていねいにくくる
- 染液がはいらないように、「強く」くくる
- 最後は、外れないように 2回結ぶ



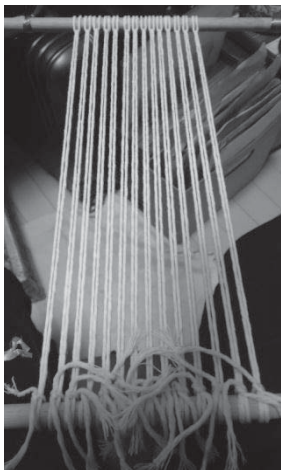
3. 仕上げ

注意

- 糸がからまないように、ビニールひもで結ぶ
- 糸が切れないように、ていねいに台から外す



2013.1.20 博物館 体験学習教室「草木染めで手織り」 織り

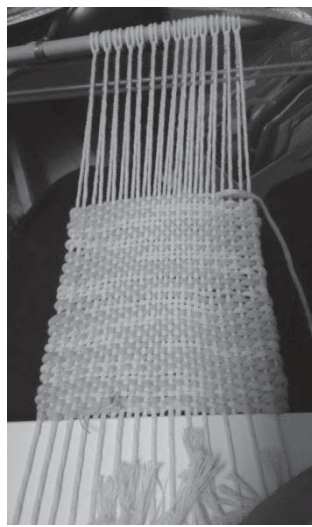
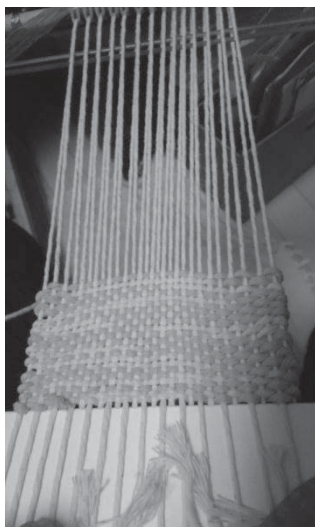
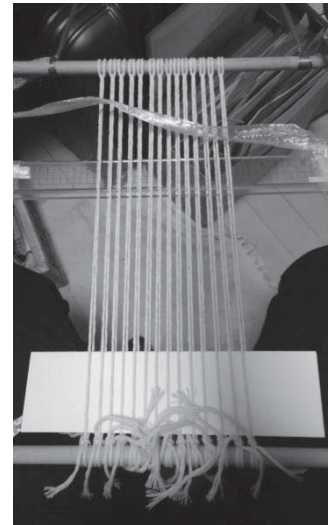


1. 縦糸(たていと)をはろう!

- 1 番の棒に _____ 本の糸を結ぶ
- 2 番の棒に中央から結ぶ

2. 平織り(ひらおり)の準備をしよう!

- 定規で右の糸を 1 本ずつすくう
- 定規はビニールロープでとめよう
- 厚紙で左の糸を 1 本ずつすくう
- 厚紙もビニールロープでとめよう



3. 横糸(よこいと)をいれよう!

- 定規をたてにして糸を開き、横糸をいれる (右の糸が上になる)
- 左の糸を一本ずつ、すくって横糸をいれる (左の糸が上になる)
- 糸を変える時は、3cmくらい重ねていれる

☆よこ糸をまく道具を _____ という



4. 結んで、糸の始末をしよう!

- 1 番の棒を外し、糸を 2 回結ぶ
- 2 番の棒を外し、糸を 2 回結ぶ
- ふさの部分は長さを切りそろえる

5. 仕上げ!

- 長さを、切りそろえた ふさはくし等でといて、細かくする
- 形を整えて仕上り!



**沖縄県立博物館・美術館アンケート
体験教室【うこん染めで手織り】**

【実施】
1月20日(日)9:30～16:00
(18:00終了予定だが、早く終了した)

講師: 江谷紋子氏(染織家)

参加人数 7組(親子)、大人3人 / 定員15組(1組と2人は当日キャンセル)

回答者数 12人

※単位=人

問1、性別

男性	女性	無回答	合計
1	10	0	11

問2、年齢

8歳	9歳	10歳	40代	50代以上
1	3	2	2	2

問3、交通手段

自動車	モノレール	公共バス	観光バス	バイク	自転車	徒歩	その他	無回答
9	2	0	0	0	0	1	0	0

問4、今回の講座を何で知ったか?

沖縄タイムス	琉球新報	館内チラシ	館外チラシ	ポスター	友の会	ネット	以前に参加して	その他	無回答
1	1	2	7	0	1	0	0	0	0

※館外:学校、自宅

問5、今回の講座に参加するにいたった理由は?

講師に魅力を感じて	タイトルをみて	内容に興味があった	その他
1	1	9	1

※いとこのお母さんが応募していたこと

問6、今回の講座の内容はどうだったか?

たのしかった	ふつう	つまらなかった
10	2	0

問7、問6で「つまらなかった」と回答した方へ質問、今後改善すべき点は?

※ 特になし

問8、今まで当館で開催された中で一番たのしかったことを教えてください。

美術工芸:「糸作り、紅型」

「今回」(他3件)

自然史:「葉脈標本づくり」

問9、博物館でやってほしい教室があれば教えてください。

※ 紅型の教室を求める声が多い。

美術工芸:「紅型」(他1件)

「同じような織りの講座を受けてみたいです」(他2件)

自然史:「虫の標本」

民俗:「沖縄料理」

その他:「ナイトミュージアムではないですが、博物館の探検」

「木材工作」

「カリグラフィー」

問10 先生にメッセージを書いてね。

※一日で糸染め、手織りを行い、難しいと思われたが、参加者からは楽しかったという声をいただくことができた。お子さんも大人も皆が作品を完成することが出来たので充実した時間を過ごすことができたようだ。

感想

「とてもいい体験になりました。ありがとうございました」(9歳女児)

「おもしろかったので、家でもやりたいと思います。ありがとうございました。」(9歳女児)

「ありがとうございました(Thank you it was very fun!)」(10歳女児)

「はじめは難しいと思ったけど、意外と楽しかったです。またやってほしいです」(8歳女児)

「今日は一日に染と織りの2種類の作業を体験させていただきありがとうございました。また先生のワークショップがあれば是非参加してみたいです。ジョートー乾燥機も大活躍でありがとうございました！本当に楽しかったです」(9歳女児)

「今日は楽しかったです。ありがとうございます」(10歳女児)

「今日はとても楽しかったです。来てよかった！本当にありがとうございました」(40歳女性)

「わかりやすい説明ありがとうございました」(45歳女性)

「難しかったけど手伝ってもらい完成できてよかったです。ありがとうございました」(50歳女性)

「とても楽しかったです。子供が風邪で参加できないのが残念でしたが、いただいた材料で家で作ってみます。とってもお得な会でした」(女性)

『うこん染めで手織り』

2013. 1. 20. (日曜 開催)

講 師

博 物 館

文化の杜

ボランティア

調査研究



10/4 (木) 第1回打合せ

講 師：江谷紋子

博物館：池原盛浩 文化の杜：大濱萌子

- ・教室の内容協議（目的、道具、材料、進行、対象年齢、募集人数、ボランティア支援、ボランティア募集、ボランティアの勉強会、今後の日程…）ふれあい体験室（借用キット確認）



工程表(案)作成



日程調整



10/16: ボランティア募集開始

* 11-12 月の勉強会並びに当日
終日参加可能な者

第5回移動展 in 粟国 11月16(金曜)~17(土曜)

調査研究



11/30 (金) 10:00~17:00

ボランティア対象勉強会：実習室にて

調査研究

(作業時間配分、工程見直し…)



12/5 (水) 10:00~13:00

道具製作：実習室にて

調査研究

(作品見本準備…)



1/20 (日曜) 9:00~17:00 (予定)

★ 当 日

9:15~ 9:30 受付
 9:30~ 9:40 開講式
 9:40~11:00 道具作り
 11:00~12:00 機織り (開 始)
 ~13:00 ~昼食~
 13:00~15:00 機織り (仕上げ)
 15:00~16:00 草木染 (うっちゃん染め)
 ~16:20 *ミニ講話 まとめ
 16:20~16:30 片づけ
 16:30~16:40 閉講式

○講師（染織家）江谷紋子

<事前準備>

- ・ ちらし作成、広報、抽選、応募者への連絡（中村・大濱）
- ・ 支援ボランティア募集の呼びかけ（池原）

○前日準備

- 第 1 回打合せ&ボランティア向け勉強会第 1 回 11 月 30 日（金）10:00～17:00
 第 2 回打合せ 12 月 11 日（火） 9:30～10:40

○体験教室当日

1 日 時 2013 年 1 月 20 日（日）午前 9 時 30 分～午後 3 時 30 分

2 参加者 申込者：親子 7 組 14 名 *当日 2 組のキャンセル
 大人 6 名
 ボランティア（4 名）（大嵩、島袋、末吉、山根、竹内）
 職員（池原、大濱、中村）

3 体験教室の様子

午前

- 8:30～ 用具等搬入一会場準備
 9:15～ 受付
 9:30～ 9:35 開講式
 ・ 初めの言葉(文化の杜：大濱)・講師紹介（博物館：池原）
 9:35～12:00 実習《糸染め体験》
 ・ 講師による解説《本日の流れ》 9:35～ 9:50
 1 かすり糸づくり 9:50～10:30
 2 うこん染め ～12:00
 ～ 昼食 ～ 糸の乾燥 12:00～13:00

午後

- 13:00～16:00 実習《手織り体験》
 1 経糸(たていと)をはろう！ 13:00～
 2 平織(ひらおり)の準備をしよう！ 13:15～13:45
 ～休憩～
 3 横糸(よこいと)を入れよう！ 14:15～15:00
 ～休憩～

	4 結んで、糸の始末をしよう！	15:10～15:40
15:40～16:00	片づけ	
16:00～16:10	閉講式	
	はじめの言葉…司会(文化の杜：大濱)	
	講師によるまとめ	
16:10～16:20	写真撮影	
～17:00	会場片づけ、ボランティアミニ反省会	

—体験教室の様子と反省—

○打合せ

- ・染めと織の二つの工程を一日でこなすことを前提に行っており、ボランティアの方々と打ち合わせたのが、染めのレクチャーではなく、織りのみのレクチャーを行った。(昨年同様の為) 急ぎよ、当日の開始時間前に染めの説明を行ったが、事前に一連の流れを確認してもよかったと思う。
- ・沖縄らしさを出す点に頭を悩ませたが、講師が工夫を凝らし、ふれあい体験室の資料も使い、伝統的な織りを伝えるよう工夫した。
- ・染めと織り、どちらの工程から先にするかという点においては、始めは、織りから行う予定をしていたが、本来の工程を考えると、染め→織りの順番が正しいと考え、変更した。
- ・講師が、作業工程の流れをわかりやすい形で説明したプリントを作成した。

○前日準備

- ・打合せを進める中で、講師の作業を補助する支援員の必要性が出た。博物館ボランティアに募集をかけたところ、6名のボランティアが応じてくれた。ボランティアには事前勉強会を開催し、実際に講師の準備した道具と作業工程で作品制作をおこない、時間配分のデータを取ることができた。
- ・材料や道具のほとんどは、講師に(絣台など)準備をしていただいた。館側は、机やイス・IHコンロ等を準備した。

○当日

●受付・開会式

- ・親子1組キャンセル(体調不良の為)、大人3人キャンセル(連絡なし)
- ・お天気も良くなり、体験教室日和となった。

●展開

【午前】

- ・絣台に糸を巻き、ビニール紐で結びウコン染めに挑んだ。
- ・予想時刻をはるかに上回る時間で作業が進み予定より1時間早く昼食時間へ入ることができた。
- ・染めた糸を午後の手織りで使用するため、短時間で糸を乾燥する必要があった。しかし、天候不良のため、野外での糸干しが難しかった。そこで、段ボールと布団乾燥機を使った簡易乾燥箱(講師が制作し持参した)を活用し、昼食時間を利用して糸の乾燥ができた。短時間ではあ

ったが、参加者は自身が染めた糸も織り交ぜながら、手織りの作業ができた。

【午後】

・織りの作業では、親子がカラダを向い合せてコミュニケーションをとりながら参加している様子が印象的であった。ただ、朝からの作業の為、中には居眠りをしたり集中力が切れてしまう参加者（子ども）の様子も伺えた。時間に関しては、今後、見直す必要があると思われる。

●閉会式・片づけなど

・片づけはスムーズに進んだ。予定時刻より2時間早く終わることができた。
 ・最後には、成果発表として参加者一人一人に作品を持ち一言コメントを述べていただいた。参加者の満足げな表情を浮かべていた様子が印象的であった。

●その他（作品を完成しての参加者の声、講師の声など）

・参加者からの声には、「時間が長く疲れたが、楽しかった」という意見もあり、時間に関しては少し工夫が必要であったように思われた。
 ・一日で染めと織りを体験し贅沢な時間を過ごすことができたとの意見もあった。
 ・参加者には、染色に興味を示す一般参加者がおり、一連の流れを知ることができて大変満足しているとお話していた。

博物館企画展 沖縄復帰40周年記念「紅型BINGATA 琉球王朝のいろかたち」2012年4月24日(日)～5月27日(日)

平成24年度 博物館体験教室

びん がた

紅型にチャレンジ!

②回 連続講座

1日目	4/28(土)
	13:15～16:30
2日目	4/29(日)
	10:00～13:00

※後日、作品の受け取りがあります。日程については、後日随時します。

参加費 1,000円/1名

対象 小学校4年生～ 中学3年生まで15名

会場 当館実習室

お申し込みは…
 申込期間：3/31(土)～4/14(土)
 申込方法：事前申込制(TEL:事務局)
 ※応募者多数の場合は、抽選。
 ※参加していただける方は4/19(木)までにハガキでご連絡します。

君ならどんなデザインにするかな??

「つつびき」とは…
 ホップクリームを絞る袋によく似た、「縮」と呼ばれる糊袋の先から糊を押し出し、手で描きます。

●開催時間 午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日に当たると場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

おきなわはかりつくりはくつづらん・むしつづらん
 沖縄県立博物館・美術館
 平成24年度 博物館体験教室

1日で糸を染めて→手織り体験!

うこん染めで手織り

午前 9:00～13:00 うこん染め

2013年 1月20日(日) 9:30～18:00(受付9:15) ※休憩1時間

対象：親子15組 (小学校3年生以上のお子さんとその保護者)
 ※親子が優先となります。大人のみ参加は、定員に満たない場合ご参加いただけません。
 ※会場都合上、申込者以外の参加はご遠慮ください。
 ※熱湯を使います。作業中は必ず保護者同伴をお願いします。(小さいお子さんの同伴はできません。ご了承ください)

場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室
 参加方法：事前申込制(来館もしくは電話)
 受付期間：1/6(日)まで
 ※抽選の上、参加いただける方のみ1/10までにハガキでご通知します。

参加費：1組につき1,000円

講師：江谷 紋子氏 (元だにあやこ/染織家)

今回の講座は、糸を拵糸*にして、うこん(うっちゃん)で染めて布を織ります。
 織り機(高機)ではなく地機*で織ります。
 織り機が家に無くても、布が織れます。
 織り機ではできない地機ならではの経糸と緯糸の不思議なハーモニーを味わってもらえと嬉しいです。
 *拵糸とは、経緯物に使われている、糸を織るためのまだらな糸のこと。
 *地機とは、縦物を織る機械。腰かけて織ります。
 *地機とは、斜のない直型の縦織り機のこと。腰でひっぱって織ります。

①拵糸をつくる ②うこんで糸を染める

午後 14:00～18:00 手織り

③モノ/サシなどを使って織ります ④コースターが完成!

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日) 担当：大瀨

IV 博物館文化講座

1 博物館文化講座実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日・日曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：特に指定がない場合は、当館講堂（3F）

(4) 受講方法

当日先着200名（事前申込み不要）

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
419	4月14日（土）	シンポジウム 「語り始めた大地－本部半島でのジオパーク活動」	尾方隆幸 渡久地健 田代豊 上江洲薫 千村次生 伊藤田直史	200	69
420	5月12日（土）	「二つの復帰を経験して」	津留健二	200	66
421	5月19日（土）	シンポジウム「紅型からのメッセージを解く」	長崎巖 伊佐川洋子 名護朝和 平田美奈子	200	235 内第2会場35名
422	6月10日（日）	「博物館と文化財保存」	藤田励夫	200	40
423	7月14日（土）	「冊封使と琉球 ～危険な海を渡る冊封使～」	赤嶺守	200	223
424	10月13日（土）	シンポジウム「復帰後の文化社会」	大城學 新城和博 柳卓 諸見里杉子	200	150
425	10月21日（日）	「泡盛の世替わり～戦後沖縄における泡盛の変遷を中心として～」	萩尾俊章	200	130
426	11月11日（日）	「復帰40年に考える～沖縄歴史はどのように継承されているか～」	新城俊昭	200	105
427	12月8日（土）	「港川フィッシャーの動物の起源を考える」	長谷川善和	200	78
428	12月15日（土）	「港川人研究からみた東アジアの人類史」	海部陽介	200	120
429	2月9日（土）	「坂本龍馬と水中考古学」 －沈没船いろは丸の水中調査から－	吉崎伸	200	68
430	3月9日（土）	「有名？無名？島の生き物たち」	伊澤雅子	200	70

2 文化講座の実施状況

第 419 回 文化講座 シンポジウム「語り始めた大地—本部半島でのジオパーク活動」

日時 2012年4月14日(土) 14:00~16:00 参加者 69名

講師 尾方隆幸(琉球大学教育学部講師)、渡久地健(琉球大学法文学部 人間科学科 准教授)、田代豊(名桜大学国際学群観光産業教育研究学系 准教授)、上江洲薫(沖縄国際大学経済学部 地域環境政策学科 准教授)、千村次生(中央開発株式会社 沖縄支店長)、伊藤田直史(日本洞穴学研究所)

場所 講堂

ジオパークとは、地球科学的な遺産を保全しながら、それを教育やジオツーリズムに活かす「大地公園」で、ユネスコが支援するプログラムとして世界各地で取り組みが進んでいる。沖縄では「本部半島ジオパーク推進協議会」が立ち上がり、2013年度の日本ジオパーク認定を目指した活動が始まっている。本講座では「本部半島はどのようなジオパークを目指すのか?」「本部半島のジオサイト(地球科学的遺産)とは?」「ジオサイトをツーリズムにどのように活かしていくのか?」をテーマに、複数の講師の方に基調講演や事例報告などで解説(話題提供)をしてもらった。地球の大地そのものと人々の様々な関わりを包括するジオパーク。そして今まさに登録を迎えようとする本部半島のジオパーク構想。会場との活発な意見交換も行われ、参観者とともにジオパークのあり方について考える講座であった。



基調講演を行う尾方氏



参観者とともに意見交換



ジオパークに向けての事例報告

第 420 回 文化講座「2つの復帰を経験して」

日時 2012年5月12日(土) 14:00~16:00 参加者 66名

講師 津留健二(沖縄女子短期大学教育支援センター長)

場所 講堂

琉球大学での学生時代に講師の出身地である奄美が日本に復帰をした。同時に当時沖縄に生活していた3~5万人の奄美の人々は「外国人」扱いとなり、様々な権利を剥奪された。沖縄に残った奄美出身者が厳しい生活を強いられた実話の数々は、北緯27度線が目に見えない境界となっていたことを改めて思い起こさせた。米軍のアメとムチの政策の中で、学生会長として沖縄の復帰運動をやり遂げていったエピソードや沖縄で教員として採用される経緯はまさに興味深いものであった。自身が経験した2つの復帰をふり返ると、すべての元凶は戦争に行きつく。沖縄が軍事的に優位な土地というならば、逆に平和の発信地としての位置づけを考えたい。沖縄戦から復帰までの歴史的経緯を押さえ、研究を通じた人材育成をめざすとともに、若者に歴史を伝えていくことは、復帰を経験した者の義務と考える。9月下旬に開催される特別展に向けて、講師の熱いメッセージが伝わる講座であった。



当時の新聞記事を紹介



分かりやすい講話をおこなう津留氏



参観者とともに「復帰」を考える

第 421 回 文化講座シンポジウム「紅型からのメッセージを解く」

日時 2012年5月19日(土) 13:00～16:30 参加者 235名(内第2会場 35名)

講師 長崎巖(共立大学教授)、伊差川洋子(古琉球紅型 浦添型研究所)、

名護 朝和(沖縄県立芸術大学 准教授)、平田美奈子(沖縄県立芸術大学附属研究所 共同研究員)

場所 講堂

長崎氏は基調講演で「紅型の文様は日本の染織意匠の影響を濃厚に受けている可能性がある。それは琉球王朝が当時の日本の武家社会との文化的交流(江戸のぼり等で作法や教養を持つ必要性があった)の中で、支配階層における価値観の共有があったことがその背景にあり、紅型の発展に影響を与えている」という解説があった。大局的な視野に立った解説は、今後の紅型研究に示唆を与えるものであった。

紅型の衣装(着物又は一部柄)を身に着けた県内の3名の講師からは、紅型研究の取組みが説明された。紅型の新たな発展に向けて、浦添型という技法の復元に挑戦した伊差川氏。大学の研究所で数千枚に渡る型紙を調査した平田氏。大学で学生と共に紅型の新たな可能性を探る取組みをおこなう名護氏。いずれもこれまでの紅型の文化を押さえつつ、これからの紅型の可能性についての提言を与えた。開催中の企画展の関連催事としての位置づけの講座として、多くの観客を魅了した内容であった。



進行役の與那嶺学芸員と長崎氏



会場いっぱいの参観者



紅型の魅力を語る3人のパネリスト

第 422 回 文化講座「博物館と文化財の保存」

日時 2012年6月10日(日) 14:00～15:30 参加者 40名

講師 藤田励夫(九州国立博物館保存科学室長)

場所 講堂

紙や絹や木を素材とし、糊や膠(にかわ)といった接着剤を使った文化財は、どんなに大切に保管していても、100年から200年も経過すれば劣化は免れないため、必ず修理が必要になる。博物館は文化財を保存し、研究し、公開する施設であるが、文化財の修理をおこなう施設としての役目を絶え間なく継続していくことも重要である。

九州国立博物館(九博)における文化財の修復事例について、画像を通して分かりやすく説明がおこなわれた。素材ごとに異なる、時間をかけた堅実な修復技術の説明に参観者は驚いていた。

時代を経て文化財を守ることは、修理技術者だけではなく、総合的な他の分野の専門家の知恵や技術、さらに地域の文化財を守る関係者などとの連携によって初めて可能となる。そのような外部の人材の育成についても、大学生の実習受け入れや関係者等への各種研修を九博ではおこなっている。西日本地区の文化財の保存修理を担う九州国立博物館の役目とその重要性を知ることができた講座であった。



九州国立博物館の全景紹介から



丁寧な口調で語る藤田氏



文化財の修復の様子を紹介

第 423 回 文化講座「冊封使と琉球」

日時 2012年7月14日(土) 14:00～16:00 参加者 223名

講師 赤嶺守(琉球大学教授)

場所 博物館・美術館 講堂

琉球王国時代、琉球国王が変わる度に中国皇帝より使者が送られ、冊封(中国の皇帝が、周辺の諸民族の国王を任命すること)がおこなわれていた。この琉球への冊封の回数は、明代に15回、清代に8回もおこなわれ、琉球へ派遣される使者の多くはエリート官僚であり、渡海の経験のない文人であった。当時の琉球への派遣は、海上での風濤の危険や海賊の襲撃など、危険な海を渡る死を覚悟しての異国への旅であり、冊封使たちは筆舌に尽くしがたいほどの恐怖にかられていた。彼らは帰国後に報告書を残しているが、本講座は、それら中国側の文献を講師の絶妙な解説により読み解き、当時の冊封使に思いをはせるものとなった。会場定員を上回る参観者に講師の人気の高さを知るとともに、中国皇帝が危険を承知であえて琉球に使者を送った理由は何か、中国と日本本土との関係、琉球の地理的・歴史的關係性を考える講座となった。



会場いっぱいの参観者



講演をする赤嶺氏



冊封使の書いた古文書を解説する講師

第 424 回 文化講座シンポジウム「復帰後の文化社会」

日時 2012年10月13日(土) 13:30～16:00 参加者 150名

講師 大城學(琉球大学教授) 新城和博(ボーダーインク社) 柳卓(アナウンサー)

諸見里杉子(アナウンサー)

場所 講堂

始めに柳氏より、本土出身アナウンサー採用の背景をはじめ復帰を境に大きく変わった放送局に纏わる話があった。本土に追いつくことが目的の時期から、自身の独自性が余裕を持って語れるようになっていったことが芸能活動を例に紹介された。大城氏からは、伝統芸能における舞踊家の変遷や新聞社主催の芸能コンクールの与えた影響が説明された。また、民俗芸能における映像や音源の記録保存の果たしてきた役割、沖縄独特の民謡ラジオ番組の影響、神事の簡略化と神事から独立したエイサーを代表とする芸能の肥大化の解説があった。新城氏は、復帰後10年ごとの区分とその年代の出来事を挙げながら、来館者ととともに時代をふり返り、沖縄らしさの変容が語られた。後半のディスカッションでは、諸見里さんのコーディネートで、芸能・言葉・風景のテーマについて意見交換が活発におこなわれた。



左から諸見里、新城



4名の講師の絶妙な意見交換



左から大城、柳

第 425 回 文化講座「泡盛の世替り」

日時 2012年10月21日(日) 14:00～16:00 参加者 130名

講師 萩尾俊章(沖縄県教育庁文化財課)

場所 講堂

多くの県民に親しまれ、生活と切り離せない酒・泡盛。沖縄戦により壊滅的な打撃を受けたが、関係者の地道な努力により復興を遂げ、平成23年度の県内泡盛酒造所47カ所の生産量は、沖縄ちゅら海水族館の巨大水槽を容器に見立てると約3杯分にのぼる。

戦争直後の混乱期には、密造酒等の出回りで多数の死者が出るという悲劇も起きた。奇跡的に発見された古酒甕や黒麹菌をもとに泡盛の生産が再開されていった。アメリカ民政府の統治の中、ビール瓶等を再利用した瓶詰泡盛の紹介をはじめ、現在に至る泡盛の容器の変遷が紹介された。1960年代は、洋酒やビールの台頭や低級酒としての位置づけで厳しい時期であったが、1970年代後半に開発された「泡盛1号酵母」の開発成功により、しだいに人気を高めていった。現在頭打ちになっている県外出荷を考えた今後の泡盛産業のあり方への提言もあり、泡盛の文化的価値を高めることを考える講座となった。



美人画で表現された泡盛ポスター



泡盛の変遷とその魅力を語る萩尾氏



第 426 回 文化講座「復帰 40 年に考える～沖縄歴史はどのように継承されているか～」

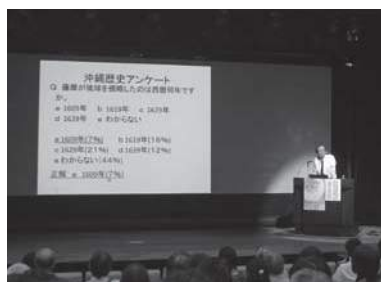
日時 2012年11月11日(日) 14:00～16:00 参加者 105名

講師 新城俊昭(沖縄大学客員教授 沖縄歴史教育研究会顧問)

場所 講堂

戦後米軍による支配時代から日本復帰にいたるまで、米国と日本政府の両方に翻弄され、様々な抑圧と人権を剥奪されてきた沖縄の姿が説明されていった。歴史の一コマ一コマを解き明かすように解説される内容に、ショックと怒り、そしてこれまで多くの県民が知り得なかったことに対するむなしさを感じた。県内高校生を対象におこなった「沖縄歴史に関する知識・意識調査」の結果、意識は高いが、知識は低いという実態が紹介されたが、高校生を含め多くの県民も知り得ていないのが沖縄の歴史ではないか。復帰40年を迎えこれからの沖縄を考えると、きちんと過去の歴史を捉え、それを教訓として考えることが将来を語り、これから歩む道の方向性を見つけることにつながる。

沖縄の歴史を認識し、学校・地域・社会で継承していくことは、物事を深く考え自身の足元を見る力を養い、ひいては世界を知る事につながっていくことを学んだ講座であった。



県内高校生のアンケート



結果の紹介講演をする新城氏



参加者からの積極的な質疑

第 427 回 文化講座「港川フィッシャーの動物の起源を考える」

日時 2012年12月8日(土) 14:00～16:00 参加者 78名

講師 長谷川善和(群馬県立自然史博物館 名誉館長)

場所 講堂

港川人が発見された港川フィッシャー遺跡からは多くの動物化石が発見されている。それら動物化石を分析研究することで今から2万年前頃の沖縄島の環境を知ることができ、それはひいては港川人の研究につながる。沖縄の脊椎動物化石研究を牽引していった氏の解説は、多くの画像を取り混ぜながらわかりやすくおこなわれ、全国各地の動物化石の調査研究を手がけてきた実績から解き明かされる港川フィッシャー遺跡の動物化石の姿に、参観者は当時の沖縄の環境を思い浮かべた。

港川人発見当時、調査隊の一員として関わったエピソードをはじめ、本館開館当時の展示資料づくりの裏話など、現在まで継続している動物化石の研究成果の数々が紹介された。開催中の企画展の関連講演として、展示資料の内容を深めることにつながる講座であった。



副題として“大山盛保さんに捧げる”を掲げ 講演をする長谷川氏



動物化石の研究成果を発表

第 428 回 文化講座「港川人からみた東アジアの人類史」

日時 2012年12月15日(土) 14:00～16:00 参加者 120名

講師 海部陽介(国立科学博物館人類研究部主幹)

場所 講堂

港川人の人骨化石が世界的にみても第一級の資料であることが、世界各地の人骨化石との比較を通して紹介された。また2007年から始まった共同研究(東京大学、国立科学博物館、県立博物館・美術館)の成果が紹介されたが、最新のCTスキャン撮影を活用したデジタル技術による研究は、これまでできなかった人骨化石を多面的に分析し、新たな研究の視点を持たせることができた。さらに重要なのは、地元で調査研究の拠点(本館に人類分野の設置)ができ、若く活動的な研究者が関係機関との連携体制のもと、野外と室内調査を同時におこなっていることである。また、考古学と協調した沖縄の人類史研究がチームとしての体制ができていることも、これからの調査の進展におおいに期待が持てる。

港川人はどこから、どのような方法で来たのか? また、縄文人との繋がりはどうなのか? 港川人の研究が進むにつれ、新たな疑問が次々と出てくる。今後の研究の進展に期待したい。



分りやすい解説で観客を魅了する海部氏



港川人の研究の成果を報告

第 429 回 文化講座「坂本龍馬と水中考古学—沈没船いろは丸の水中調査から—」

日時 2013年2月9日(土) 14:00~16:00 参加者 68名

講師 吉崎伸(財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 調査課長)

場所 講堂

1988年に広島県福山市沖の瀬戸内海で一隻の沈没船が発見された。この沈没船の水中考古学調査をおこなった結果、坂本龍馬率いる海援隊のチャーター船「いろは丸」であることが明らかになった。

このような海底にある沈没船をどのようにして「いろは丸」と判断したのか。汚れた広大な瀬戸内海の海底を、ダイバーが目視で調査するのではなく、ソナーによる音波調査で広範囲のエリアをGPSを活用して視ていく。この調査で海底の様子がデータとして画像判明してくる。その後調査台船を繰り出し、本格的な引き上げ作業を始めていくが、日々変わる天候やダイバーの潜水時間を調整しながら、慎重に水中での発掘調査をおこなうことになる。このような地道な海底での調査の結果、陶磁器や船の船体の一部と見られる木製品や金属製品が引き上げられ、分析によりその正体を明らかにできる。水中考古学の実際を垣間見、歴史の1ページを解き明かすロマンを感じさせる講演であった。



講演会場の様子



講演する吉崎氏



水中発掘調査で明らかになったこととは

第 430 回 文化講座「有名？無名？島の生き物たち」

日時 2013年3月9日(土) 14:00~16:00 参加者 70名

講師 伊澤雅子(琉球大学理学部海洋自然科学科 教授)

場所 講堂

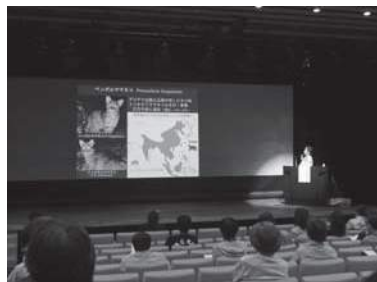
誰もが知っている、または名前を聞いたことがあるイリオモテヤマネコとオオコウモリ、名前をほとんど聞いたことのないヤエヤマツダナナフシ。それら動物の生態や習性について説明を求められた時、果たしてどれだけのことができるのでしょうか。知っているようで、実は何も知らない、沖縄に生息する3種の動物について、オムニバス形式で解説がおこなわれた。

これまでの調査研究から明らかになったそれら動物の生態の解説は、とても面白く興味を引いたが、同時に新たな疑問も生じ、研究の奥深さと継続研究の大切さを知り、考えることができた。

希少種の宝庫として、また島々の固有種を始めとする多くの生き物が生息することで有名な琉球列島。生物多様性のホットスポットと言われ、数多くの動植物を有するこの地域に同じく生きるものとして、有名無名に関わらず、この地域に生きる動物に興味を持ってもらうきっかけになった講座であった。



講師紹介をおこなう千木良副館長



講演会場の様子




解説をおこなう伊澤氏

(池原盛浩)

■■■■ 沖縄県立博物館・美術館 ■■■■
第419回 博物館文化講座

「語り始めた大地 —本部半島での ジオパーク活動—」



ジオパークとは、地球科学的な遺産を保全しながら、それを教育やレジャーなどに活かす「大地の公園」で、ユネスコが採択するプログラムとして世界各地で取り組みが進んでいます。沖縄では「本部半島ジオパーク推進協議会」が立ち上がり、2013年度の日本ジオパーク認定を目指した活動が始まっています。

この講座では「本部半島」というジオパークを目指すのか、「本部半島のジオサイト（地球科学的遺産）とは？」「ジオサイトをツーリズムにどのように活かしていくのか？」をテーマにします。ジオパークは地元の人たちが作り上げるものです。地球科学研究者からの話聴き取りを踏まえ、沖縄のジオパークのあり方について考えます。

キーワード ジオパーク、ジオツーリズム、地球科学、石灰岩、カルスト地形

4/14 土 2012年
午後2時～4時 (開場1時半) **当日先着200名**
入場無料
沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂

■ 講師
「本部半島ジオパーク構想」
尾方隆幸氏 (本部半島ジオパーク推進協議会顧問)

■ 事前報告
「本部半島のサンゴ礁と人」
渡久地雄氏 (琉球大学法文部人間科学科 准教授
地理歴史人類学専攻)

「本部半島のジオサイト」
千村次生氏 (中央開発株式会社 沖縄支店長)

「本部半島のジオツアー」
田代龍氏 (名桜大学国際学教職大学院教育研究学系 准教授)

■ コメンテーター
上江洲 康氏 (沖縄国際大学経済学部地域環境政策学科 准教授)
伊藤田 直史氏 (日本洞穴学研究所)

■ 総合司会
司会：仲里謙 (当館学芸員)・尾方隆幸氏

■ コーディネーター
尾方 隆幸氏 (琉球大学教育学部 自然地理学研究室 専任講師)

【プロフィール】 琉球大学大学院博士課程修了。博士(理学)。日本地理学会賞特別賞受賞者。琉球列島ジオサイト研究會代表。

●開演時間午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合には開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL:098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

■■■■ 沖縄県立博物館・美術館 ■■■■
第420回 博物館文化講座

「二つの復帰 を経験して」

奄美 1953 沖縄 1972

奄美大島出身者として沖縄の地で奄美と沖縄の復帰運動をそれぞれ経験した。沖縄の日本復帰40周年に際し、戦後の南西諸島における米軍統治の概要と日本復帰に至るまでの過程を振り返り、その時に経験したこと、考えたことをお話ししたい。同時にそれらを踏まえ、新しい時代の奄美・沖縄の教育課題について考えたい。

5.12 土 2012年
午後2時～4時 (開場1時半)
沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂
当日先着200名 [入場無料]

講師：**津留健二氏** (沖縄女子短期大学教育実践支援センター長)

【プロフィール】
奄美大島出身、1956年(昭和31年)3月琉球大学卒業後、教育の道を進む。沖縄県立高等学校教諭、教頭、校長。沖縄県教育庁 社会教育部課長、教育次長。沖縄県教育委員会教育長。沖縄県人材育成財団理事長。沖縄女子短期大学非常勤講師、現職。

主な役職：沖縄県第3期生涯学習審議会委員/NPO法人沖縄児童文化館協賛会理事

●開演時間午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合には開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL:098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

沖縄県立博物館・美術館
平成24年度博物館企画展
沖縄復帰40周年記念
紅型 BINGATA
琉球王朝のいろとたち

「紅型からのメッセージを解く」

時間：5月19日[土]
13:00～16:30 (開場12:30)
会場：沖縄県立博物館・美術館 3階講堂
参加費：無料 ※当日先着200名(事前予約不要)

●開演時間午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合には開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL:098-941-8200 ●主催 沖縄県立博物館・美術館

シンポジウムパネリストプロフィール

長崎 隆幸 (Ryūki Nagasaki) 1980年東京都生まれ。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。

伊差川洋子 (Yoko Isagawa) 1983年沖縄県豊後市生まれ。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。

平田美奈子 (Minako Hirata) 1983年沖縄県豊後市生まれ。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。

名瀬朝和 (Tomokazu Nago) 1955年沖縄県豊後市生まれ。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。

與那原一子 (Ikuko Yonahara) 1981年琉球大学教育学部卒業。琉球大学教育学部教授。琉球大学大学院博士課程修了。琉球大学教育学部教授。

4月28日(土)・29日(日) 2日連続開催
博物館体験教室「紅型にチャレンジ」
会場：博物館実習室
講師：名瀬朝和氏(染織部)

5月26日(土) 14:00～16:00 (開場13:30)
4学芸員講座「ウチケイ風紋のこと、あれこれ」
会場：3階展示室(美術工芸担当学芸員)

5月5日(土) 10:00～ 定員に達し次第終了
ワークショップ「みんなで紅型を染める！」
会場：正堂玄関外(雨天時は博物館実習室)

5月6日(日) 15:00～16:00
5月6日(日) 15:00～16:00
5月6日(日) 15:00～16:00
5月6日(日) 15:00～16:00

平成24年度博物館企画展「沖縄復帰40周年記念 紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとたち」
【会期】2012年4月24日(火)～5月27日(日)
【会場】沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展示室・企画展示室
【開演時間】9:00～18:00(金・土は20:00まで) ※入館は開演30分前まで
【休館日】4月20日(日)休館日、翌21日(月)は休館日となります
【入場料】一般：800円(640円)、高：1,500円(1,000円)、小：300円(240円) ※18歳未満の団体割引
沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL:098-941-8200

沖縄県立博物館・美術館
第422回 博物館文化講座




博物館と

文化財保存

2012年
6月10日(日)
午後2時～3時半(開場1時半)
沖縄県立博物館・美術館3F 講堂
当日先着200名 [入場無料]

九州国立博物館では、数回にわたる文化財の保存修理を実施している。当館が開館した2005年に開設されたこの施設は、当館が一般公開された10月16日以前からすでに活動を開始していた。この事実から、文化財の保存修理と公開という一見すると相反する行いが、切っても切れない密接な関係、相互補完の関係であることを示している。

問題に向けて多くの保存修理が必要となったのは、近年の保管の問題があったからではない。紙や絹や木を素材とし、糊や膠(にかわ)といった接着剤を使った文化財は、どんなに大切に保管しても100年、200年も経過すれば接着剤の低下からくる劣化のために、必ず修理をしなければならぬのである。そのため、博物館が文化財を保存し、研究し、公開していく施設であり続けるためには、文化財の保存修理を絶えずことなく継続していく必要がある。

この講座では、沖縄関連文化財も含め、いくつかの修復事例を紹介しながら、後世に残す文化財の保存とは何か、保存のため修復のための行為とは何かなどについて学ぶ。

講師：藤田 励夫氏 (九州国立博物館 保存修復室長)

【プロフィール】
1964年 大分県に生まれる
1990年4月 岡山大学大学院文学研究科前期博士課程修了
1990年4月 岡山大学大学院文学研究科博士課程修了
1990年4月 総務省教育委員会事務局文化財保護課課長補佐
2001年7月 九州国立博物館(保存)設立準備室主任研究員
2005年4月 九州国立博物館保存修復室長 現職に在る

●開館時間午前9時～午後6時(金・土は午後5時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

沖縄県立博物館・美術館
第423回 博物館文化講座

さく ほう し

冊封使と琉球

～危険な海を渡る冊封使～

■キーワード: 中国、琉球、冊封、頒封(はんぼう)、領封(りょうふう)、航海、媽祖信仰(まそじんこう)、海賊

中国皇帝による琉球国王の「冊封」は明代15回、清代に8回おこなわれている。本来「冊封」には、中国が使者を派遣して冊封する「頒封」と冊封国が中国に使者を送り国王に封する詔勅を受領する「領封」があったが、琉球は一貫して中国が使者を派遣して冊封する「頒封」を受けている。

中国から派遣された冊封使は、海上で風濤の危険そして海賊の襲撃にあうといった経験をしている。渡海の経験のない文官使節らは危険な海を渡ることに伴って筆舌に尽くしがたいほどの恐怖にかられていた。

今回の講座では県立博物館・美術館の所蔵する「番使琉球図巻」や「那覇・福州航海図」等を用いて、そうした航海、そして中国皇帝が危険を承知で、あえてこだわった「頒封」のもつ歴史の意味についてお話しする。

2012年
7月14日(土) [入場無料]
14時～16時(開場13時半)
200名(予約不要、当日先着)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

講師：赤嶺 守氏 (琉球大学法文学部教授)

【プロフィール】1953年、那覇生まれ。
琉球大学国史学、国立西沢大学大学院修了(文学博士)
著書:『琉球国史 東アジアのコーナーストーン』
講談社、2004
共著:『那覇の歴史』山川出版社、1995
『琉球・沖縄の歴史』吉田弘文堂、2003 等



主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200
開館時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

第424回 博物館文化講座
復帰40年記念 博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」関連公演シンポジウム

復帰後の文化社会

沖縄の本土復帰から40年。沖縄は、どこをめざして歩んできたのでしょうか? アメリカから大和に変わった沖縄で、変質しないもの、進化したものとは何か...

本シンポジウムでは、文化芸術、マスコミ、サブカルチャーの観点から40年を振り返り、沖縄の形を確認しながら、これからへの思いを語ります。

2012
10月13日(土)
13:30～16:00(開場13:00)
会場: 沖縄県立博物館・美術館 3階講堂
定員: 200名(当日先着順、予約不要) [入場無料]

◆会場内は先着順で定員に達する場合があります。上座および後席をお待ちください。当日は駐車券が確保できる可能性があります。公共交通機関をご利用いただくか、新幹線に乗り換えてご来場ください。

13:30～13:40 挨拶・趣旨説明・講師紹介
第1部 報告 [各20分]
13:40～14:00 柳卓氏 「放浪記に収めた復帰後一瞥」
14:00～14:20 大城 肇氏 「暮らし・祭り・芸術」
14:20～14:40 新城 和博氏 「沖縄に集ったか? 沖縄復帰40年を振り返る」
休憩 [10分]
第2部 ディスカッション [55分]
14:40～14:50 パネリスト: 柳卓氏、大城 肇氏、新城和博氏、コーディネーター: 鎌原豊杉子氏
14:50～15:45 質疑応答 まとめ [10分]
15:45～16:00 閉会の言葉

主催
沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum & Art Museum

●開館時間午前9時～午後6時(金・土は午後5時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200

沖縄県立博物館・美術館
第425回 博物館文化講座

泡盛の世替わり

～戦後沖縄における泡盛の変遷を中心として～

◆キーワード: 泡盛、名酒、世替わり、泡盛酵母一発、県外移出、古酒、泡盛品質表示、ブランド化、付加価値

沖縄戦により泡盛産地も壊滅的な打撃を受けた。人びとの生活に切り離せない酒・泡盛は、戦後の混乱の中、関係者の地道な努力により産業として復興を遂げた。アメリカ統治時代や日本復帰など様々な政治的・社会的・経済的な変動に対応しつつ、泡盛自体も大きく変容するとともに、多くの県民に親しまれる酒へと成長してきた。

本講座では、沖縄の名酒・泡盛について、戦後沖縄における泡盛や泡盛産地の変遷を中心として、泡盛の世替わりの様相を概観し、泡盛の今後を考える機会とした。

2012年
10月21日(日)
14時～16時(開場13時半)
200名(予約不要 当日先着) [入場無料]
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

講師：萩尾 俊章氏 (沖縄県教育庁文化財課史料編集班・副事務班班長)

【プロフィール】
1957年 長崎県生まれ
琉球大学卒業後、筑波大学大学院修了。民俗学・社会人類学専攻
高校教師、県立博物館学芸員、県教育庁文化課等を経て現職。
著書:『泡盛の文化誌』ボーダーインク 2004年
共著:『泡盛の表現: テクノマーケティング』2000年、他
『泡盛泡盛—アジアの酒コードを歩く』ボーダーインク 1996年、他




主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200
開館時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第426回 博物館文化講座

復帰40年に考える

沖縄歴史はどのように継承されているか

復帰40年を迎えた今年5月、県内の高校生を対象に「沖縄歴史に関する高校生の知識・意識調査」を行った。その結果、意識は高いが、知識は低いという実態が明らかになった。たとえば、沖縄歴史を学ぶことは重要としながら、復帰の年月日を正しく答えられた生徒は14%に過ぎなかった。

近年、「琉球・沖縄史」研究はめざましく深化している。しかし、その成果は必ずしも県民の共有財産にはなっていない。「琉球・沖縄史」教育が不十分だからだ。本講座では、「米軍支配時代の沖縄」に焦点を当てながら、今後の「琉球・沖縄史」教育の在り方について追求していきたい。

1945…1972…1982…1992…2002…2012

復帰40年記念 博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」関連公演

11月11日(日) 14時~16時 (開場13時半)

当日先着200名(予約不要) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

講師：新城 俊昭氏
(沖縄大学客員教授、沖縄歴史教育研究会顧問)

【プロフィール】
1950年沖縄県本部町生まれ。立正大学文学部史学科卒業。専門は琉球・沖縄史教育・平和教育。1974年に教職につく。沖縄歴史教育研究会の代表をつとめ、沖縄歴史を高校教育に普及させる運動と平和教育に尽力。主に日本史と沖縄の歴史を担当。2011年3月定年退職。同年4月より現職。主に沖縄の歴史を担当。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200
開館時間：9時~18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第427回 博物館文化講座

港川フィッシャーの動物の起源を考える

港川フィッシャー遺跡から港川人とともに発見された動物化石は、二万年前頃の沖縄島の環境を考える上で大変貴重なものです。このような化石から、どのようなことがわかるのでしょうか。長年、沖縄の脊椎動物化石研究をリードされてきた長谷川善和先生に、化石を通して見た港川人の時代の動物たちについてご講演いただきます。

キーワード：港川、イノシシ、シカ、トゲネズミ、ケナガネズミ、フィッシャー、ヤンバルクイナ、動物遺骸

12月8日(土) 14時~16時(開場13時半) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

講師：長谷川 善和氏
(群馬県立自然史博物館 名誉館長)

【プロフィール】
1930年生。長野県出身。国立科学博物館地質学研究所主任研究官を経て、昭和53年横浜国立大学教授、退官後、群馬県立自然史博物館館長を経て現在は名誉館長。理学博士。専門は古生物。各地で発見される動物化石の調査研究に取り組み、港川フィッシャー遺跡の発掘や出土した動物化石の分析を行っている。【主な著書】『よみがえる恐竜たち』(未來文化社1994)、『フタスズキキリユウ発掘物語』(化学同人2008)『さくらうりやうの世界』(講談社1980)など多数。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200
開館時間：9時~18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第428回 博物館文化講座

港川人が語る

東アジアの人類史

キーワード：港川人、東アジア、琉球列島、人類史、ホモ・サピエンス、世界拡散、旧石器時代

2012年 12/15(土) 14時~16時(開場13時半) 入場無料

200名(予約不要 当日先着)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

講師：海部 陽介氏 (国立科学博物館 人類研究部・研究主幹)

【プロフィール】
1969年東京都生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程中退。理学博士。1995年より国立科学博物館人類研究部に勤務。2007年より東京大学理学系研究科教授(兼任)。専門はアジア地域の人類進化。ホモ・サピエンス(現生人類)のアジアにおける拡散史の研究のほか、ジャワ原人やフロレス原人など、サピエンス以前の人類史についても調査している。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200
開館時間：9時~18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第429回 博物館文化講座

坂本龍馬と水中考古学

一沈没船いろは丸の水中調査から

坂本龍馬率いる海援隊の艦船、「いろは丸」は、その初航海で紀伊半島の暴風と衝突、沈没した。これは後に「いろは丸事件」として幕末史をにぎわす訴訟事件となる。1989年、広島県福山市の浦沖の瀬戸内海で一隻の沈没船が見つかり、2005年までに4回の水中考古学調査が実施された。調査の結果、海産に埋もれた船体が見つかり、そこから陶磁器や木製品、金属製品などが引きあげられた。それらの分析によって沈没船が「いろは丸」であることが明らかとなった。

今回の講座では、沈没船をどのようにして「いろは丸」と判断したか、龍馬はこの船で何をしようとしていたかを解説し、あわせて水中探査、発掘、潜水技術など水中考古学の調査方法についても紹介する。

2013年 2月9日(土) 14時~16時(開場13時半) 入場無料

当日先着200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

講師：吉崎 伸氏
(NPO法人水中考古学研究所、財団法人京都府立文化財研究所)

【プロフィール】
1957年生まれ。岡山県出身。奈良大学文学部史学科卒業。1980年より京都府立文化財研究所に勤務。平安京を初めとした京都府内の遺跡の調査・研究に従事。現在調査部長。その傍ら、NPO法人水中考古学研究所理事長として、水中考古学の普及でも活動している。地中海シリア沖の沈没船や坂本龍馬のいろは丸などの調査を行っている。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200
開館時間：9時~18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第450回 博物館文化講座

有名？
無名？

島の生き物たち

キーワード：鳥類、動物、多様性、沖縄、自然、自然保護、イリオモテヤマネコ、オオコウモリ

沖縄は生物多様性のホットスポットと言われ、多くの固有の生物が分布しています。沖縄全域にいるものから、ほんの小さな島だけにしかないものもいます。イリオモテヤマネコは誰もがその名前を知っています。でも、ほんとうは珍しい動物というだけではありません。オオコウモリは誰もが見たことがあってどこにでもいるという印象だと思います。でも、オオコウモリがいなくて暮らせない植物もいるのです。さらに沖縄には、「何それ？」と思うような、知られていない固有種もいます。

今回の講演ではいくつかの動物をとりあげて、その生態を解説します。これから沖縄の動物達を新しい視点で見てもらうためのきっかけにいただければと思います。

3月9日(土) 2013年

14時～16時(開場13時半)
当日先着200名(予約不要)

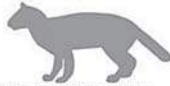
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場には虫籠が張られる場合があります。
上記の虫籠の中にはお持ち帰りできない
※駐車場の混雑による可能性があります。
時間に余裕をもってご来館ください。

入場無料



いづみ まさこ
講師：伊澤雅子氏
(琉球大学理学部海洋自然科学科 教授)



【プロフィール】

九州大学大学院理学研究科修了後、北九州市立自然史博物館で学芸員として勤務。現在は琉球大学理学部、イェネコ、イリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコなどネコ科の社会構造と環境の関係についての研究を進めて来た。あわせて、琉球大学着任後は琉球列島の様々な動物の生態や保全に関する調査を行っている。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL. 098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

V 博物館学芸員講座

1 博物館学芸員講座実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説、実技指導などを通して、県民各層が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：博物館講座室を基本とする

(4) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約はしない。

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
1	4月7日	「クモのMIKATA～ツシマトリノフンダマシがいっぱい～」	千木良芳範	80	46
2	5月26日	「くちくちい」－風呂敷のこと、あれこれ」	與那嶺一子	80	84
3	6月16日	「子どもとユッカヌヒー ヤカジ（中国風の魔除け） を作って子どもの成長を願おう！」	岸本敬	20	30
4	8月18日	「博物館バックヤード探検隊」	池原盛浩	15	31
5	10月20日	「琉球王国時代の石碑ヒストリー」 ～館収蔵の石碑を中心に～	崎原恭子	80	62
6	12月22日	「沖縄先史時代の崖 ^{がいそうぼ} 葬墓」	片桐千亜紀	80	98
7	12月23日	「琉球王国時代の名器三線!! ～甦る音、好きな音～」	園原謙	200	149
8	1月12日	「沖縄にいたシカの話」	藤田裕樹	80	70
9	1月19日	「沖縄化石研究のパイオニア 大山盛保と発見への情熱」	山崎真治	80	86
10	2月16日	「日流同祖論の研究の現状（入門編）」	久場政彦	80	120
11	3月16日	「小学生と中学生のための沖縄歴史講座」	岸本弘人	80	17
12	3月20日	「嘉津宇岳ミニジオツアー」	仲里健	15	15
13	3月23日	「蟹の話はいかがかにかに？」 ～オカガニの調査から見えてきたもの～」	山崎仁也	80	30

2 学芸員講座の実施状況

第1回 学芸員講座「クモのMIKATA～ツシマトリノフンダマシがいっぱい～」

日時 2012年4月7日(土) 14:00～16:00 参加者46名

講師 千木良芳範(副館長・生物)

場所 博物館講座室

沖縄には、日本7大珍クモの5種がいる。その珍クモの中に入るだろう“ツシマトリノフンダマシ”を始め、クモの生態についての解説がおこなわれた。沖縄本島の山間部での、長年の(夜間)観察調査の報告は、参観者に驚きと新たな情報(知見)を与えた。クモの種類ごとに異なる網の張り方や糸についての解説の数々は、専門的内容であるにも関わらず楽しく参観者に聴き入れられた。

世紀の発見?になるだろう“ツシマトリノフンダマシの雄”の、4カ月に渡る観察調査での発見のドキュメント話は、学会報告前の最新情報として参観者を魅了した。クモを研究するものとしてクモの魅力を伝える味方、参観者へクモの見方を伝える両方の意味を含んだ講座になった。



クモに関心のある参加者の方々



講演をする千木良副館長



夜間の観察調査の報告の数々

第2回 学芸員講座「くちくいー風呂敷のこと、あれこれ」

日時 2012年5月26日(土) 14:00～15:30 参加者84名

※座学終了後、希望者に対して展示解説会を実施

講師 與那嶺一子(美工)

場所 博物館講座室

開催中の「復帰40年記念 紅型～琉球王朝のいろとかたち～」の関連催事として位置付けられた講座。講師の博物館採用時の最初の仕事は、収蔵品である600枚の紅型の型紙の整理だった。その時から始まった染織の調査研究の中から、今回はウチクイ(風呂敷)にスポットを当てた解説が行われた。

ウチクイの語源や地域(島々)で異なる発音についての研究がまだ進んでいないという解説から始まり、当館の収蔵資料を中心にウチクイの用途や素材、技法の種類、ウチクイの大きさと布のつなぎ方の関連、そして描かれている文様のパターン数々が細かく紹介されていった。特に模様構成のパターン分けの解説は参観者の興味を引いた。ウチクイの研究は少ない資料からの調査であり、今後も引き続き研究を続けていくことの必要性が説明された。



会場いっぱいの参観者



会場からの質問に答える與那嶺氏



ウチクイの魅力を説明

第3回 学芸員講座「子どもとユッカヌヒー ～ヤカジ（中国風の魔除け）を作って

子どもの成長を願おう！～」

日時 2012年6月16日（土） 10:00～12:00 参加者30名

講師 岸本敬（民俗）

場所 博物館実習室

沖縄に古くから伝わる年中行事の数々。しかし、その多くは時代の変化にともない、本来の目的が間違った形で伝えられたり、方法や在り方が変わったり、さらには行事そのものが失われたものもある。前半は子どもの成長にまつわる縁起物の一つとして、旧暦の5月4日の「ユッカヌヒー」に、家の柱にかけて出産祈願や除魔招福を祈った「ヤカジ」についての解説がおこなわれた。「ユッカヌヒー」が一年で唯一おもちゃを買ってもらえた特別な日であることや「ヤカジ」を飾る意味などの説明がおこなわれた。「ヤカジ」を飾る意味を知った参加者は、ボランティアの協力のもと全員で制作に取り組んだ。複雑な作業工程にも関わらず、ボランティアによる事前準備のおかげで、ほぼ全員が時間内に仕上げる事ができた。



「ヤカジ」の説明をする講師



参加者に年中行事を考えてもらう



ボランティアとともに楽しく制作

第4回 学芸員講座「博物館バックヤード探検隊」

日時 2012年8月18日（土） 10:00～12:00 / 13:30～15:00 参加者31名

講師 池原盛浩（教育普及）

場所 博物館実習室、博物館バックヤード

博物館には、大切な資料を保管・管理する収蔵庫や資料を調査研究する特別な部屋が数多くある。普段関係者以外の立ち入りを制限しているこのような場所をバックヤードと呼ぶが、今回は夏休みの特別企画として子どもたちにそれら施設を探検してもらい、博物館紹介と調べ学習の場とした。

前半、博物館の紹介とそこで働く人々の紹介をおこない、後半はそろってバックヤードに移動。持参した上履きに履き替えをおこないIPMのことを考えた。白い通路と学芸員室を素通りして、少し酸っぱい臭いが漂う自然史実験室へ。動物の化石や骨が所狭しと山積みされている中、子どもたちが興味を持ったのは、透明な液体に色付けされた小動物の標本だった。1階の冷凍庫では、マイナス10℃の世界を肌で体感。近い将来剥製になるかもしれない冷凍された小動物を探した。探検後はミニ報告書（B4サイズ）作成で、博物館の裏側体験を自分の言葉でまとめていった。



自然史実験室を探検中



メモとカメラ撮影で記録中



いよいよ収蔵庫の中へ

第5回 学芸員講座「琉球王国時代の石碑ヒストリー ～館収蔵の石碑を中心に～」

日時 2012年10月20日(土) 14:00～16:00 参加者62名

講師 崎原恭子(歴史)

場所 博物館講座室、常設展展示室

琉球王国時代の沖縄では、記念碑、墓碑、国王の業績を讃える碑、伝来や由来記、名所碑など、石を素材とした多くの記念碑がつくられた。またそれら石碑をはじめ、金属(梵鐘等)や木などに刻まれた文字のことを総称して、金石文(きんせきぶん)という。

はじめに、琉球王国時代(古琉球期、近世琉球期)の歴史的な出来事が説明され、石碑の材質や碑文文字の特徴、周辺に描かれた文様の種類などが紹介されていった。金石文を読み解きながら進める解説により、石碑がつけられた当時の姿がしだいに浮かび上がっていった。後半は展示室に場所を移動し、石碑の大きさや材質、金石文を直接確認しながら、当時の出来事や人々の姿に思いを深めていった。

県内各地に残る石碑を訪ね歩くことをいざなう、魅力的な講座であった。



解説をする崎原学芸員



実際の石碑資料を前に解説(展示室にて)



第6回 学芸員講座「^{がいそうぼ}沖縄先史時代の崖墓」

日時 2012年12月22日(土) 14:00～16:00 参加者98名

講師 片桐千亜紀(考古)

場所 博物館講座室

沖縄の墓は、亀甲墓を代表する独特な形状とともに、葬法の在り方も他府県と異なる形態を持つ。ではこのような沖縄の墓の形態と葬法は、いつ頃から始まったのか。今から3千年ほど前の先史時代からグスク時代にわたる墓制研究の数々が解説され、沖縄の人の墓に対するアイデンティティを考える講座となった。はじめに、先史時代の墓の遺跡として具志川島をはじめとする各地の墓地の紹介があり、立地場所の特徴や葬法の種類について解説がおこなわれた。この時代、崖下のくぼみや洞窟等に自然に形成された天井を持つ空間を墓地とし、風葬・集骨を同一空間で実施することを基本とする。グスク時代以降、洗骨に伴う厨子甕の発生などの変遷はあるが、先史時代の崖墓と共通する要素が数多くある。近世・近代に至るまで、消長を繰り返し引き継がれる沖縄の墓制の研究は、まだまだ奥が深く研究の余地がある。



講座室いっぱいの参観者



沖縄の崖墓を語る



講師の片桐

第7回 学芸員講座「琉球王国時代の名器三線!! ～甦る音、好きな音～」

日時 2012年12月23日(土) 14:00～16:00 参加者149名

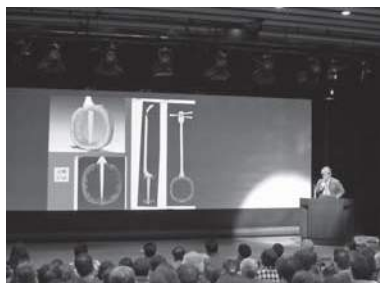
講師 園原謙(美工)

場所 博物館講堂

琉球王国時代から引き継がれる伝統芸能の数々、それら芸能文化を支える中心楽器が三線である。本館収蔵品に三線の名器として「盛嶋開鐘」があるが、今回その内部構造の調査に基づき複製品の製作をおこなった。それら複製品と盛嶋開鐘の棹に、絃(絹糸、ナイロン糸)・棹・チーガ(胴)を取り換え、複数の組み合わせによる発音で聴取実験を行った。事前にそれら三線の音を、人間国宝の照喜名朝一氏に弾いてもらい収録音で対応した。講座の前半はその収録音を編集した音色を聞き比べる実験を24問にわたり実施した。琉球王国当時の音色であったであろう絹糸絃による演奏や、チーガ内部に施された共鳴のための細工による音の変化など耳力が試される参加型の実験に参観者は真剣に取り組んでいた。漆黒の工芸品として、楽器として、家宝として、時代を越えて沖縄の人々の心の拠り所となる三線。次年度開催の三線の企画展に向けて、データ収集と告知の意味を持った有意義な講座となった。



三線の音色聴き比べ実験



CTスキャンによる三線の内部解析



「盛嶋開鐘」の内部の特徴を解説する園原

第8回 学芸員講座「沖縄にいたシカの話」

日時 2013年1月12日(土) 14:00～16:00 参加者70名

講師 藤田祐樹(人類)

場所 博物館講座室

港川人とともにフィッシャーからはシカやヤンバルクイナ等の骨が出土している。今からおよそ2万年前の更新世の沖縄ではシカが豊かに生息し、もしかしたら港川人が捕食していたかもしれない。何らかの理由で絶滅してしまったシカについての謎を、最近の研究成果に基づき解き明かす講座であった。

琉球列島に生息していたシカの種類とその進化の特徴として小型化することの解説、またシカの歯の咬耗をニホンジカと比較して死亡推定年齢を推定した結果、リュウキュウジカが人に狩猟されたとは考えにくいという内容など、仮説を立て、それを一つひとつ検証し結果を導き出す研究者の視点で解説が進んだ。絶滅にいたった説はまだいくつか挙げられるが、気候や植生(食糧問題)や人類の影響など、さまざまな要因と他分野との連携も考慮しながら、シカの絶滅要因を検討していく必要がある。



会場の参観者の様子



解説をおこなう藤田

第9回 学芸員講座「沖縄化石研究のパイオニア大山盛保と発見への情熱」

日時 2013年1月19日(土) 14:00～16:00 参加者 86名

講師 山崎真治(人類)

場所 博物館講座室、企画展会場

大山盛保とは、どういう人物なのか。またなぜ一個人が、人類学研究における世界的にも重要な港川人の発見をおこなうことができたのか。開催中の企画展「大山盛保 生誕100年記念展」その展示内容を補完する形の講座となった。はじめに中城村生まれの大山氏の生い立ちをはじめ、戦後沖縄の激動と混乱期の中で、実業家として活躍された人物の生き様が語られた。強い信念を持ち続けた大山氏だからこそ、3年間に渡る地道な積み重ねの成果として港川人の発見につながった。

後半は、現在本館の調査研究事業として進行中の、ガンガラーの谷やサキタリ洞の発掘現場の紹介と調査研究の成果が紹介された。特に、1万2千年前の人骨化石と石器の発見にいたった紹介は、大山氏の意志を引き継いだ、本館学芸員の情熱が熱く語られ、今後の調査研究への期待がふくらんだ。



会場の様子



企画展の関連催事として解説する山崎



講座後に展示室でおこなわれた解説会

第10回 学芸員講座「日琉同祖論の研究の現状(入門編)」

日時 2013年2月16日(土) 14:00～16:00 参加者 120名

講師 久場政彦班長(民俗)

場所 博物館講座室

大正時代から昭和初期にかけて、言語、民俗、文化人類、歴史、宗教など多くの領域にわたる学問の、後の「沖縄学」の発展につながる沖縄研究の体系を形成し「沖縄学の父」と称された伊波譜猷。彼の、琉球人のアイデンティティ形成を探る研究の一つである「日琉同祖論」。この理論は17世紀の政治家である羽地朝秀にその起源が求められ、蔡温や宜湾朝保により深化し、近代以降は、チェンバレンや鳥居龍蔵などの研究を経て、伊波譜猷によって統合化された。現在、グローバル化の中で顕在化する民族の問題や、国家とアイデンティティの問題の研究をはじめ、テキスト批評が盛んにおこなわれている。複雑化する国際社会の中でこのような伊波譜猷の思想をたどる研究に取り組むことは、沖縄の果たす意義を考え、新たな情報を発信し、共に考える場としての本館の役割の一つではないか。



会場いっぱいの参加者



講演する久場



参加者とともに考える

第 11 回 学芸員講座「小学生中学生のための沖縄の歴史講座」

日時 2013年3月16日(土) 14:00～16:00 参加者17名 小学生3名・中学生1名・大人13名

講師 岸本弘人(歴史)

場所 博物館講座室、常設展示室

日本の歴史は、教科書を通して学校で学ぶことができる。では、沖縄の歴史についてはどうだろうか。今回、講座の参加対象を小学生と中学生とし、沖縄の歴史を博物館の展示資料とあわせて学んでもらう、博物館を教室とした講座となった。はじめに日本本土の歴史区分と沖縄の歴史との比較からおこなわれ、本土とは異なる時代の流れを、キーワードやポイントを押さえて解説していった。

後半は展示室に場所を移し、博物館で展示している歴史資料を実際に見ながら解説がおこなわれた。大交易時代を象徴する進貢船や旧首里城正殿鐘、江戸上りの様子を記録した絵巻物、琉球処分を伝える文書、アメリカ統治時代を象徴するパスポート、本土復帰時に配布されなかった記念メダルなど前半に解説した事を実際に資料を目にすることでより理解することができた。学芸員に質問をしながらメモをとる子どもの姿が印象的で、博物館を活用して沖縄のことを学ぶ子どもを増やすことの大切さを感じた。



日本本土の歴史区分との比較から



展示室での実物を使った解説



真剣にメモをとる小学生

第 12 回 学芸員講座「嘉津宇岳ミニジオツアー」

日時 2013年3月20日(水祝) 10:00～12:00 参加者15名

講師 仲里健(地学)

場所 (館外研修) 名護嘉津宇岳^{かつうだけ}

今年秋頃に、本部半島がジオパークに登録される見込みである。ジオパークとは地球科学的に見て、重要な自然の遺産を含む、自然に親しむための公園と言われる。嘉津宇岳は標高452mの古期石灰岩でできた山で、本部半島の石灰岩とカルスト地形を観察するのに適した山であり、ジオパーク登録後は、ツアー巡りに最適な場所となると考える。

本講座は、当初9月開催予定が台風の接近でいったん中止となったが、参加者からの再開の声を受けて実施にいたった。参加者は小学生から70代の方まで年齢層は幅広く、登山に適した服装と水分持参で臨んでいた。当日天候が不安定な中での出発で、参加者の安全面から途中下山となったが、学芸員がおこなう解説に、皆真剣にメモを取りながら聞いていた。



登山前の出発式の様子



石灰岩の特徴を説明



雲の立ち込める中の登山

第13回学芸員講座「蟹の話はいかがにかに～オカガニの調査から見えてきたもの～」

日時 2013年3月23日(土) 10:00～12:00 参加者30名

講師 山崎仁也(生物)

場所 博物館講座室

1月に開催予定の講座の振替で、参加者の人数が心配されたが、小学2年生の男の子から70代まで、幅広いカニ好き?の参加者が集まった。自己紹介として、学芸員赴任直後の外部からの質問に対応した話からはじまり、教員時代から続けてきた生物調査の数々が説明された。

食文化や昔話の中での、カニにまつわるよもやま話から、しだいにカニの生態について解説が進んでいった。途中の休憩時間でカニの標本の紹介があったが、参加者が積極的に質問をおこなったため休憩時間にはならなかったが、皆満足した様子であった。

日本に生息するカニの種類や生息環境、石垣島や宮城島におけるオカガニの調査など、講師の巧みな話術でたっぷり2時間、カニ三昧の時間を過ごした講座であった。



蟹の標本を食い入るように見る参加者—休憩時間が休憩で無くなった



蟹のあれこれについて解説

(池原盛浩)

クモって
すごいんだよ



キーワード：真正（しんせい）クモ類、クモの糸
クモの網、ツシマトリノフンダマシ
日本七次珍クモ

クモのMIKATA

見方？
味方？

博物館学芸員講座 ツシマトリノフンダマシ がいっぱい！

2012年
4月7日 [土]
14時～16時
(開場13時半) **無料**

千木良 芳範 (当館副館長)
対象：小学生～大人 ※小学生は、大人同伴、80名(事前申込不要、当日先着)

クモといえば、クモの糸(網)を連想するくらい、クモに網はつきます。でも、多くのクモは網を張りません。網を張るクモは、全体の半分くらいのもので、また、多くの蜘蛛がイメージするクモの網は、たいてい丸い形の巻き糸の網でしょう。

ところがどっこい、クモの網にもいろいろあるのです。今回はクモの網のいろいろと、最近、私が出会ったツシマトリノフンダマシというクモの生態をあわせて紹介しながら、クモの網に隠されたクモたちの知恵をみてみます。そして、クモという動物を見直す機会にしたいと思えます。

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

シンポジウムパネリストプロフィール

<p>長崎 義 Iwano Nagasaki</p> <p>1983年東京理科大学理学部数学科理学専攻卒業。東京理科大学理学部数学科理学専攻。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。</p>	<p>伊忍川 洋子 Yoko Inogawa</p> <p>1987年女子美術短期大学造形専攻卒業。東京理科大学理学部数学科理学専攻。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。</p>	<p>平田美奈子 Minako Hirata</p> <p>1983年沖縄県立芸術大学芸術学部芸術デザイン工芸専攻卒業。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。</p>	<p>名瀬朝和 Tomonaka Naoko</p> <p>1983年沖縄県立芸術大学芸術学部芸術デザイン工芸専攻卒業。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。</p>	<p>奥原 一子 Ichiko Okuhara</p> <p>1981年琉球大学教育学部教育実践学専攻卒業。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。2003年東京理科大学理学部数学科理学専攻。</p>
--	--	---	---	---

博物館体験教室「紅型にチャレンジ」

4月28日(土)・29日(日) (2日連続開催)

会場：博物館実習室
講師：城岡栄市(染色家)
対象：小学生～大人 参加費：1,000円
申込期間：～4/14(土)
申込方法：事前申込制(TEL・来館)
※応募者多数の場合は、抽選。
※参加していただける方のみ4/20(日)までにハガキでご連絡します。

ワークショップ「千代紙で琉服をつくる」

4月30日(月祝) 14:00～15:30

会場：1階エントランス
講師：奥原一子(美術工芸担当学芸員)
対象：小学生～大人 参加費：200円 定員：15名
申込期間：～4/15(日) → 追加募集中
申込方法：事前申込制(TEL・来館)
※応募者多数の場合は、抽選。
※参加していただける方のみ4/20(日)までにハガキでご連絡します。

ワークショップ「みんなで紅型を染める！」

5月5日(土) 10:00～ 定員に達し次開催了

会場：正真正外(雨天時は博物館実習室)
講師：琉球びんがた染織協同組合の伝統工芸士の指導
対象：小学生～高校生 定員：当日先着100名
参加費：無料 申込方法：当日10:00～受付
所要時間：15～30分/1度にて体験できる人数が限られています。体験までお持ちいただくことがあります。/作品のお持ち帰りまでお楽しみください。

学芸員講座「ウチケイ」

5月26日(土) 14:00～16:00 (開場13:30)

会場：博物館実習室
講師：奥原一子(美術工芸担当学芸員)
対象：一般 参加費：無料
定員：当日先着80名

学芸員による展示解説会

① 紅型 BINGATA の歴史
4月29日(日) 15:00～16:00
② 紅型 BINGATA の技法と色
5月6日(日) 15:00～16:00
③ 紅型 BINGATA の文様
5月20日(日) 15:00～16:00

会場：2階展示会場
講師：奥原一子(美術工芸担当学芸員)
参加費：当日入場券が必要。定員：なし
申込方法：開催までに会場にお集まりください。

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

ヤカジ

子どもと「ユツカヌヒ」
子どもたちの成長を願おう！

キーワード：ユツカヌヒ、ヤカジ、張り子、ハーリー、テンピン、ポーポー

博物館学芸員講座
2012年
6月16日 [土]
10時～12時
(開場9時45分)

沖繩県立博物館・美術館
1階 博物館実習室
岸本 敬 (民俗担当学芸員)
対象：20組(小学校3年生～大人)
※ただし、小学生の場合は、保護者同伴。

古くから沖縄に伝わる年中行事の数は、子どもたちが重要な役割を担って参加することも多く、大きな楽しみでもありました。なかでも旧暦5月4日の「ユツカヌヒ」は、子どもたちにとって一年で唯一おもちを焼いてもらえる最も楽しい日でした。また、おもちがわが子が元気な育つようにとの願いを込めた縁起物でもありました。「ヤカジ」も中国風の魔除け、出産祈願やユツカヌヒに家の柱にかけて、除魔招福を祈ったものです。

今年の6月23日(土)は、旧暦5月4日にあたります。手作りの「ヤカジ」を家に飾って、沖縄の人々の子どもの誕生や成長を願う心情に触れてみましょう。

申込期間：～6/7(木)
申込方法：事前申込制、抽選(TEL・来館)
※作業をする際、はさみを使います。参加者の責任のもと、ご参加ください。
※応募者多数の場合は、抽選となります。
※応募者多数の場合は、親子が優先となります。
※参加していただける方のみ6/11(月)までにハガキでご連絡します。

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

博物館 バックヤード探検隊

たんけんたい
(うらがわ)

探検隊になったつもりで、普段はみることのない博物館の裏側を調査してみよう。

2012年
8月18日 [土]
10時～12時
(開場9時45分)

沖繩県立博物館・美術館
1階 博物館実習室
池原 盛浩 (教育普及担当学芸員)

約1時間、バックヤードツアーに参加した後、探検報告書を作ります。これで夏休みの宿題もばっちり! 家族や学校の先生、お友達に君が調査した博物館のウラガワを教えよう。

対象：15名(小学校3年生～中学校3年生)
申込期間：～8月4日(土)
申込方法：事前申込制(TEL・来館)
※会場の都合上、申込者以外の参加はできません。お子様の参加とさせていただきます。但し、集合場所への送迎は保護者の責任のもと、行ってください。
※応募者多数の場合は、抽選となります。
※参加していただける方のみ8/8(水)までにハガキでご連絡します。

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館(中村)

※雨天のため、3月20日に延期・実施

嘉津宇岳ミニジオツアー

ジオ(geo)とは、「大地」「地球」という意味です。

山登りレベル中級
①小学校5年生以上の健康で体力に自信のある方
②軽登山靴をお持ちの方
③沖縄の地形の特徴を体感したい方
参加費：500円(1人/保険代/当日集金します)

参加条件

嘉津宇岳(かつ3分) 認知
嘉津宇岳は島の南に300mの高さの嘉津宇岳で成り立っています。標高は845m(45m)、(45m)と、カラスの形を形似し、貴重な動物が暮らしていることから、標高47に「嘉津宇岳の天然記念物(天然記念物)」に指定されています。

博物館学芸員講座

2012年

9月15日 [土]

10時~12時45分
(現地集合・解散)

名護市 嘉津宇岳

講師 仲里 健 (地学担当学芸員)

対象：15名(小4~大人、但し小中学生は保護者同伴)
申込期間：8/18(土)~9/1日(土)
申込方法：事前申込制(TEL、来館)

※応募者多数の場合は、抽選となります。
※参加していただける方のみ9/5(水)までに八万までご連絡します。

ジオツアーとは、地球科学(地理学や地質学)の専門家による解説を聞きながら、自然景観の仕組みや成り立ちを読み解くツアーです。今回は、嘉津宇岳に登り、本部半島の石灰岩とカルスト地形について学びます。

■日程【予定】
10:00 嘉津宇岳集合→10:05~10:20 事前説明(15分)
→10:20~11:30 登山(1時間10分)
→11:30~11:50 登頂・解散(20分)
→11:50~12:40 下山(50分)→12:40~12:45 まとめ・解散
※現地集合、現地解散となります。※安全管理のため、雨天中止とさせていただきます。(前日が雨の場合も中止)※参加者には、後日詳細をお伝えします。

服装：①帽子②長袖③長ズボン④軽登山靴
⑤両手が空くカバン⑥軍手⑦飲み物(500ml以上がベスト)⑧タオル

嘉津宇岳に初めて登ったスタッフの感想
講座の下丸のめり中頃に登りました。前日、本部宮に挑戦し、頂上まであと3メートルのところでアツシに。今回は大丈夫だから、という希望を抱きながら、その道を歩いた。時には両手を使って登る必要があり、時には息を吐き出す必要がありました。頂上からは見えない三角のぼつぼつした山が360度見渡すことができます。地中や岩壁では味わえない感動が、全体感に響いた知識を得ることができました!

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館(中村)

石碑ヒストリー

~館収蔵の石碑を中心に~

キーワード: 琉球王国時代、石碑、古文書(徳久幸太郎)、板本、歴史文化、琉球王国時代(琉球)、琉球文化、琉球(琉球)、琉球(琉球)、琉球(琉球)、琉球(琉球)、琉球(琉球)

重修天女橋碑記エピソード
①円庭池の中之島に建つお室に納められたお宝
②重要文化財「天女橋」の名前の由来
③碑に刻まれた「2つの創建年」

写真: (左)天女橋 (右)重修天女橋碑記(拓本)

博物館学芸員講座

2012年

10月20日 [土]

14時~15時半 無料
(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館 1階 博物館講座室

崎原 恭子 (歴史担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

琉球王国時代の神職では、記念碑、墓碑、国王の業績を讃える碑、由来記、名所碑など、多くの石碑がつけられ、刻まれた文字からは、王国時代の歴史や人々の考え方を学ぶことができます。

本講座では、当館に収蔵されている石碑のうち、琉球王国時代に造られた「安国山崩花木之冠碑(1427年[県指定有形文化財])」、「真珠波碑文(1522年)」、「重修天女橋碑記(1744年・1798年)」を通して琉球王国時代の歴史やそれを取り巻く研究について、また、戦災を受けながらも、現在貴重な文化財として保管・展示されている各石碑にまつわるエピソードなどもお話しします。

※講座終了後、希望者を対象に実際に石碑を見ながら、「展示解説会」を行います。(30分程度)
会場: 博物館常設展示室/当日入場券が必要(講座参加者には、博物館講座室内で団体料金にて入場券を販売します。)

次期予告: 11月17日(土)に予定していた学芸員講座は、講師の都合により12月23日(日)に変更となります。

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

「沖縄先史時代の崖葬墓 —風葬と岩陰の墓の起源を探る—」

博物館学芸員講座

2012年

12月22日 [土]

14時~16時 無料
(開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館 1階 博物館講座室

片桐 千亜紀 (考古担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

沖縄は岩陰を利用した墓が卓越しており、伝統的に風葬が行われてきました。琉球王国時代から近代は、そのような葬儀の最盛期とも言えるでしょう。日本本土とは大きく異なるこのような葬儀は、沖縄人のアイデンティティーのひとつであると考えられます。

では、風葬と岩陰の墓—崖葬墓は、いつの頃から営まれてきたのでしょうか。古く時代?縄文時代?考古学的手法による発掘調査成果によって明らかとなった先史時代の墓について、みんなで考えてみましょう。

※予告: 1月12日(土)「沖縄にいたシカの語」藤田祐樹(人権)

写真: (左)ササリシロの発掘現場 (右)先史時代の崖葬墓 (右)先史時代の崖葬墓

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

「琉球王国時代の 名器三線」

一聴る音、好きな音—

「耳力のある受講者を求む。」

受講者自身がモニターとして、その自慢の耳でもって、好む三線の音色を選んでもらう参加型の講座を行います。三線好きの方、ご参加ください。

※受講者には、聞き取り調査のご協力をお願いしますので、筆記用具をご持参下さい。

※人間国宝の照喜名朝一先生に三線盛崎間健を弾いていただいた収録音での聞き取り調査となります。ご了承ください。

沖縄県指定有形文化財「三線盛崎間健(附冊)」の冊には録音があり、凹凸の加工が施される。

博物館学芸員講座
2012年

12月23日 [日]

午後2時~4時 無料
(開場1時半)

沖縄県立博物館・美術館 3階 講堂

定員:200人
(事前申込不要、当日先着)

園原 謙 (美術工芸担当学芸員)

琉球王国時代から国家戦略の一つとして用いられてきた楽器。それを支えた中心楽器が三線である。名工によって製作された三線は、漆黒の工芸品として、楽器として、また家宝として、時代を越えて沖縄の人々の心の拠り所となってきた。

三線の名器に「開隆(けいりゅう)」がある。いくつかの開隆三線の中でも、首座といわれるのが旧琉球王家伝来の「盛崎間健」。

その冊には、咸豊拾年(1860年)の銘がある。

今回の講座では、王国時代の三線の音とはどんな音だったのか、その音の再現を試みる。また、盛崎間健のようにチーガの内部形状の差異による音の違いがあるのか、またコクタンやユキシなどの材質や異型型と与那城型などによる音の違いがあるのか、楽器としての三線について新しく。

●開館時間:午前9時~午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

博物館学芸員講座「沖繩にいたシカの話」 キーワード：シカ、化石、縄文、島の動物、島嶼化、小笠原、琉球列島、津川人、ヒトの移動、縄文文化
写真：(上)リュウキュウシカ化石 (下)化石調査風景

沖繩にいたシカの話

沖繩県立博物館・美術館 × 八重瀬町具志堅歴史民俗資料館
合同企画展「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」関連展覧会【会期：2012年12月(金)～2013年1月18日(日)】

2013年
1月12日 土
14時～16時 無料
(開場13時半)

沖繩県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
藤田 祐樹 (人類担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

数万年前の沖繩には、何種類かのシカがいました。沖繩諸島には2種の小型シカが、宮古には大型シカ、八重山には1種の小型シカがすんでいましたが、2万年前ごろまでに全て絶滅してしまいました。これらのシカはどんな動物で、なぜ絶滅してしまったのでしょうか。また、数万年前に渡ってきたと考えられる津川人たちは、シカを捕まえて食べたのでしょうか。研究の歴史や、最近の研究がわかってきたこと、今も残される謎についてご紹介します。

予告：1月18日(土)「沖繩化石研究のパイオニア大山盛保と発見への情熱」山崎真治(人類担当学芸員)

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たるときは開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖繩県立博物館・美術館

博物館学芸員講座「沖繩化石研究のパイオニア 大山盛保と発見への情熱」 キーワード：大山盛保、発見への情熱、津川人、サキタリ洞遺跡、磁石器時代、ガンガラーの骨
写真：(上)サキタリ洞遺跡出土の沖繩人の石器 (下)サキタリ洞遺跡出土の2000年前のヒトの骨

沖繩化石研究のパイオニア 大山盛保と発見への情熱

沖繩県立博物館・美術館 × 八重瀬町具志堅歴史民俗資料館
合同企画展「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」関連展覧会【会期：2012年12月(金)～2013年1月18日(日)】

2013年
1月19日 土
14時～16時 無料
(開場13時半)

沖繩県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
山崎 真治 (人類担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

戦後の沖繩で実業家として活躍するかわら、八重瀬町津川フィッシャー遺跡をはじめとする県内各地の発掘調査を手がけ、沖繩の化石研究を切り開いた大山盛保さん。その生涯と津川人発見に傾けられた飽くなき情熱を紹介するとともに、現在、沖繩県立博物館・美術館が実施している南城市サキタリ洞遺跡(ガンガラーの谷内)の発掘調査の様子や、新たに発見された1万2千年前の人骨や石器の意義についてもわかりやすく紹介します。

講座終了後、開催中の博物館企画展「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」の展示解説を行います。
時間：15:30～17:15(時間までに会場入口にお集まりください)
会場：3階 企画展展示室
※当学芸員(大人300円)が必要です。

予告：1月26日(土) 山崎仁也(生物担当学芸員)

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たるときは開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖繩県立博物館・美術館

※雨天のため、3月23日に延期・実施

博物館学芸員講座「蟹の話はいかがにかに?」 キーワード：甲殻類、十脚目、蟹、オカガニ、オオカガニ、カニ歩き
写真：オオカガニの調査風景

蟹の話はいかがにかに?

～オカガニの調査から見てきたもの～

博物館学芸員講座
2013年
1月26日 土
14時～16時 無料
(開場13時半)

沖繩県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
やまざき じんや
山崎 仁也 (生物担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

予告：2月16日(土) 久場政彦(民俗・博物館班班長)

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たるときは開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖繩県立博物館・美術館

オカガニのなかまは、その名のとおり陸で生活しますが、幼生期を海で過ごすため、繁殖期になるとメスが放卵のため海岸に降りてくることで有名です。オカガニ *Discoplax hirtipes* は、個体数が多く大型であるため、5～12月の満月前後の夜、満潮時刻に県内各地の海岸で多数のメスが現れ、一斉に全身を激しく震わせて放卵する行動がよく観察されます。しかしながら、実はオカガニの生態に関する研究はあまりなされておらず、まだ謎も多いのです。今回の講座ではオカガニを中心に、古くから食用として、また身近な生き物として親しまれてきた「蟹」にまつわるお話をします。

キーワード：日琉同祖論、伊波普猷、羽地朝秀、近代国家、主体性

日琉同祖論研究の現状入門編

博物館学芸員講座
2013年
2月16日 土
14時～16時 無料
(開場13時半)

沖繩県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
久場 政彦 (博物館班班長・民俗)
80名 (事前申込不要、当日先着)

予告：2月23日(土) 山崎仁也(生物担当学芸員)

●開館時間：午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日(月曜が祝日に当たるときは開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖繩県立博物館・美術館

日琉同祖論とは、日本人と沖繩人の民族的な起源が同一であり、これを学術的に立証することでその正当性を主張する理論のことです。同祖論は、17世紀の政治家・羽地朝秀にその起源が求められ、蔡璉や丘舜侯により深化しました。近代以降は、チェンバレンや島居龍藏などの研究を経て、伊波普猷によって統合化されました。しかし近年では、羽地を起源とする説は否定され、これを主張した近代以降の沖繩研究者の姿勢を批判的に検証する研究が増えています。また、当時の研究者が日琉同祖論を主張した思想的な意味なども主要な研究テーマとなっています。本講座では、日琉同祖論研究の現状を紹介するとともに、今後の課題について考察します。

ナンバープレート
 OOKAWA
 85102
 OOKAWA MOTOR ENGINEERING CO.

沖縄県立博物館・美術館
 学芸員講座「小学生と中学生のための 沖縄の歴史講座」

はじめてみよう！
 親子で沖縄の歴史の勉強を

旧首里城正殿鐘
 進奏船

小学生と中学生のための
沖縄の歴史講座

知っている言葉があったら、チェック！

博物館学芸員講座

2013年
3月16日 土
14時～16時
 (開場13時半)
 沖縄県立博物館・美術館
 1階 博物館講座室

岸本 弘人 (歴史担当学芸員)
 80名 (事前申込不要、当日先着)

グスク 第一・第二尚氏 琉球絶命
 冊封 大交際時代薩摩侵攻 沖縄戦
 通商 ペリー アメリカ統治時代

「歴史がちょっと気になる!」「歴史が好き!」「将来は歴史学者になりたい!」と思っている小学生、中学生のみなさんのために、沖縄の歴史と博物館の展示が、ざっくりわかる教室を開きます。沖縄に人が住みはじめてから現在まで、いくつかのポイントをあけてお話しするので、沖縄の歴史を知らなくても、全体の流れがわかるようになります。50分の授業のあと、展示室と一緒に見学します。これで君も歴史博士だ!

■お父さん、お母さんへ■
 小学校6年生から歴史の勉強がはじまります。教科書だけではなく、博物館で本物の歴史資料を見ながら勉強すればより歴史を身近なものに感じることができます。この機会に、お子さんと一緒に家族で沖縄の歴史を学んでみませんか? 50分の講座の後、展示室に移動して展示と一緒に見学します。

対象: 小学4年生～中学3年生とその家族
 (お子さんごみの整理も可)
 ※博物館・常設展を案内します。お子さんは無料ですが、大人は入場券が必要です。(大人400円)

●開館時間午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

VI 展示解説会

1 博物館展示解説会実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学ぶことができる。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第3木曜日午後2時～3時までの1時間

場所：博物館常設展示室

(4) 受講方法

定員なし（事前申込不要、13：55にふれあい体験室に集合）

(5) 日程

	日程	分野	講師名	参加者	ボランティア
1	4月19日（木）	民俗	久場 政彦	30	15
2	5月17日（木）	地学	仲里 健	11	10
3	6月21日（木）	美術工芸	園原 謙	26	11
4	7月19日（木）	美術工芸	與那嶺 一子	18	11
5	9月20日（木）	民俗	岸本 敬	25	16
6	10月18日（木）	生物	山崎 仁也	9	3
7	11月15日（木）	人類	藤田 祐樹	28	12
8	12月20日（木）	人類	山崎 真治	14	8
9	1月17日（木）	歴史	岸本 弘人	18	11
10	2月21日（木）	歴史	崎原 恭子	20	8
11	3月21日（木）	考古	片桐 千亜紀	18	8
合計人数				217	113

2 実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、博物館ボランティアが全体の約 50% を占め、その他年間パスポートや友の会会員等、リピーターの参加が定着している。また、個人のリピーターのみならず、病院や大学などの団体も連続して参加していた。常設展の展示解説会は、各学芸員が 1 回ずつ担当し、全 12 回 217 名（定員なし、平均参加人数 18 名）の参加を集めた。

企画展・特別展における展示解説会では、全 8 回 349 名（定員なし、平均参加人数 43 名）の参加者があった。

企画展「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」では、学芸員による解説会（全 4 回 255 名／平均参加人数 63 名）を実施した。各回ごとに「歴史」「技法と色」「文様」とテーマを決めて解説したことでリピーターを集めることができた。また、企画展復帰 40 年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」では、全 2 回 40 名（定員なし、平均参加人数 20 名）、沖縄県立博物館・美術館×八重瀬町具志頭歴史民俗資料館合同企画展「大山盛保生誕 100 年記念発見への情熱」では、全 2 回 64 名（定員なし、平均参加人数 32 名）が参加した。（大瀨・中村）

学芸員による展示解説会 定員なし

	日程	テーマ	講師名	参加者	ボランティア
1	4月29日（日）	「紅型 BINGATA の歴史」	與那嶺 一子	50	-
2	5月6日（日）	「紅型 BINGATA の技法と色」	與那嶺 一子	75	-
3	5月20日（日）	「紅型 BINGATA の文様」	與那嶺 一子	90	-
4	5月26日（土）	「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」	與那嶺 一子	40	-
合計人数				255	0

学芸員による展示解説会 定員なし

	日程	テーマ	講師名	参加者	ボランティア
1	10月6日（土）	「Okinawa から沖縄へ」	岸本 弘人	14	3
2	10月27日（土）	「Okinawa から沖縄へ」	岸本 弘人	26	6
合計人数				40	9

学芸員による展示解説会 定員なし

	日程	テーマ	講師名	参加者	ボランティア
1	12月20日（木）	「大山盛保生誕 100 年記念 発見への情熱」	山崎 真治	14	8
2	1月19日（土）	「大山盛保生誕 100 年記念 発見への情熱」	山崎 真治	40	2
合計人数				54	10

Ⅶ バックヤードツアー

1 バックヤードツアー実施要項

(1) 主旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事のできない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

(2) 内容

普段見る事のできない博物館内の各部屋を見学する。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第1土曜日午後2時～3時までの1時間

場所：博物館バックヤード

(4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から総合案内にて受付。

定員：12名（当日先着順）

(5) 実施状況

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室(書庫)～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やIPM(IntegratedPestManagement:総合的病害虫管理)の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行客を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。全13回142名(定員12名、平均参加人数11名)の参加があった。

(中村愛)

(6) 日程

	日程	講師名	定員	参加者
1	4月21日(土)	久場 政彦	12	9
2	5月5日(土)	池原 盛浩	12	12
3	5月19日(土)	久場 政彦	12	8
4	6月2日(土)	山崎 仁也	12	14
5	7月7日(土)	園原 謙	12	13
6	8月4日(土)	與那嶺 一子	12	12
7	9月8日(土)	片桐 千亜紀	12	12
8	10月6日(土)	岸本 敬	12	11
9	11月24日(土)	崎原 恭子	12	7
10	12月1日(土)	仲里 健	12	12
11	1月5日(土)	岸本 弘人	12	12
12	2月2日(土)	山崎 真治	12	9
13	3月2日(土)	藤田 祐樹	12	11
合計人数			156	142

※5月19日は、国際博物館の日

VIII 夏休み！博物館学芸員教室

1 夏休み！博物館学芸員教室実施要項

(1) 主旨・目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

(2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通じた、沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

(3) 実施方法

対象：県内の小学生・中学生

実施日：平成24年7月25日（水）から7月27日（金）まで

時間：10：00～16：00 ＊1教室およそ90分程度

定員：各分野20名程度（当日先着順）＊教室によって変更あり

参加料：無料

場所：実習室を中心に。

(4) 受講方法

①各分野の担当学芸員日程表をちらし等で表示し、参加者を募る。

②事前申込制 ＊応募者多数の場合抽選

③各担当学芸員の指示のもと、諸注意を守り受講する。

2 実施状況

日時	7月25日（水）		7月26日（木）		7月27日（金）	
10:00 ～11:30	博物館の庭の植物で 昔あそび 小3～中3（小学生は保護者同伴）/無料 岸本 敬（民俗）	参加者 7組 /10組	海の砂の中から宝を探せ 小3～中3（小学生は保護者同伴）/無料 仲里 健（地学）	参加者 9組 /9組	沖縄の伝統的な民家を調査せよ 小4～小6/無料 久場 政彦（博物館館長/民俗）	参加者 8人 /10人
13:00 ～14:30	神が宿る石「勾玉」を削りだそう！ 小1～中3（小3以下は保護者同伴）/無料 片桐千亜紀（考古）	参加者 20人 /20人	動物と生き物の関係を研究せよ 小1～中1（小3以下は保護者同伴）/300円 藤田 祐樹（人類）	参加者 20人 /20人	千代紙で琉服を作って、考える！ 小3～中3/200円 與那嶺 一子（美術工芸）	参加者 11人 /15人
15:00 ～16:30	ぼく、わたしのルーツを調べよう 小4～中3/無料 崎原恭子（歴史）	参加者 7組 /15組	生き物の自由研究 い・ろ・は！ 小4～中1/無料 山崎仁也（生物）	参加者 19人 /20人	印じゃなあい？ 小3～中3（小学生は保護者同伴）/1,000円 園原謙（美術工芸）	参加者 9人 /10人



ソテツの葉で虫かごづくり！



ゴシゴシ削って勾玉づくり！



沖縄の伝統的な民家を調査中



どこまでたどれる!?私のご先祖様



砂の中から宝石を見つけたぞ！



歯の形に注目！何を食べる生き物？



ちりめんモンスターのデータを収集！



つくってみよう！琉服ってどんな服？



印刃で名前の一文字を掘ってみよう！

7月25日(水)

民俗 博物館の庭にある植物で昔あそび
博物館の庭にある植物でつくりかせることができる、昔ながらの「おもちゃ」を紹介し、実際にソテツの葉で「虫かご」などをつくりかえます。



時間 10:00~11:30
対象 小3~中3 (小学生は保護者同伴)
講師 岸本 敬(民俗担当)
参加費 無料 定員 10組

考古 神が宿る石「勾玉」を削りだそう!

琉球王国時代、「勾玉」は神女にとって欠かせない神具でした。それは、石を丁寧に削りだして作り上げたのです。私たちも石を削りだしてモノを作る方法を学びましょう。



時間 13:00~14:30
対象 小1~中3 (小3以下は保護者同伴)
講師 片桐 千亜紀(考古担当)
参加費 500円 定員 20人

歴史 ぼく、わたしのルーツを調べよう

あなたはご先祖様をどこまでたどれるか!? 家族の広がり調べて家系図を作り、自由研究にするヒントを教えます。

時間 15:00~16:30
対象 小4~中3
講師 崎原 恭子(歴史担当)
参加費 無料 定員 15組



7月26日(木)

地理 海の砂の中から宝を探せ



海の砂をよく見ると、様々な生き物のかけらが見つかります。白い砂も、実はある生き物の死がいて知ってる? 顕微鏡を使って観察します。

時間 10:00~11:30
対象 小3~中3 (小学生は保護者同伴)
講師 仲里 健(地学担当)
参加費 無料 定員 9組

生物 動物の歯と食べ物の関係を研究せよ

歯を見ると彼らが、何を食べているのか、わかるんです! 肉食動物なのか? 植物食動物なのか? それとも雑食動物なのか? 観察のポイントを伝授します。歯の骨格レプリカをつくって、研究材料にしよう!

時間 13:00~14:30
対象 小1~中1 (小3以下は保護者同伴)
講師 藤田 祐樹(人類担当)
参加費 300円 定員 20人



生物 生き物の自由研究い・ろ・は!

自由研究やろうかな? でも難しそうだな... どうやってやればいいのか... 自由研究の仕方、あれこれ伝授します。はじめの一歩からデータの取り方、処理までを、身近な動物や植物を使って一緒に学びましょう!

時間 15:00~16:30
対象 小4~中1
講師 山崎 仁也(生物担当)
参加費 無料 定員 20人



2012年 夏休み 博物館学芸員教室

場所 博物館実習室

面白くてためになる。答えを教えるものではありません。子どもたちに疑問を抱きかきかけ、その疑問を解決する方法を伝授します。

7月27日(金)

民俗 沖縄の伝統的な民家を調査せよ

沖縄の伝統的な民家には、どのような特徴があるのかな? 気候風土や生活文化などの視点から一緒に考えてみよう!

時間 10:00~11:30
対象 小4~小6
講師 久場 政彦(博物館班長/民俗担当)
参加費 無料 定員 10人



美術 千代紙で琉服を作って、考える!

着物はどんなふうにつくられているのかな? シャツやスカートと何が違うのかな? 色? 形? いえいえもっと明らかな違いがあるのです。きれいな千代紙を使って、ミニ着物を作りながら考えます。

時間 13:00~14:30
対象 小3~中3
講師 與那嶺 一子(美術工芸担当)
参加費 200円 定員 15人



美術 印じやなあーい?

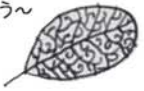
博物館のあちこちに展示されている書、絵、文書など。さて、そこにおかれているものが「印」です。自分の好きな文字でオリジナルの「印」をつくらう!

時間 15:00~16:30
対象 小3~中3 (小学生は保護者同伴)
講師 園原 謙(美術工芸担当)
参加費 1,000円(印刃、印材を含む) 定員 10人



そのほかの催し 7・8・9月毎週土曜日

ふれたい博士の「葉脈標本」
~葉っぱの骸骨(維管束)でしおりをつくらう~
時間 ①10:00/②10:30/③11:00/④11:30
対象 5才~大人(小3以下は保護者同伴)
受付 当日先着40人(各回10人) 参加費 100円
場所 1階エントランスホール



学芸員講座 「博物館バックヤード探検隊」 8月18日(土)

時間 10:00~12:00
講師 池原 盛浩(教育普及担当)
対象 15人 小3~中3
参加費 無料 場所 博物館実習室
申込方法 事前申込制(TEL・来館)
申込期間 7月21日(土)~8月4日(土)
*抽選の上、参加していただける方のみ8/8(水)までにハガキで通知

申込方法

事前申込が必要です。参加したい講座を第2希望まで選択し、当チラシに応募の必要事項をご記入の上、FAX・郵送・来館(総合案内)にて、ご提出下さい。

申込期間 7月4日(水)~16日(月祝)

*応募者多数の場合は、抽選となります。
*当選者のみ7/20(金)までにFAX、またはハガキで通知します。
*電話での申し込みはできません。
*郵送・来館の場合は、コピーした用紙を提出して下さい。
*当チラシは、当館HP でダウンロードできます。
www.museums.pref.okinawa.jp

<FAX> 098-941-2392 <TEL>098-941-8200
<宛先> 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 文化の杜共同企業体
夏休み! 博物館学芸員教室係(担当: 波部)

応募票	住所 〒	—	自宅 TEL・FAX
	名前 ふりがな		携帯 TEL
	(本人)	(保護者)	
年齢	才 (小・中 年生)	参加希望の講座の番号	第1希望 第2希望

*応募には保護者の承諾が必要です。 *個人情報保護法に基づき、応募票に関する個人情報の取り扱いについては十分留意します。
*第1希望の抽選にもれた方は、定員に達していない教室がある場合、第2希望に回ります。 *第1希望と第2希望は、別の教室を選択してください。

■本催事の実施について

*「ポップ体文章」は平成23年度からの継続課題

- 平成25年度も、博物館の各学芸員が、子どもを対象とした教室を開く
- 原則として、博物館の全学芸員が教室〔分野ごとに1コマの教室〕を持つ。但し、展示会担当者等は除く。

■要項確認の流れ（班会議提案の流れ）

- 次年度計画（各種講座一覧）作成時に、各学芸員へ通知（～12月）
 - *自身の教室のテーマをイメージする～（教室受講で完結するのではなく、その後自由研究への発展につながることを意識—受講後の相談日を見据えた内容をイメージ…）
 - *2月完成の館パンフレットに、本催事の日程（期日）を明記する
- 新年度開始時（4月第2週目）の班会議で、実施要項の確認提案
 - *日時・教室名・対象学年・募集人員・参加費などを決定（4月末に「**具体的な教室内容表**」を提出）

■通知について（チラシ作成—配布） →（受益者負担/展示室入場料…）

- チラシは文化の杜が作成する
- 6月中旬の納期を目標に、各学芸員からの教室案の提出（4月末に「**具体的な教室内容表**」を提出）
- 前年度同様の部数を印刷し、近隣の小学校を中心に配布する。（*アンケート集計参照）
 - *燻蒸期間前の、6月中旬～下旬に配布 *H24は10,000部のチラシ作成で約1%弱の応募
- 広報の在り方については、引き続き研究をおこなう
 - *しばらく同等の部数のチラシ作成と配布を続け、夏の博物館催事としての定着を図る
- 文化の杜のチラシ配布作業と広報活動に感謝 今後も「**広報のあり方の研究**」を続ける

■「教室の日程(コマ)の研究」と開催日程について 別紙「教室日程案」参照

- 平成24年度は夏休み前に応募期間を設けた結果、締切後に問い合わせがあった。夏休みに入ってから親子で検討した様子が伺えるため、夏休み入りから1週間後への日程の移動とする。*抽選結果通知期間も考慮
- 火曜日開始は、休館日明けの連絡対応の不備が考えられるため、水曜日からの開催とする。
- 1日3コマの教室で3日間の実施であったが、時間延長や*人気教室（*アンケート集計参照）への対応として、1日2コマ3日間の開催とする。*配置等が大きく変わらない教室を同日に組む

■「子どもを対象とした教室の研究」について

- 「子どもを対象とした教室の研究」を、学芸員は継続して進める
- 原則として、小学校高学年（3年生以上）を対象とした教室とする

■保護者の参加のあり方について

- 保護者の参加のあり方は、教室ごとの判断とする。（道具の扱い問題、親子一緒に体験活動の必要性—）
 - *教室終了後、家庭での自由研究を見据えた場合、親の付き添いや見学を伴った方が良い事もある。
 - 但し乳幼児の連添いは検討を要する（可：意義が失われる、不可：参加辞退者が出る）。

■ボランティアの募集について

- 学芸員が作成する「**具体的な教室内容表**」にボランティア協力希望の有無を明記する
- ボランティア向けの事前講習会を開催し、当日にのぞむ *学芸員の判断

■教室終了後について

- 各学芸員は、「終了後の相談日時」を提示する（当日のレジュメなどで呼びかける）

*各教室終了後に、共有ホールなどで当日の様子をパネル紹介する（*他来館者へ、自由研究の参考になる）

■その他

- ネーミングの研究 ・受付方法の研究 ・博物館と文化の杜との、綿密な情報交換と役割分担
- 各学芸員が作成する「**具体的な教室内容表**」の研究

Ⅸ ふれあい体験室

1 ふれあい体験室の概要

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物(体験キット)は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感を通して体感できる操作や組立てるなどの遊びを通じて学ぶことで、展示資料を深く学ぶことが出来ます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてがふれることのできるものとします。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されています。来館者が自主的に触れることが出来る様にするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先祖の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

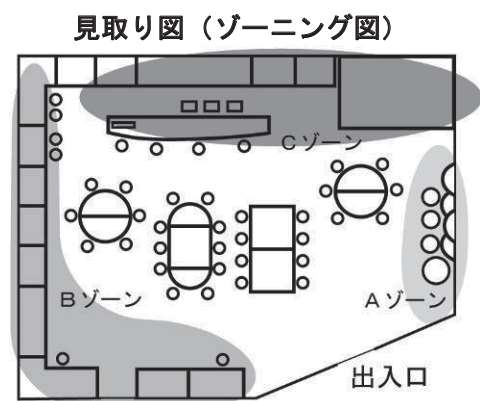
(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

(4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

体験キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	【見る・触る】 ・直感的に（一見して）内容が分かる。 ・安全性、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできる。 ＊来館者によっては手助けが必要。
グループ B	【聞く・比べる・聞ける・押す】 ・簡単な操作で内容が分かる。 ・安全性がある程度確保されていて、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできるが、 ＊来館者によっては手助けが必要な場合もある。
グループ C	【組み立てる・作る・分類する】 ・作業を通して仕組みや内容が分かる。 ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、 介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 ＊来館者によっては手助けが必要ない場合もある。



2 体験キットの種類

大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル		
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ？	1	サインを見のがすな！	自然史	
			2	小さな生き物の大きな仕事		
			3	耳をすませば		
			4	この骨だれの？		
			5	サンゴと生きる		
		自然のすがた	6	いろいろなタネ		
			7	いろいろな木と草		
			8	いろいろな石と砂		
			9	見える星座・見えない星座		
	地史	地下にねむる歴史のなぞ	10	化石 ～生きたあかし～	考古	
			11	港川人研究所		
			12	土層と遺物からわかること		
		13	石で築く			
		人々のくらし	食の知恵	14		ヌチグスイ
			15	イノー ～海の食料庫～		
	食の習わし		16	御三味 (ウサンミ)		
	生活のくふう		17	いろいろな道具		
	沖縄のコトバ		18	島のコトバ		
	シマの心		19	いろいろな玩具		
			20	いろいろな楽器		
	色のひみつ・形のふしぎ		21	衣からわかること	美術工芸	
			22	焼物 ～かたちのわけ～		
			23	漆 ～飾るたのしみ～		
	国のかたち	24	印かんってなあに？	歴史		
		25	島のかたち			
		26	記録のくふう			
		27	国々とのおつきあい			



No.2



No.20



No.24



No.10



No.26



No.27

3 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は職員 1 名（文化の杜共同企業体）と、1 日 3 交替の博物館ボランティアスタッフで運営している。

職員は、常勤スタッフ 1 名とアルバイトスタッフ 4 名で構成。所定の研修を受けた「ふれあいスタッフ」を、配属している。ボランティアスタッフは、曜日別の班で活動を行い、各所属班内で世話係が連絡調整することにより、安定した活動を維持する体制ができあがっている。ふれあい体験室の「ふれあい空間づくり」には、ボランティアスタッフのサポートが大きな力となっている。

4 利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、46,873 人（1 日平均 156 人）。展覧会に訪れる来館者をはじめ、幼児から小学生の兄弟を伴った親子や友達同士で訪れるリピーターが定着している。

常設している 27 件の体験キットは種類が豊富なため、リピーターのこどもたちは成長に合わせ、楽しめる幅を広げて利用している。また、体験する毎にスタンプが集められるワークシート「ふれたいシート」（H23 年度報告）の活用や毎週土曜日に開催している「ふれあい体験室ワークショップ【5-(1)】」が飽きさせない環境づくりになっている。開設から 5 年が経過したふれあい体験室は、来館者とスタッフが顔見知りになるなど、県民にとって交流の場となっている様子が伺える。

体験キットは、これまで、ふれあいスタッフやボランティアの支援のもと、大切に維持管理されてきたが、経年劣化が目立っている。今後は、既存の体験キットとの入れ替えや利用者時代とのニーズに合わせた、新しい体験キットの開発が課題である。

5 ふれあい体験室の取組み

(1) ふれあい体験室ワークショップ in ルーブル保育園

主催：文化の杜共同企業体

内容：当館で定例開催しているワークショップ（5-(2)-①）が出前講座を開催した。

日時：2012 年 8 月 22 日（水）10:30～11:30

場所：浦添市子育て支援拠点事業つどいの広場
（ルーブル保育園内）

対象：浦添市に住む 0～6 才児の親子

講師：渡部貴子（文化の杜共同企業体）

参加費：100 円

参加者数：10 組 12 人



(2) ふれあい体験室ワークショップ(主催：文化の杜共同企業体)

今年度のふれあい体験室ワークショップは、体験キットを充実・発展させることを目的に、各分野担当学芸員と協力して 4 つのプログラムを開発した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度を低くすることや、短時間で取り組める内容を選定した。参加者には、講座の要点をまとめた「博士カード」を配布した。「博士カード」は、集める楽しさも取り入れたことで、リピーターの姿もみられた。

場所：ふれあい体験室前エントランスホール

講師：ふれあい体験室スタッフ 1 名

（文化の杜共同企業体：渡部貴子、新川将太、安慶名健吾、平良尚人、亀川玲子）

対象：5 才～大人(小 3 以下、保護者同伴)

①体験キットNo.19 いろいろな玩具

ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

監修者：岸本敬(民俗担当学芸員)

内容：アダン葉細工をカラフルな画用紙で作製した。

日時：4月～6月の毎週土曜日(6/29休館)

1回目 10:00「金魚・風車」

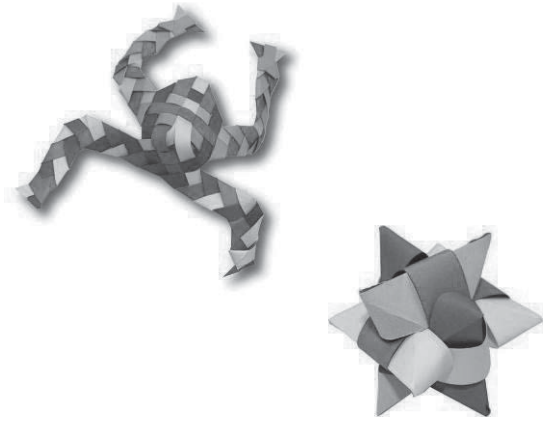
2回目 10:30「かえる」

3回目 11:00「ほしっころ」

4回目 11:30「はぶぐわー」

参加費：100円

参加者数：187人(開催日数12日)



②体験キットNo.8 いろいろな木と草

ふれたい博士の「葉脈標本づくり」

監修者：山崎仁也(生物担当学芸員)

内容：葉脈を取り出しラミネート加工して、標本のしおりを作製した。

日時：7月～9月の毎週土曜日

(9/29台風の為休館、30日(日)開催)

1回目 10:00「リュウキュウコクタン」

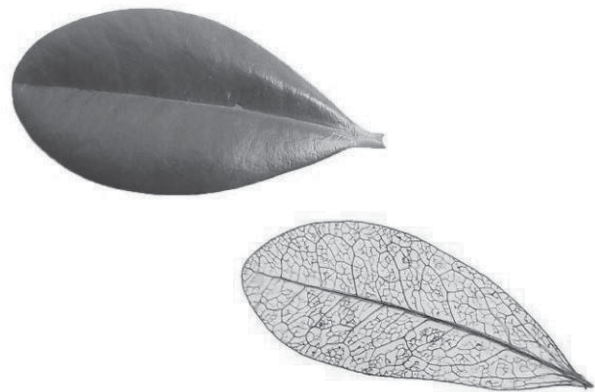
2回目 10:30「クスノハカエデ」

3回目 11:00「ヤブツバキ」

4回目 11:30「シャリンバイ」

参加費：100円

参加者数：324人(開催日数13日)



③体験キットNo.21 衣からわかること

ふれたい博士の「小さな琉服づくり」

監修者：與那嶺一子(美術工芸担当学芸員)

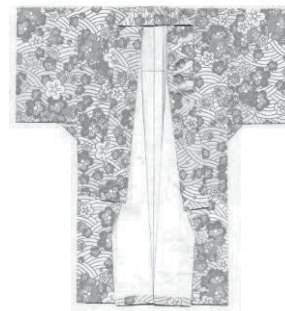
内容：ふれあい体験室で着衣体験ができる「琉服」を布の代わりに千代紙を使い、約6分の1の大きさで、実際の仕立てと同様に作製した。

日時：10月～12月の毎週土曜日(12/29休館)

1回目 10:00/2回目 10:45/3回目 11:30

参加費：100円

参加者数：147人(開催日数12日)



④体験キットNo.26 記録の工夫1～藁算

ふれたい博士の「わらざんづくり」

監修者：與那嶺一子(美術工芸担当学芸員)、崎原恭子(歴史担当学芸員)

協力：琉球大学資料館風樹館、(株)相馬屋

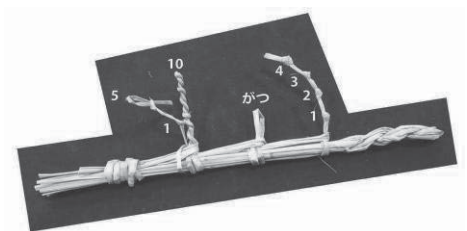
内容：琉球王国時代、読み書きができない人々が文字や数字の代わりに稲藁を使って記録した方法で、オリジナル藁算を作製した。

日時：1月～3月の毎週土曜日

1回目 10:00/2回目 10:30/3回目 11:00/4回目 11:30

参加費：100円

参加者数：95人(開催日数13日)



ふれあい体験室 毎週土曜日 ワークショップ

ふれあい体験室 ワークショップってなに？
【毎月1回】3ヶ月ごとに、つくるものが変わる教室に参加すると、ふれあい体験室で体験したことが、「なるほど!」(理解)につながって、もっとわかりやすくなるよ。
*つくったものは、お持ち帰りできます。

2012年4・5・6月は ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

ふれあい体験室体験キット No.19 「いろいろな玩具」から、マナー (クロツグ) やアダムの翼でつくった音のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙でつくります。

日程: 4月7日(土)・14日(土)・21日(土)・28日(土)
5月5日(土)・12日(土)・19日(土)・26日(土)
6月2日(土)・9日(土)・16日(土)・23日(土)
※6月30日(土)は期間内消滅休日の為、開催しません。

1回目 10:00「かざぐるま・きんぎょ」
2回目 10:30「カエル」
3回目 11:00「はしごころ」
4回目 11:30「はぶくわ」

会場: 沖縄県立博物館・美術館 ふれあい体験室前
受付: 当日先着40人(各回10人)
*9:00よりふれあい体験室にて受付をします。募集人数に達し次第、終了。

対象: ちいさなお子さん~大人(小学生以下、大人といっしょに参加)
参加費: 各回100円

●休館日 月曜日(祝祭日は祝日の場合は、翌日開催が保証)
●開館時間 9:00~18:00(入館は17:00まで)
●主催・協賛 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜社団法人 文化の杜 文化の杜 文化の杜 文化の杜
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
Tel.098-941-8200
沖縄県立博物館・美術館ホームページ <http://www.museum.pref.okinawa.jp>

ふれあい体験室 毎週土曜日 ワークショップ

ふれあい体験室 ワークショップってなに？
【毎月1回】3ヶ月ごとに、つくるものが変わる教室に参加すると、ふれあい体験室で体験したことが、「なるほど!」(理解)につながって、もっとわかりやすくなるよ。
*つくったものは、お持ち帰りできます。

2012年7・8・9月は ふれたい博士の「葉脈標本」

~葉っぱの骸骨(維管束)でしおりをつくろう~

ふれあい体験室の体験キット No.7 「いろいろな木と草」
植物の中で、葉っぱは、どんな働きをしているのかな? 外見から見ることのできない、葉っぱの内側をのぞいてみよう!

日程: 7月7日(土)・14日(土)・21日(土)・28日(土)
8月4日(土)・11日(土)・18日(土)・25日(土)
9月1日(土)・8日(土)・15日(土)・22日(土)・29日(土)

1回目 10:00 「リュウキュウコクタン」
2回目 10:30 「ガジュマル」
3回目 11:00 「ヤブツバキ」
4回目 11:30 「シャリンバイ」

*都合により、植物の種類が変更になる場合もあります。
会場: 沖縄県立博物館・美術館 ふれあい体験室前
受付: 当日先着40人(各回10人)
*9:00よりふれあい体験室にて受付をします。募集人数に達し次第、終了。

対象: 5さい~大人(小学生以下、大人といっしょに参加)
参加費: 各回100円

●休館日 月曜日(祝祭日は祝日の場合は、翌日開催が保証)
●開館時間 9:00~18:00(入館は17:00まで)
●主催・協賛 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜社団法人 文化の杜 文化の杜 文化の杜 文化の杜
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
Tel.098-941-8200
沖縄県立博物館・美術館ホームページ <http://www.museum.pref.okinawa.jp>

ふれあい体験室 毎週土曜日 ワークショップ

衣からわかること
27
ふれたい博士の「ちいさな琉服」

2012年 10・11・12月は
ふれあい体験室で、着衣体験ができる「琉服」は、どのようにつくられているのでしょうか?
実際に着物を着る機会も、布のかわりに、千代紙を使い、約8分の1の大きさの「琉服」をつくってみよう! ワークショップに参加すると、ふれたい博士のメモが書かれた「博士カード」がもらえるよ。

日程: 10/6・13・20・27
11/3・10・17・24
12/1・8・15・22

時間: 1回目 10:00(所要時間45分)
2回目 10:45
3回目 11:30

会場: 沖縄県立博物館・美術館 ふれあい体験室前
受付: 当日先着 30人(各回10人)
*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5さい~大人
*小学生以下、大人といっしょに参加
参加費: 各回 100円

「琉服」ってなんだろう?
「琉服」とは、琉球王国時代(1429~1879年)に、琉球の国の人々が着ていた衣服のことです。

「琉服」ってなんだろう?
琉球王国時代(1429~1879年)に、琉球の国の人々が着ていた衣服のことです。

●休館日 月曜日(祝祭日は祝日の場合は、翌日開催が保証)
●開館時間 9:00~18:00(入館は17:00まで)
●主催・協賛 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜社団法人 文化の杜 文化の杜 文化の杜 文化の杜
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
Tel.098-941-8200
沖縄県立博物館・美術館ホームページ <http://www.museum.pref.okinawa.jp>

ふれあい体験室 毎週土曜日 ワークショップ

2013年 1・2・3月は 記録のふり「わらざん」

文字や数字の代わりにワラを使って、記録しよう

「わらざん」ってなんだろう?
琉球王国時代(1429~1879年)に、琉球の国に生まれた人々が、「算盤」などの身近な植物を、薪にしたり、薪だりして、文字や数字の代わりに使った道具のことです。
ワークショップでは、普段、触れることが少なくなかった「算」を実際を使って、昔の人々のたくましさや知恵が込められた「わらざん」をもとに、自分の誕生日や、愛読の年輪などを記録して、「オリジナルのらざん」をつくります! ワークショップに参加すると、ふれたい博士のメモが書かれた「博士カード」がもらえるよ。

日程: 1/5・12・19・26
2/2・9・16・23
3/2・9・16・23・30

時間: 1回目 10:00(所要時間30分)
2回目 10:30
3回目 11:00
4回目 11:30

会場: 沖縄県立博物館・美術館 1階ふれあい体験室前
受付: 当日先着 40人(各回10人)
*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5さい~大人
*小学生以下、大人といっしょに参加
参加費: 各回 100円

●休館日 月曜日(祝祭日は祝日の場合は、翌日開催が保証)
●開館時間 9:00~18:00(入館は17:00まで)
●主催・協賛 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜社団法人 文化の杜 文化の杜 文化の杜 文化の杜
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
Tel.098-941-8200
沖縄県立博物館・美術館ホームページ <http://www.museum.pref.okinawa.jp>

(渡部貴子)

X ボランティア養成事業

1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成 20 年 2 月 13 日
館長決済

(趣旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第 2 条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第 3 条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票（第 1 号様式）により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長（以下「館長」という。）が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿（第 2 様式）へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証（第 3 号様式）を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消すことができる。

(研修)

第 4 条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第 5 条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第 6 条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

第 7 条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付則

- この要項は、平成 5 年 7 月 1 日から実施する。
この要項は、平成 12 年 8 月 1 日から実施する。
この要項は、平成 20 年 2 月 13 日から実施する。

平成24年度 博物館ボランティア登録計画

■ 継続ボランティア 1～4期

□ 新規ボランティア 5期

1月 ・継続希望申請書(説明と配布) 1/17ボランティア連絡会～
2月のボランティア通信～

2月 ・継続希望申請書受付開始 2月7日より～

3月 申請書提出締切～3月9日(金)まで

1 各自で学芸員室(池原、妃奈子)に提出

2 提出時に面談 (評価結果の通知)

○良好者＝受付可＝3月中の保険手続き →5月登録証交付

●保留者＝更新研修受講義務(4月中の研修受講)

○(61)名

△(15)名

×(11)名

評価基準＝活動状況、全体
会、全体必修研修参加状況等

4月 *更新研修 ①=4/11、②=4/20受講後→4月登録証交付

・受付4/6～4/27

— 学校団体受入開始 —

— 継続ボランティア登録証交付式 4月27日(金曜)午後

5月

〈 養成講座 〉

・座学(各学芸員講座)

・実習(ふれあい体験室、
発問演習等)

・養成講座修了証交付

*希望者は専門講座申込み

*バックヤードの開催?

6月

7月

8月

夏季期間 (夏休み!学芸員教室、学校団体下見など)

9月

— 民具体験学習受入開始 —

《 専門講座 》

・実習的内容を中心に

10月

・新規ボランティア登録証交付式 10月19日(金曜)午後*予定

・新規ボランティア登録証交付式

その後→新規登録者含めた【全体会開催】

— 活動の本格的開始 —

～3月

平成24年度〔第5期〕沖縄県立博物館・美術館の博物館ボランティア募集要項

沖縄県立博物館・美術館では自己啓発の場を提供するとともに、博物館活動を活性化するために、博物館ボランティアの増員を計画します。

1 ボランティアの種類

A 《博物館ボランティア》	主に平日活動
B 《ふれあい体験室支援ボランティア》	土・日・祝祭日又は児童生徒の長期休業期間において 主に「ふれあい体験室」の支援活動をおこなう

2 ボランティア活動の時間、内容

活動時間	開館中の9:00～18:00の時間内で（金・土曜日は20:00まで）、自身の活動できる曜日と時間。
A	① 展示解説ガイド（主に学校団体対応） 「博物館常設展示室」において、展示資料の案内、質問対応などを行う。 ② 体験学習サポート 「ふれあい体験室」「博物館実習室」を中心とした、体験学習サポートなどを行う。 ・ふれあい体験室サポート／民具体験学習サポート／体験学習教室サポートなど ③ 資料整理活動 ・新聞スクラップ整理／各種刊行物発送作業サポート（封入など）
B	「ふれあい体験室」でのサポート

3 募集人員・内訳

A 《博物館ボランティア》	40名
B 《ふれあい体験室支援ボランティア》	10名程度

4 応募資格・条件など

- ・ 18歳以上の、心身ともに健康な方
- ・ 7 に示す各種研修すべてを受講できる方。
*Bを希望する方は、研修の軽減があります。
- ・ 各種講座修了後、10月に正式登録。
登録後、月に2日以上、当館においてボランティア活動ができる方。
*特典として、博物館常設展、県主催の企画展や特別展の入館料免除、月1回のボランティア通信の送付。ボランティアを対象とした学習会への参加。

5 登録と活動

所定の研修を終了した方を、ボランティアとして登録（博物館費用でボランティア保険加入）します。登録期間は翌年3月31日までとし、翌年の登録を希望する方は活動状況などを評価し、1年度毎の更新となります。

10月の登録証交付式で配布される【ボランティア証】を着用し、活動を開始していただきます。

6 申込期間及び方法

平成24年4月6日（金）～4月27日（金）
 電話連絡による申込（定員を超える場合は、先着順とする。）
 問合せ先 TEL(098)941-8200 FAX(098)941-2392
 沖縄県立博物館・美術館（文化の杜 担当：大濱・渡部）
 受付：9:00～18:00（月曜日を除く）

7 ボランティア登録までの流れ

- 1) 募集期間 平成24年4月
- 2) 開講式 平成24年5月16日（水）
- 3) 〈養成講座〉 平成24年5月～7月
- 4) 《専門講座》 平成24年9月～10月 *日程等調整中
- 5) 登録申請(意思確認) 平成24年10月
- 6) 登録証交付式 平成24年10月中旬 *日程等調整中

8 〈養成講座〉の日時・場所

- ・ 平成24年5月16日(水)～7月7日(金)まで
- ・ 毎週水曜・金曜日、 15:00～17:00 *Bは土曜日開催
- ・ 沖縄県立博物館・美術館 講座室など

9 〈養成講座〉日程表

* 講座の時間及び日程については、展示作業等の状況から、変更することもある
 * B希望者の、3・4・5の講座受講は任意とします。

	回数	内 容	日 時		形態	担当学芸員
			前半15:00～	後半16:00～		
A	1	開講式/博物館活動について	5月16日（水）		講 座	久場班長
	2	博物館ボランティアについて/ IPMIについて	5月23日（水）			池原・久田・山崎（仁）
	3	歴史/民俗	6月1日（金）			崎原・岸本（弘）・岸本（敬）
	4	考古/美術工芸	6月8日（金）			片桐・園原・與那嶺
	5	自然史/人類	6月15日（金）			山崎（仁）・仲里・山崎・藤田
	6・7	ボランティア実習 ふれあい体験室や展示室での来館者を想定した実地研修を行う	6月20日(水) 7月6日(金)		実習	池原・久田・（渡部）

	回数	内 容	日 時		形態	担当学芸員
			10:00～			
B	1	開講式/博物館活動について/博物館ボランティアについて/ IPMIについて	5月19日（土）		講座	池原・久田
	2	ボランティア実習 ふれあい体験室での来館者を想定した実地研修を行う	7月7日(土)		実習	池原・久田・（渡部）

平成24年度 博物館ボランティア養成講座 開講式及び説明会

1 主旨	ボランティア募集に応募した参加者に、博物館のボランティア活動の主旨や今後の日程などを含めた確認事項等を説明し、周知徹底を図る。		
2 場所	沖縄県立博物館・美術館 講座室		
3 日時	平成24年5月16日(水) 15:00～15:45		
4 開講式次第	進行:久田 千春		
(1) 館長あいさつ	県立博物館・美術館	館長	白保 台一 (4)
(2) 職員紹介	県立博物館・美術館	博物館班	久場 政彦 (3)
	文化の杜共同企業体	教育普及担当	
(3) おわりの言葉	文化の杜共同企業体	代表	平良 知二 (3)
5 説明会			
(1) 日程確認等	教育普及担当	池原 盛浩	(10)
(2) 講座中の諸注意事項	〃		(15)
(3) 質疑	〃		(10)

1 ボランティア登録までの流れ

- (1) 募集 平成24年4月6日(金)～4月27日(金)まで
- (2) 説明会(開校式) 本日
- (3) 養成講座 平成24年5月～7月
- (4) 養成講座修了証交付 平成24年7月6日

* 専門講座→ 希望者のみ 平成22年9月～10月

- (5) 正式登録(専門講座受講者) * 専門講座終了後、申請書提出→ 正式登録

2 養成講座日程表

5月16日(水)	開講式	15:00～	池原
	博物館活動について	16:00～	久場班長
5月23日(水)	IPMIについて	15:00～	仲里
	博物館ボランティア活動について	15:30～	池原・久田
6月1日(金)	歴史	15:00～	崎原・岸本(弘)
	民俗	16:00～	岸本(敬)
6月8日(金)	生物	15:00～	山崎(仁)
	美術工芸	16:00～	園原・與那嶺
6月15日(金)	考古・地学・人類(1講義40分)	15:00～	片桐・仲里・山崎(真)・藤田
6/20(水)7/6(金)	ボランティア実習(ふれあい体験室/展示室)	15:00～	池原・久田

※ 講座受講の際は、名札を着用してください。

※ 台風時の講座については、以下のとおりです。

- 1、午前7時現在、暴風警報(以下「警報」)が発令されているときは、午前中閉館とします。
- 2、正午時現在、警報が発令されている場合は午後も休館とします。
- 3、開館中に警報が発令された場合は、直ちに休館とします。

※ 館内での飲酒及び持ち込みは、ご遠慮ください。(あめ・ガムを含む)

※ 未受講の講座がある場合、登録が不可となりますのでご注意ください。

■ 博物館ボランティア養成講座を修了する皆様へ

5月16日から約10時間の各種講座、並びにふれあい体験室等での実習の受講大変お疲れさまでした。本日をもってボランティア養成講座は修了となります。

これまでの講座により、県立博物館・美術館の概要ならびにボランティアの役割等ご理解いただけたでしょうか。また、各種講座を通して、沖縄県の文化財の保護並びに調査研究の実際、さらに将来へ引き継ぐことの大切さなどを学んで頂けたでしょうか。

今後皆様がボランティア員として活躍していただくためには、9・10月の専門講座を受講していただくことになります。

● 専門講座の受講を希望しない方

1) 現在着用のボランティア受講証を返却下さい。

○ 専門講座の受講を希望する方

- 1) ボランティア受講証に、継続可能を示すスタンプを押印します。
- 2) 専門講座(9-10月)までの期間中、ボランティア受講証提示で常設展の観覧を無料とします。
- 3) 7/11、7/13、7/20 に予定しているバックヤードツアーへの参加を認めます。
- 4) 専門講座の案内を確認します *養成講座2日目で配布済み
- 5) 専門講座終了後、ボランティア員への正式登録の申請を受付ます。
- 6) ボランティア勉強会への参加ができます。*但し、外部への研修はできません。
- 7) ふれあい体験室でのボランティア活動体験をおこなって下さい。 *ボランティア室での申込を！

■ 博物館バックヤードツアー

★来館時はカードの装着をお願いします!!

～普段は見ることのできない博物館の裏側を案内します～

受付名簿 [定員15名 時間13:00出発～14:00終了]		
7月11日(水)	7月13日(金)	7月20日(金)
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12

★別紙用紙へ記入下さい!!

□ 9・10月開講の「平成24年度ボランティア専門講座」について

1 目的

本講座は、博物館の登録ボランティアが、総合展示室、部門展示室の資料を出発点にしなが
ら、ふれあい体験室の体験キットや『博物館学習ノート』の意図を理解し、ボランティア活動を円
滑に行えるようにする。

2 内容(予定)

- ① 講座は、博物館展示室、ふれあい体験室で実施する。
- ② 学芸員は展示室とふれあい体験室で(現地)解説を行う。
 - ◎ 展示室:『博物館学習ノート』を活用した解説を行う。
 - ◎ ふれあい体験室:体験キットの解説を行う。
- ③ 受講生は40分単位で場所を移動する。

※『博物館学習ノート』は、事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。

※『博物館学習ノート』は、博物館ホームページや情報センターで見ることができます。

※ 台風時、暴風警報が発令された場合は中止とします。

※ 飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。(ガムを含む)

※ 専門講座の補講は、設定できません。

※ 専門講座中の欠席(養成講座と同様、事前連絡が必須。無届や理由が不適切な場合は登録不可)

平成 24 年度博物館ボランティア養成講座修了者に対する
本登録前の条件確認 チェックシート

7日間のべ 14 時間にわたるボランティア養成講座の受講、お疲れ様でした。この講座で

- ① 博物館について ② 博物館ボランティアの活動の概要 ③ 博物館における各分野の役目と位置づけ が、大まかでも、とらえる（考える）ことができたでしょうか。

◇自主学習について

これから 9 月の専門講座開始までの期間は、自主学習とします。
専門講座開始までの期間、以下の 3 点を活用し“博物館学習”に努めてください。

- ① “現在の名札”を着用することで、常設展示室の入場を無料とします。
② *別表に示す期日に、バックヤードツアーを開催します。
③ ふれあい体験室に入り、“活動体験(実践)”をおこなってください。

◆ 本登録の条件について (館が求めるボランティアへのご理解)



専門講座受講後、本登録をおこない、館でのボランティア活動を開始して頂きますが、相互（館と登録者）の共通理解のもと、登録後の活動が円滑におこなわれるために、以下のことから（ボランティア本登録の条件）をご確認いただきたいと思います。

チェック（確認）していただく文章は、
「博物館ボランティアのてびき -2012 年度版-」に示した内容を、
チェックシート用書き換えたものです。

本趣旨をご理解の上、確認をお願いします。

本チェックシートの提出は、バックヤードツアー時に提出下さい！

ボランティア本登録の条件確認用 チェックシート

→ 館が求めるボランティアへのご理解と確認のために ←

氏名

*博物館ボランティアのてびき=以下 てびき
*博物館ボランティア活動=以下 ボランティア活動

*不明な点は“てびき”を参照してください

- てびきに示す、“目的”を理解したボランティア活動をめざします
- てびきに示す、“活動の方針”を考えたボランティア活動をめざします
- てびきに示す、“活動の種類と内容”に取り組みます。

当てはまる 当てはまらない

- 1 曜日班に属し、定例の会議に参加します
- 2 ボランティア内の各種勉強会等に参加し、自己研鑽につとめます
- 3 月に2日以上の活動をめざします
- 4 一回で3時間程度の活動をめざします
- 5 館の定める遵守事項を守るようつとめます

— 意見や要望 —

1 目的

本講座は、博物館の第5期ボランティアが、総合展示室、部門展示室の資料を出発点にしながら、*ふれあい体験室の体験キットや「ワークシート(博物館学習ノート)」の作成意図を理解し、学校団体対応におけるボランティア活動を円滑に行えるようにする。

*5 内容参照

2 対象 沖縄県立博物館・美術館 博物館第5期ボランティア研修生

3 期日・時間

平成24年 9月28日(金)～10月19日(金)
15:00～17:00(二時間)

4 場所 博物館常設展示室、ふれあい体験室、実習室

5 内容

- ◎ 展示室、ふれあい体験室、実習室等の三ヶ所でそれぞれの学芸員が解説する。
受講生は35分単位で、まとまって移動する。
- ◎ **展示室**：ボランティアが学校団体の支援に入った時を想定し展示室の見どころを紹介する。
*「ワークシート」『博物館が教室になる!』〈ガイドマニュアル〉を活用
- ◎ **ふれあい体験室**：体験キットの解説を行う。*体験キットと展示室との関連

6 日程表

回数	期日	分野・内容〈各35分〉		
		A[展示室]	B[ふれあい体験室]	C[実習室]
◎タイムスケジュール		15:00～15:35(35分)	15:35～16:10(35分)	10分 16:20～16:55(35分)
1	9月28日(金)	考古－片桐	考古－片桐	トイ レ 休 *車両登録についての説明等
2	10月3日(水)	美工－與那嶺/園原	美工－與那嶺/園原	
3	10月5日(金)	歴史－岸本(弘)	歴史－岸本(弘)	
4	10月10日(水)	生物－山崎(仁)	生物－山崎(仁)	
5	10月12日(金)	地学/化石－仲里	地学/化石－仲里	
6	10月17日(水)	人類－藤田/山崎(真)	人類－藤田/山崎(真)	
7	10月19日(金)	民俗－岸本(敬)	民俗－岸本(敬)	
				登録証交付式～引き続き ボランティア全体会 (新旧顔合せ) 16:20～17:30

☆研修生への連絡事項

- ※ 『博物館学習ノート』は、事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。
- ※ 『博物館学習ノート』は、博物館ホームページや情報センターで見ることができます。
- ※ 台風時、暴風警報が発令された場合は中止とします。
- ※ 飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。(ガムを含む)
- ※ 専門講座の補講は、設定しません。一欠席者はレポートを提出します。
*別紙レポート形式参照

平成24年度 博物館ボランティア専門講座 〈欠席時の提出レポート〉

■ボランティア氏名

受取り日: 月 日()

■欠席日時と内容 (10)月(3)日(水曜) / 分野内容(美 工)

★第2回用

■レポートテーマ - 場面想定をした課題 -

A	<p>あなたは展示室で、小学校高学年に向けて展示資料の紹介をおこなうことになりました。 欠席日に説明のあった()部門展示室の()について、 どのように展示資料の紹介をしますか。</p>
B	<p>欠席日に説明のあった()分野の“体験キット”はNo. _____ ~ No. _____ です。 その中から一つ選び、展示室とのつながり(関連)を書いてください。</p> <p>・キット名【</p> <p>・関連する展示室(場所や資料名)【</p> <p>・つながり(関連性)について【</p>
C	<p>養成講座初日に配布の小冊子「2011年度の博物館ボランティア活動」の38ページを読んで、感想を書いてください!</p>

★本レポートの提出は、10/12(金)に受付に提出してください。

〈平成 24 年度〉 沖縄県立博物館・美術館 **博物館ボランティア登録申請書〈1年更新〉**

①⑭までもれなく記入して下さい

登録申請日 2012 年 月 日


	ふりがな			*写 真 現在登録中の画像を 変更したい方は、 申し出てください。
①	氏 名			
②	会 員 番 号			
	職業*(現役者のみ)			
④	生 年 月 日	19()年/昭和()年()月()日		
	ふりがな			
⑤	住 所	〒		
⑥	連絡先 自宅		携 帯	
	*職場(現役者のみ)		*メール	

⇒当てはまる□に を入れてください。

⑦健康状態 *複数可 <input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 体調にムラがある <input type="checkbox"/> 通院している <input type="checkbox"/> 他 ()	⑧来館手段 *複数回答可 <input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> モノレール <input type="checkbox"/> 他 ()	⑨館までの所要時間 およそ () 分	
年	月	⑩ 職 歴	
⑪ どんな免許や資格がありますか			

⑫ 活動曜日 と 所属曜日	活動可能な曜日 *活動は、所属曜日班にしばらくられません。複数回答可。 □火曜 □水曜 □木曜 □金曜 □土曜 □日曜
	希望する所属曜日班＝() 曜日班＝(情報や連絡を共有します) *必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の曜日班会議に出席ください。
⑬ 活動可能な時間帯	() 時ごろ～() 時ごろ 理由があれば()

⇒当てはまる□に を入れてください。

⑭ 活動してみたい内容 *複数回答可	
*自分の能力を活かし(できる・やってみたい)、希望する内容(分野)で活動する!	
<input type="checkbox"/> 民具体験サポート <input type="checkbox"/> (小3 社会科 8月～3月)	
<input type="checkbox"/> 誘導ボランティア (小・中・高・特別支援諸学校 4月～3月)	
<input type="checkbox"/> 展示解説ガイド (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)	
<i>案) 先生の要望に応じた解説、離島等の小規模校対応、ジブンボックスの配置など</i>	
<input type="checkbox"/> 資料整理活動 (4月～3月) *新聞スクラップ, 発送手伝い, ボランティア室の整美など	
<input type="checkbox"/> ふれあい体験室の支援 (4月～3月)	
<input type="checkbox"/> 体験学習教室の支援 (年数回)	
<input type="checkbox"/> 一般来館者向け—展示解説ガイド *検討中	
<input type="checkbox"/> 博物館学校出前講座(けんぱくキット) *準備中	
<input type="checkbox"/> 曜日班世話係 *曜日班会議の中で協議してください	
<input type="checkbox"/> 曜日班(副)世話係 * " (連絡等, 世話係りを補佐します)	
<input type="checkbox"/> 他——提案する活動があれば()	
★要望や意見がありましたらご記入ください	

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

「平成24年度博物館ボランティア専門講座閉講式」
並びに「第5期ボランティア登録証交付式」

1 主旨

ボランティア専門講座を修了した者に登録証を交付し、博物館ボランティア活動の主旨や活動の在り方などの周知徹底を図り、ボランティア活動の開始を確認する。

2 場所 沖縄県立博物館・美術館 講座室

3 日時 平成24年10月19日(金) 16:20～16:40

4 閉講式次第 進行：久田 千春

- (1) 登録証交付 県立博物館・美術館 館長 白保 台一 (10)
- (2) 館長あいさつ 県立博物館・美術館 館長 白保 台一 (4)
- (3) 激励のことば 県立博物館・美術館 副館長 千木良 芳範 (3)
- (4) おわりの言葉 文化の杜共同企業体 代表 平良 知二 (3)

～引き続き～

(秋季)ボランティア員全体会 ～18時
16時45分～17時30分

参加対象者：教育普及担当、ボランティア員
進行 久田 千春

- 目的 ① 曜日班に、新規ボランティアを迎える。
② ボランティアの正式活動ができるように、仕事内容を確認する。

- 1 全体確認 —池 原 (5分)
* 曜日別に座席の移動 * (2分)→5分
- 2 曜日班別ミーティング —世話係を中心に進行する (30分)→35分
(自己紹介、活動計画などの確認)
- 3 報告(班ごとに話し合われた事がらを発表する)*火水木金土日—世話係り (5分)→2分×6=12分
- 4 分野別勉強会より(入会案内)*歴史考古、自然史人類、民俗、美工、新—世話係り (4分)→2分×5=10分
- 5 事務連絡 *名簿修正確認、友の会入会案内 (1分)→3分

ボランティア活動テーマ

来館者がよろこぶ博物館に！

- 1 博物館ボランティア一人ひとりが、しっかりした自信と自覚を持ち活動していく。
- 2 博物館ボランティア各自が、互いに連絡を取り合い、自主的な活動が活発になる。
- 3 1と2ができれば多様な来館者サービスが充実し、来館者がよろこぶようになる。

『沖縄県立博物館・美術館は、〇〇ボランティアがいるから楽しい』と言わせたい。

そのために—

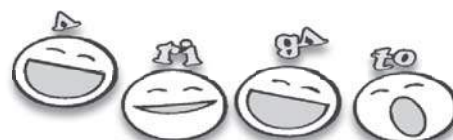
- 1 一層の自信と自覚がもてるように、スキルアップ研修を行います
 - ・コーチング研修＝自分の潜在能力を引き出す、自己を知る、コミュニケーション能力…
 - ・マナーアップ研修＝相手を思った対応、もてなしの心、接客心得、サポート術、話し方…
- 2 より積極的な活動ができるように、グループ活動（同じ活動内容に興味のある仲間同士が協力して活動をする）をおこないます *分野別勉強会と同じ考え
 - ・自分のできる時、自分のできる場所で自主的・積極的な活動をおこなっていきます
 - ・連絡網を活用し、情報の共有を積極的におこないます
- 3 グループで協力して活動していけるようにします *解説ガイド、学校出前講座、他…
 - ・博物館&文化の杜&友の会とボランティア員が、活動について、同じ席で協議します
 - ・博物館担当(池原)がリードします。将来的にはボランティア自身の手で動けるようになればと考えます

楽しいボランティア活動の実現のために、

ボランティアの力を合わせて、博物館ボランティアを造りあげていく。

来館者がよろこぶ博物館の実現のために、いっしょに 育っていきましょう！

共育!!



ボランティア登録証交付式用資料

博物館ボランティアのてびき

2012年度版

〈平成24年度版〉

ボランティア活動テーマ

来館者がよろこぶ博物館に！



沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティア

1 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

2 活動の方針

- (1) 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- (2) ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- (3) 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- (4) ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

文章中の*印は、本格実施に向けて準備、または検討中

3 ボランティアの活動内容 ☆H24年度より「B：ふれあい体験室支援のみの活動ボランティア」を開始

(1) 活動の種類

- ①展示解説ガイド ②体験学習サポート ③資料整理活動

(2) 活動の内容

A ①展示解説ガイド

「常設展示室」における展示解説、質問対応など（学校団体/*一般来館者）

②体験学習サポート

「学校団体対応」「ふれあい体験室支援」「体験学習教室支援」

③資料整理活動

「新聞スクラップ整理」

④その他

「ボランティア間の連絡」「各種刊行物の発送業務」「文化の杜共同企業体主催催事支援」

B 「ふれあい体験室支援」

(3) 活動の種類、場所、人員の配置数等

	活動の種類	場所	内容 と ボランティア配置数	指定管理者担当
①	常設展示対応	ふれあい体験室	サポート=1～3人	1人
②	学校団体対応	常設展示室 民家・実習室	展示解説ガイド 体験学習サポート=若干名	1～2人
③	体験学習教室	民家・実習室	サポート=若干名	1～2人+外部講師
④	(県)特別・企画展	特別・企画展示室	サポート=若干名	なし

(4) 運営体制

- ① 博物館ボランティアは、博物館養成講座履修のボランティアとします。（以下ボランティア）
- ② ボランティアは自身の希望する曜日に、希望する種類で活動します。
月曜日が祝日で開館する場合は、Bグループを中心に「ふれあい体験室」の支援を行います。
- ③ ボランティアは曜日班に所属し、月一回の定例会（曜日ごと指定）で、活動情報を共有します。
- ④ 曜日班の中に、正副世話係をおきます。曜日班の(副)世話係は、活動の連絡を行います。
- ⑤ 博物館担当者・分野及び曜日の世話係・文化の杜・友の会によるボランティア連絡会を月一回開催します。（第3火曜日15：00～）
- ⑥ ボランティアは各分野別勉強会に参加することができます。（活動は自立的で、協力的であること）
- ⑦ 各分野別勉強会に正副の世話係をおきます。分野別勉強会の(副)世話係は活動の連絡を行います。

*グループ活動の充実（新聞スクラップ、展示解説ガイドなど）

(5) 経費

- ① 博物館において、ボランティア活動の保険に入ります。（保険は毎年3月に更新。保険期間1年。）
- ② 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。

(6) 活動日、時間、回数

- ① 活動は原則的に博物館の開館日とします。
- ② 活動時間は、一回で3時間程度とします。（場合によっては考慮します）
- ③ 活動回数は、月に2日以上とします。

(7) 遵守事項

- ① 博物館の諸規則に従ってください。
- ② 博物館の展示方針に従って説明等を行ってください。
- ③ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないでください。
- ④ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないでください。

(8) 活動中の事故

- ① ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアまたは他人がけがをした場合は、ボランティア保険の対象となります。
(館が認めるボランティア主催の野外勉強会等も含まれます)
- ② ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身はその責を負うことになります。

4 ボランティア活動の組織

(1) 役割分担

- ① 総括 博物館教育普及
- ② 担当

教育普及	主担当	副担当
	◎ 池原	久田

(2) ボランティア担当の役割

- ① ボランティア登録に係る諸業務。
- ② ボランティア研修に係る企画、調整。
- ③ ボランティアの活動に関する企画、調整。

(3) ボランティアの分野別勉強会

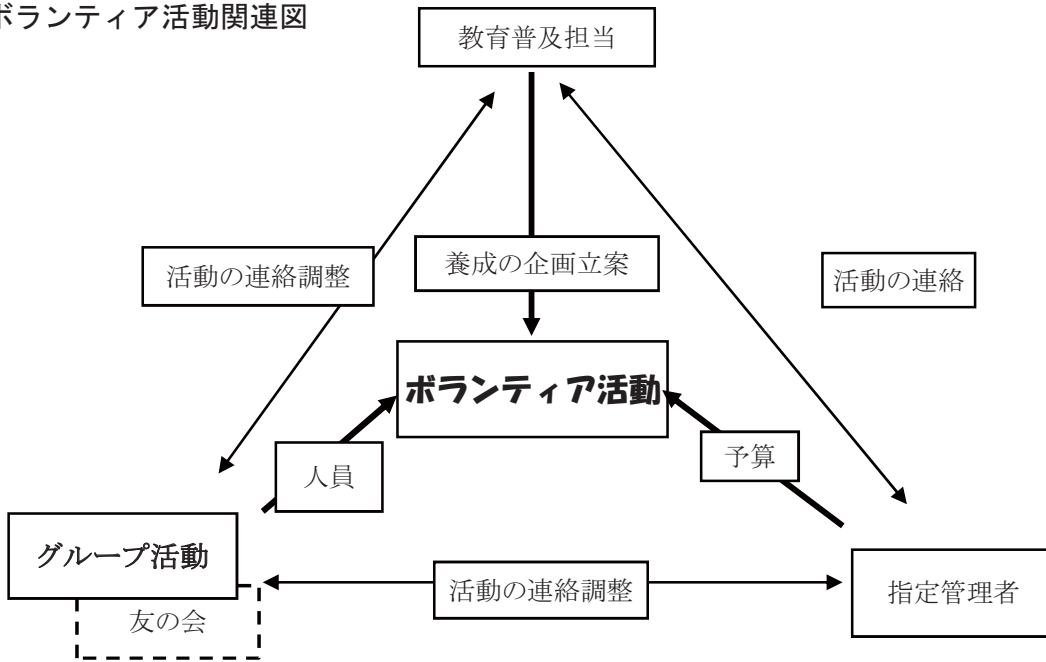
- ① ボランティアの活動を活性化させるために、分野別正副の世話係を置きます。
- ② 正の世話係は分野を代表し、各分野の学芸員と連携を取り、副の世話係は正を補佐します。
- ③ 分野別勉強会の世話係は、学習会の企画をし、ボランティア室において、全ボランティアに告知します。

	正	副
人類学・自然史		
歴史・考古		
美術工芸		
民俗		
ふれあい体験室 ・ 体験学習教室	特に配置無し	

☆グループ活動（新聞スクラップ、展示解説ガイド、他）として、会の立ち上げ？ *今後の検討

曜日世話係（火）	／	曜日世話係（金）	／
〃（水）	／	〃（土）	／
〃（木）	／	〃（日）	／

5 ボランティア活動関連図



☆グループ活動とは：自身の希望する活動の場であり、ボランティアの自立的な取り組みをめざす

6 登 録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

- (1) 仮登録
 - ・「養成講座」終了後、応募者については資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。
- (2) 本登録
 - ・「養成講座」受講者のうち、当館が定めるボランティア「専門講座」を終了した者で、館長の認定した者を本登録者とします。
- (3) 登録の更新
 - ・登録の活動期間は1年とします。但し、2ページ3-(6)(7)に示す活動の条件を満たし継続を希望する者は、更新することができます。

申請時に要面談⇔

 - ・館の定めた各種研修並びに全体会等への不参加、2ページ3-(6)(7)に示す活動の条件を満たしていない者は、館指定の更新研修受講後に、登録更新を認めます。
- (4) 登録証
 - ・登録者には登録証を交付します。活動時は常に身に付けてください。
 - ・ボランティアの継続が出来なくなった際には、登録証は返却するものとする。
- (5) 登録の抹消
 - ・登録期間中であっても博物館ボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、また、博物館ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は登録を抹消することがあります。

7 活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らして、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それにもとづいてボランティア活動を改善計画の作成に資することを目的とします。 *評価様式は別に作成する

- ① 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- ② 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。
多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- ③ 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。

8 表彰及び昇格規程

- ① ボランティア精神が旺盛で、その活動が顕著な者を表彰します。 *表彰基準は今後検討
- ② ボランティア活動の充実にともない、上級ボランティアを認定していきます。

*認定方法は今後検討

9 その他

(1) 研修プログラム

- ① 養成講座…1日2時間で5日間（講義）＋ 1日2時間で2日間（実習） 合計約14時間
例：(副)館長講話、沖縄の歴史・文化の講座、沖縄の自然等についての講座、実地研修など
- ② 専門講座…1日2時間で7日間（講義と実習） 合計約13時間
例：博物館学習ノート紹介、ふれあい体験室(体験キットの解説)、発問の研究など
- ③ 更新研修…1日2時間で2日間 合計4時間
- ④ 臨時研修…必要に応じて随時実習
例：企画展の解説、スキルアップ研修、体験学習教室の事前勉強会など

(2) ボランティア活動時の服装等について

- ① ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書としてボランティア登録証を交付します。
- ② ボランティア活動を行う場合は安全性と機能性を考え、博物館ボランティアにふさわしい服装とします
- ③ ボランティア登録証を、常に身につけるものとします。
〔博物館ボランティアは、みどり色のストラップ / 登録証の色は年度ごとに更新します〕

(3) ボランティア室の使用について

- ① ボランティア室については、教育普及担当の許可を得て使用できます。
- ② ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。
ア 1ページ 3-(1)～(4)に示す活動に関する使用
イ 日程、連絡等のボランティア活動の掲示
ウ ボランティア活動のための器具類の保管及び使用
エ 来館者を発見へと向わせるような発問研究
オ ボランティア活動のための休憩
- ③ ボランティア室には勝手に私物をもちこまないでください。
(個人の持ち物は、自己の責任で管理してください。)
- ④ ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時間までとします。
- ⑤ ボランティア室は原則として使用したものが片づけを（整備・清掃）するものとします。

◇ボランティア活動のふり返いをしましょう!

この用紙の回収はありません!

自身の活動のふり返りとしてお答えください!!

以下の文章は、「博物館ボランティアのてびき」に示す、ボランティアの目的や活動の方針です。文章を読み、自身のボランティア活動をふり返りましょう。□に当てはまる記号を書いてください

○ そう思う △ まあそう思う × 思わない

1 県民の自己啓発や学習の場を提供する

- ・県内外（外国人を含む）の方への対応ができた（学校団体、ふれあい体験室）
- ・自ら勉強した（説明できる）資料が増えた
- ・ボランティアの仲間が増えた

2 人にやさしく、親しまれる施設をめざし、県民参画の橋渡しとして活動する

- ・言葉づかいは良好であった
- ・来館者に博物館の楽しさを伝えた
- ・来館者に（積極的な）声かけができた

3 多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与する

- ・（得意）分野を超えて、様々なボランティア活動に協力できた
- ・人手の足りない時、積極的に参加できた
- ・来館者からの要望を、博物館（文化の杜や学芸員）に伝えた

4 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担う

- ・自主的・積極的に、連絡ボードに記名ができた
- ・自分が得た情報を共有できた
- ・ボランティア活動が、仕事や生活で活かすことができた

5 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめる

- ・ボランティアの連絡体制は良好である
- ・“ボランティア通信”を活用している
- ・ボランティア室の設備、その運営は良好である
- ・分野別勉強会の運営は良好である

6 ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にする

- ・ボランティアが自ら学ぶ環境が提供されている
- ・無理なく楽しく学習ができています
- ・学芸員は、分野別勉強会へ協力的である

7 来館者を発見へと向かわせるような発問の研究を行う

- ・ボランティア活動の方向性は示されている
- ・観覧者を発見に向かわせるように問いかけている（学校団体、ふれあい体験室）
- ・ペーシングの手法などを意識して対応している

8 ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向を目指す

- ・博物館はボランティアからの改善点の指摘に対応している
- ・活動の参加の回数は良好である
- ・曜日班など定例会に参加し、情報を得ている

ご協力ありがとうございました

(池原盛浩)

ふれあい体験室清掃について・・・4月は日程調整中。
確定次第、ポラテンアイア室の掲示版にて募集をさせていただきますので、ご協力よろしくお願いします。

～ 文化の社 ～

春の陽気の続く今日この頃、先日、実習準備室の始動や新聞スクラップブックコーナーの設置に訪れると最近までフル稼働していた民具が静かになり、一人一人の博物館に対する思いがカタチに変わったと感じます。さて、いよいよ5期生の募集が始まります。今年も皆さんの思いが輝とんり、41校4,620名の児童が触れ、多くのポラテンアイアさんのサポートにより先人の知恵や工芸の結晶が咲きましますように・・・一緒にたくさんの方を呼ぶ予定です。また、ポラテンアイアさんの活動の場を頂き、博物館ファンを増やしましょう！
また1年、宜しくお願いします。(大浜)

◆～◆ 4月の勉強会 ◆～◆

※ 民俗勉強会・・・4/7(土) 10:00～12:00
ポラテンアイア室・民俗展示室

1. 4月本実施される鶴島・小規模校対象の民俗分野のガイドに対する民俗班による、サポート体制について

2. ポラテンアイアガイドマニュアルでの勉強会(ガイドマニュアルを持参ください)

- * 当日担当学芸員の岸本敬先生が参加予定です。
- * ポラテンアイア展示解説ガイド要員全員の出席をお願いします。

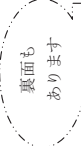


※ 歴史勉強会・・・4/14(土) 10:00～12:00
3階 研修室

- 1. 「先生が博物館に来る理由・・・」
教育普及池原学芸員との意見交換会
- 2. 新年度の活動方針、計画の打合せ その他

- ※ 美工勉強会・・・未定 (ポラテンアイア室の掲示版をご確認下さい)
- ※ 自然勉強会・・・未定 (ポラテンアイア室の掲示版をご確認下さい)

◆ 参加希望者は、ポラテンアイア室の掲示版に名前の記入をお願いします。



～ 教育普及 ～
※必ずご参加ください!!

平成24年度登録証交付式 と 全体会

があります。

★4月27日(金) 14時～16時ごろまで ☆美術館講座にて☆

* 全員参加をお願いします。(お仕事の都合等どうしても参加の出来ない方は、教育普及(池原)までご連絡ください) * 登録証の色が黄色に変わります。... 昨年度の登録証と引換になります。

☆...☆ 2年間お世話になりました...☆

平成22年度から2年間お世話になりました。ポラテンアイアの皆さんには、言葉に言い尽くせない感謝の気持ちです。いつも笑顔と優しい声かけのおかげです。私も、昔から親に「人のことはかややって」「人に流されてばかりで」と叱られてばかり。ここに来る前は「人のことばかりやって、自分が疎かになって嫌気がさしていました。しかし、ここに来て皆さんと一緒に活動するうちに考え方が変わりました。「人が喜んでくれるなら、自分も喜んであげよう」というポラテンアイアの方の姿勢に、感動を受け、また、自分のやってきたことを肯定された気がして、心からほっとしたことを覚えておきます。

旧館から新館に移り、戸惑っていた主要メンバーの方も段々この状況になじみ、ポラテンアイアの各勉強会や曜日班での活動も活発化してきました。この2年間の間に起った改革に色々と不安や不満もあつたかとは思いますが、ふり返って見て「変わってよかった」と思っています。せっかく場所を覚えたので、学芸員室にも足を運んで色んな学芸員とたくさん関わらせてください。ね。私は囁き職員として博物館を去りますが、引継ぎも兼ねてらちよこちよこ訪ねてくる予定です。見かけた時に声をかけていただけたらとでも嬉しいです。

最後になりますが、今後とも当館の教育普及活動にご理解とご協力を宜しくお願いいたします。毎月欠かさず皆さんへ通信を発行して下さっている友の会事務局のご尽力にも感謝いたします。みなさん、2年間ほんとうにお世話になりました。ありがとうございました。 (富貴記奈子)

～ No.2へつづく ～

第2回民俗班ボランティア館外勉強会 『琉球のノロ制度の終焉』

平成24年2月24日 嘉陽 宗博

春も近い2月24日(金)我がボランティア
民俗班は、一昨年に引き続き館外勉強会をあい
にくの空模様でしたが、男性6人女性15人総
勢21人が参加し山原で開催しました。

今回は琉球王朝時代ノロ組織を国家機構に組
み入れ、王様を精神的に支える体制を整え、間
得大君を頂点としたノロの歴史を勉強する絶好
の企画展『琉球のノロ制度の終焉』を「今帰仁
村歴史文化センター」で中原館長の解説で受講
しました。

中原館長は平素より多忙を極めた方で、県博
の我が民俗班に理解を示され、大変貴重な時間
を割いて引き受けていただき、感謝を申し上げます。

その後昼食をはさみ、隣にある「今帰仁城址」
をガイドの山本英康さんに案内していただきま
した。我々の熱心に聞き入る様に解説も力が入
り、ついつい時間をオーバーしてしまいました。

今帰仁を後にして一路「名護博物館」へ移動、
専属ガイドの方の非常に詳しい案内で見学する
事が出来ましたが、ここでも制限40分を20
分もオーバーしてしまいました。

今回の勉強会で昼食弁当は地元注文、各「道
の駅」での買い物など、北部地域経済活性化に微
かながら貢献したのではないのでしょうか。

午後5時30分全員無事館オツカレサマでし
た。



～ 教育普及 ～



よろしくおねがいします！
常展妃奈子さんの後任として教育普及に配属されました久田千春と申します。
教育普及ってどんな仕事だろうと不安と期待を持ちながら県立博物館へ
やってきました。今はただひたすら、妃奈子さんから引き継いだ書類と
にらめっこし、池原さんにいる教わりながら仕事を覚える毎日です。
ボランティアの皆様にもご指導賜りたいと思いますので、どうぞよろしくおねがいいたします。

～ 文化の社 ～

今日、ボランティア通信がお手元に届いた方は、 感じています。さて、現在、平成24年度博物館ボ
朗ランテニア [第5期生]を募集しています。5月16
今期も継続して、博物館をご支援される皆さんで
ランテニア (金) の、博物館ボランティア全体
日 (水) から養成講座が開講し、10月に正式登録
会は、いかがでしたか?この原稿を書いているの
を予定しています。今期から、新たに活動を土日
祝日に限定した、「ふれあい体験室支援ボランティア
は全大会前なので、皆さんが今年度の活動方針を
ア」の募集を始めました。先輩ボランティアの皆
どのように受け止めるのか、少しドキドキした気
さんが、活動のしやすい環境を整えて下さいます
持ちです。昨年度は、ボランティアが主体となり、
た。新ボランティアさんを牽引して下さること
動き始めたことがたくさんありました。今年度は、
それらを土台に躍進の年になると、期待を込めて
を願っています。(渡部)

～ 5月の勉強会 ～

- ※ 民俗勉強会・・・今月はお休みです。
- ※ 歴史勉強会・・・5/12(土) 10:00～12:00 3階研修室
1. ガイドマニュアルの内「移民と出稼ぎ」・「軽便鉄道」についての勉強会
*ガイドマニュアルを持参して下さい。
- ※ 美工勉強会・・・5/20(日) 15:00～16:00 3階展示会場
2. 総合展示室でガイドの予定 3. 今年度「年間計画」の打合せ
1. 与那嶺一子学芸員による「紅型の文様」の展示解説会
*当日会場に集合して下さい。解説会終了後、連絡会をします。
※ 自然勉強会・・・未定 (ボランティア室の掲示版をご確認下さい)
※ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いいたします。

～ 教育普及 ～

第5期生 養成講座スタート!



【A】の開校室の様子

前年度休止していたボランティアの募集ですが、今年度再開したところ【A】に48名の申込みがありました。5月16日に行われた開講式では、みなさん緊張の面持ちで参加されました。

9月からの専門講座修了後の本登録に向けて、現在審判中です！
先輩ボランティアのみなさま、
暖かい目で見守ってください。



*【A】と【B】の養成講座は、別々に開催中です
*【A】は、10月19日に登録証を交付します

ふれあい体験室専属ボランティア【B】の開始!

今年度からふれあい体験室専属のボランティア養成がはじまりました。従来の講座と区別するために、ボランティア養成講座【B】という講座名になっています。11名の方々から講座を受講中です！
ふれあい体験室以外のことは知らないの、ぜひ色々とアドバイスしてあげてください。

*【B】は、7月7日に登録証を交付します



【B】の講座の様子

～ 文化の社 ～

今年度に入り、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校の子どもたちに対するガイドが本格的に始まっています。民俗班の有志の方々が、昨年1年をかけた準備をし、今日の実施に至りました。その熱意に、頭が下がります。修学旅行のため、事前の下見もなく、また前後の日程の関係で、当日になって来館時間が守れることもあり、目的が明確な民

◆◆◆ 6月の勉強会 ◆◆◆

- ※ 民俗勉強会・・・6/2 (土) 10:00～12:00 ボランティア室
- 1. バックヤードでの勉強会 (講師：岸本 敬 民俗担当学芸員)
- 2 民俗展示室で海のワザを勉強します。 *ガイドマニュアルを持参下さい。
- ※ 歴史勉強会・・・6/9 (土) 10:00～ 3階研修室
- 1. 「貝塚のムラから琉球王国へ」、「琉球王国の成立」の勉強会
- 2. ガイドの実践 *ガイドマニュアルを持参下さい。
- ※ 美工勉強会・自然勉強会・・・未定 (ボランティア室の掲示版をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。

～ 教育普及 ～

「体験学習教室」4月28日・29日

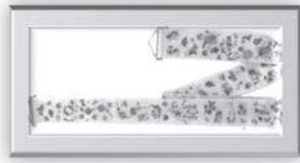
4月に博物館体験学習教室「紅型にチャレンジ」を行いました。美術工芸勉強会の方々を中心としてボランティアさんにご協力いただきました。ありがとうございました！



先生に指導してもらおうボランティアのみなさん。 当日はテレビの取材もきました！



スタッフも引き体験！
みんなで作りました。



10メートルの紅型 完成!

興那第一子学芸員と受講生のみんなが民家横の脚の苦麻から糸作り始めて3年目、紅型展の関連催事として右のような作品が仕上がりました。これは最後に琉服に仕立てる予定です。

完成までには、たくさんの方々、ボランティアのみなさんにご協力いただきました。みなさまありがとうございました！

2009年6月～2010年2月<糸づくり>

2009年10月～2010年3月<布織り>

2012年5月5日<染め>

連絡事項：「夏休み！博物館学芸員教室」ボランティア募集

7/25 (水)・7/26 (木)・7/27 (金)の3日間、こどもたちを対象に「夏休み！博物館学芸員教室」を行います。お手伝いできる方、ご協力よろしくおねがいします！
詳細はボランティア室に掲示してあるのをご確認ください。

～ 文化の社 ～

今年度から新たに募集を始め、活動を土・日・月・火の4日間に限定した。【B】ふれあい体験室支援ボランティアの進捗状況をお知らせします。また正式な加入は、義務付けられてはいませんが、全体の情報共有のために、ミーティングに参加することをすすめています。土・日曜日班の皆様、新しいメンバーが訪れた際には、皆様のノウハウを受け継いでいただけてください。ぜひ、勉強会・お食事会にもお誘いをお願いします。(渡部)

◆◆◆ 7月の勉強会 ◆◆◆

- ※ 民俗勉強会・・・7/7(土) 10:00～12:00 ポラテンアイア室・民俗展示室
 1. 民俗展示室でアギノワザ、暮らしに生きる自然素材の勉強会をします。
 2. 龍島や小規模校の小・中、在校生に対する展示ガイド対応の現況について。
*ガイドマニュアルを持参下さい。
- ※ 歴史・考古勉強会・・・7/14(土) 10:00～12:00 3階研修室
 1. 「琉球を訪れた異国船」の勉強会
ガイドマニュアルの項目の内上記について勉強します。
 2. ガイドマニュアルにそってガイド、解説を実施します。
*ガイドマニュアルを持参下さい。
- ※ 美工勉強会・・・7/28(土) 15:00～17:00
 1. 「間得大君」の装身具について

※ 自然勉強会・・・未定 (ポラテンアイア室の掲示版をご確認下さい)

◆ 参加希望者は、ポラテンアイア室の掲示版に名前の記入をお願いします。



発行日：2012年 7月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

～ 教育普及 ～

●ポラテンアイア養成講座修了(7/6)

全講座出席というきびしい条件のもと受講者48名中42名の方が養成講座を無事に修了いたしました！ 各学芸員の話に知的好奇心を刺激され、講座を通して展示への興味を深めたようです。本登録までがんばってほしいと思います！

●ポラテンアイア 本登録(7/7)

ふれあい体験室専属のボランティアB9名の方が正式にボランティア登録し、活動を開始しました。主に土日祝祭日の活動となります。慣れない活動にまだまだ不安もあるようですので、先輩のみなさまのサポートをよろしくおねがいします。

◇予定表(黒板)の名札の区別
 白＝継続ボランティア
 黄色＝ボランティアB
 付箋＝ボランティアA (実習)



～ 文化の社 ～

4月募集の5期生養成講座も7月に終了し、いよいよ9月からは専門講座に入ります。今回、60名の中から、従来の活動を中心とした博物館ボランティア42名が仮登録、土日祝のみ活動のふれあい体験室支援ボランティア9名が登録されました。その後、仲間も増え、活動の輪も広がり、現在も着々と資料を増やしています。

実際にお話を伺っていると、様々な真話やエピソードがあり、つづきは来月に書きます。(大瀧)

◆◆◆ 8月の勉強会 ◆◆◆

- ※ 民俗勉強会・・・8/4(土) 10:00～12:00 ポラテンアイア室・民俗展示室
 1. 沖縄の衣食住、年中行事と隣よけ
 2. 9月の勉強会について (館外勉強会を予定)
- ※ 自然勉強会・・・8/10(金) 10:00～12:00 3階会議室
 1. 山崎仁也先生による第1回勉強会「沖縄の生態系について」
今春から博物館にいらした山崎先生と一緒に勉強しませんか。
- ※ 歴史・考古勉強会・・・8/11(土) 10:00～12:00 3階研修室
 1. 「阿母加那志正装」の勉強会
- ※ 美工勉強会・・・未定 (ポラテンアイア室の掲示版をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ポラテンアイア室の掲示版に名前の記入をお願いします。



～ 教育普及 ～

民具体験学習が始まります！

9月になりました。民具体験学習の学校団体の来館の時期となりました。昨年度は小学校3年生と4年生が入りまじり、数多くの学校の来館がありました。今年度から教科書の内容が完全に移行したことから、ほとんどが「小学校3年生の来館学習」となります。(一部4年生も有/並ラジラ7室に詳細掲載)

8月23日現在23校から申込みがあります。今年も皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

～ 文化の社 ～

先月に続き新聞スクラップ活動についてお話 ようです。この1冊の日記が着実にこなしていく上での秘訣であると教えていただきました。

10月には博物館ボランティア5期生の皆さんも仲間に加わります。ボランティア活動がさらに充実することを願います。美術館は、まもなく資料整理活動が始動します。博物館の活動は近頃はメンバーも増えつつあり、メンバー同士の参考にしながらかっこよく頑張りたいと思います。(大瀬) できるような頑張りたいと思います。(大瀬)

◆～◆ 9月の勉強会 ～◆～

- ※ 歴史勉強会・・・9/8(土) 10:00～ 3階研修室
- 1. ガイドマニュアルの「生活用品が語る戦後」についての勉強
- 2. ガイドマニュアルの「フラッシュカード」についての打合せ
- *ガイドマニュアルをご持参下さい。

- ※ 自然勉強会・・・9/14(金) 10:00～ ボランティア室
- 仲里 健先生による「沖縄の石から学ぶ!!」

- ※ 民俗勉強会(館外)・・・9/29(土) 10:00～16:00

1. 読谷村高志保「Gala 青い海」にて塩の製造過程の勉強及び塩づくりを体験
2. 読谷村立民俗歴史資料館の見学。

*9.15(時間厳守)ボランティア室集合...*詳細は掲示版をご確認下さい。...

- ※ 美工勉強会・・・未定 (ボランティア室の掲示版をご確認下さい)

- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。

～ 教育普及 ～

10月19日(金) 16:00～『ボランティア全体会』があります。

→原則ボランティア全員参加です!!←

ボランティア第5期生対象の専門講座が9/28(金)～10/19(金)の期間行われます。最終日の10月19日には登録証が交付され、正式に皆様の仲間入りいたします。引き継ぎ行われるボランティア全体会で新旧の顔合わせを行います。

新人ボランティア(第5期生)の皆さんをむかえ、これまで、そしてこれからのボランティア活動を認める場となります。博物館ボランティア全員に参加してもらおう大切なものです。

～ 文化の社 ～

11月16日(金)・17日(土)の2日間、栗国島 質問攻めをすずおお客様に生き生きと対応されてい総合センターで「移住展 IN 栗国島」を開催します。

体長9メートルのサウロロフスも1年に1度のお 職員ではできない、温かみのある丁寧な対応、本披露目です。昨年2月の宮古島の開催では、10 当にありがとうございました。さて、今年も「移動展キヤラバン隊」を募集します。友の会に入会人以上のボランティアの皆さんにお手伝いいただき、約6,200人の見学者を迎えることができまし されたいる方は友の会事務局へ、それ以外の方は、た。体験キット「骨スーツ」や「ちむドンドン」 文化の社中村までお問い合わせください。(中村) を披露したり、毎日のように遊びに来る親子や、

◆～◆ 10月の勉強会 ～◆～

- ※ 民俗勉強会・・・10/6(土) 10:00～12:00

民俗展示室での勉強会

10月以降の離島や小規模校の展示ガイドの対応についての話し合い。

*ガイドマニュアルをご持参下さい。

- ※ 歴史勉強会(館外)・・・10/13(土) 9:50集合 10:00出発

ボランティア室へ集合 *2時間程度(雨天中止)

照屋清雄氏による『那覇歴史散策』

崇元寺・十貫類・美栄橋・天使館跡等々を散策

- ※ 美工勉強会・・・10/27(土) 15:00～17:00 ボランティア室

貢納布について

- ※ 自然勉強会・・・未定 (ボランティア室の掲示版をご確認下さい)

- ◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。

～ 教育普及 ～

～ 第5期ボランティア登録～

10/19(金)に行われた登録証交付式にて、31名の方が博物館第5期ボランティアとして登録いたしました。養成講座と専門講座のすべてを受講し、十分な条件のもと、登録までが完了した第5期生の皆様、ほんとうにおつかれさまでした。ボランティアの皆様、ほんとうにおつかれさまでした。ボランティア登録の程よろしくおねがいします。

	
平成24年度登録ボランティア数	5期生 A=31名
	B=9名
	1～4期生=56名
	総数96名

※11月は学校団体見学(民具体験)の数が多いためボランティア参加よろしくおねがいいたします。

～ 文化の社 ～

今月から、平成24年度の博物館ボランティアは、第5期のメンバーが加わり、より一層活気に溢れてきました。初心を思い出された継続ボランティアの皆さんもいらっしやるでしょうか? ふれあい体験室にも、



坂部 眞子



新川 将夫



委蔵名 健吉



草良 高人



龍川 裕子

◆◆◆ 11月の勉強会 ◆◆◆

- ※ 歴史勉強会・・・11/10(土)10:00～12:00 3階研修室
 1. ガイドマニュアルから「琉球王国の衰亡」と「琉球処分」の勉強
 2. ガイドマニュアルのフラッシュカード作成の検討

*ガイドマニュアルをご持参下さい。

※ 民俗勉強会・・・11月はお休みです。

※ 美工勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示版をご確認下さい)

※ 自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示版をご確認下さい)

◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。

～ 教育普及 ～

～ 移動展 in 粟国 (11/16～11/17) ～

今年の移動展の会場は粟国島。11/16(金)・11/17(土)の2日間で総勢470名(博274名・美196名)のお客さんがきてくれました。来館者の皆さんは展示に興味深々で、子ども達も熱心にワークシートに取り組んでいました。スタッフとしてキャラバン隊12名(友の会有志)も参加していただき、展示解説、紙芝居「ちむどんどん」、骨スーツのお手伝いにご活躍でした。みなさま、ありがとうございました。

5期生のみなさまへ

曜日班の人数に偏りがあったため曜日班変更を12月まで可能といたします。12月の曜日班会議に参加して各自の曜日班を確定してください。曜日班・勉強会の出欠等に関しては各世話係へ連絡するようお願いいたします。



骨スーツ



ちむどんどん

～ 文化の社 ～

新編のボランティアを対象とした講座が終了し、少しややこしい状況ではありますが、ちよつとしたことでも構いません。曜日班の月1回の定例会や、日々の活動の中で、先輩ボランティアや私たちスタッフに気軽に声をかけてください。先輩ボランティアの皆さん、新編ボランティアの皆さん、どうぞよろしくお願いします。/友の会を通じ、「移動展 in 粟国」に同行いただいた12人のキャラバン隊の皆さん、お疲れ様でした。実質400人といわれる島で、リーダーを含めてではありますが、博物館展示に昨一年一昨年の石垣・宮古の移動展に比べ、お客様の数は少なかつたですが、一人ひとりに対し、とても丁寧に対応していただきました。お客様の満足度も高かつたのではないかと感じています。ありがとうございます！(中村)

◆◆◆ 12月の勉強会 ◆◆◆

- ※ 民俗勉強会・・・12/1(土)10:00～12:00 3階会議室
 1. 民俗担当学芸員の岸本敬先生の出席をいただいたの勉強会
 2. 石垣市登野城の『結願祭』を収録したビデオ鑑賞(岸本敬先生収録)
- ※ 歴史勉強会・・・12/8(土)10:00～12:00 3階研修室
 1. 崎原恭子学芸員の講演(資料の紹介)
 2. フラッシュカードについての打合せ *ガイドマニュアルをご持参下さい。

※ 美工勉強会・自然勉強会・・・未定(ボランティア室の掲示版をご確認下さい)

◆ 参加希望者は、ボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。

◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。



ボランティア登録の更新＝《継続希望受付の開始》

新年あけましておめでとうございます。
昨年ボランティアの皆様には、博物館来館者への各種支援をいただいた大変ありがとうございました。今年も引き続き、来館者への支障充実に期待をいたします。どうぞよろしく願います。

さて平成24年度も残り3カ月となりました。
12月のボランティア連絡会の場で、曜日の世話係のさんへ「平成25年度博物館ボランティア活動方針」を説明しました。★**定例の曜日班会議で説明を受けてください**
尚、1月のボランティア連絡会では「平成25年度博物館ボランティア登録申請書」を配布します。一提出期限を確認し、申請書の提出をお願いします。(博物館教育普及)

～ 文化の杜 ～

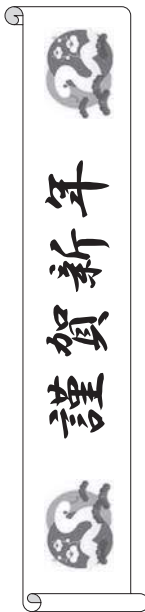
新年の目標は「共育」です。ある方から、30代には30代の働き方があると教わりました。振り返れば社会に出て10年以上が過ぎていきます。個人ではなく、お客様やスタッフ、そしてボランティアの皆様と向上しあう関係を作っていきたいと思えます。ちなみに、昨年の目標は「安全管理」でした。警備設備に協力を仰ぎながら、不十分ではあります。訓練を行ったり、連絡体制を周知することを意識しました。館に携わる一人一人の気持ちや、少しでも変わってくれたとすれば嬉しいと思います。(中村)

旧年は、ふれあい体験室の卒業・発履のためにできたことがいくつもありました。なかでも、成果を感じていることは、毎週土曜日のふれあい博士のワークショップシリーズです。体験キットに基づいて3ヶ月毎にプログラムを変えて開催しました。夏に開催した「薬師神本のしおりづくり」では、参加者から「夏休みの理科系コンクールで表彰されました!」という報告をいただき、とても嬉しく思いました。ボランティアの皆さんと学芸員のお力を借りて、実施することができました。昨年掲げた「ふれあい体験室をみんなであらうか?」という目標が少しは達成できたでしょうか。来年度も継続して取り組みたいです。(渡部)

昨年は、民具体験や移動展、様々な場面でボランティアさんとふれあう時間が増えた一年となりました。それに加え、5期生の募集からは、初めての経験で私自身とても勉強になりました。今年も目標は、2つあります。1つは、発掘の研究を行い、民具体験をはじめとする様々な場面でコミュニケーションを上手くとれるように努めること。2つめにボランティアの皆さんと一緒に勉強しながら博物館の活動を盛り上げることです。積極的に活動できるように心がけたいと思います。(大瀧)

◆～◆ 1月の勉強会 ～◆◆

- ※ 民俗勉強会・・・1/12(土) 10:00～ 3階会議室 民族展示室解説勉強会
11:30～ 新年会 *詳細は掲示版をご確認下さい。
- ※ 歴史勉強会・・・1/12(土) 10:00～ 3階研修室 フラッシュカード作成検討
*ガイドマニュアルをご持参下さい。
- 11時過ぎ～ 新年会 *詳細は掲示版をご確認下さい。
- ※ 自然勉強会・・・1/18(金) 13:30～15:00 *山崎学芸員による「大山屋港川人」の解説会
- ※ 美工勉強会・・・1/19(土) 15:00～17:00 * 岡原学芸員による「美工室」の展示解説会
- ◆ 参加希望者は、2日前までにボランティア室の掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。



新年のごあいさつ

沖縄県立博物館・美術館副館長 千木良 芳範
ボランティアの皆さん、明けましておめでとうございます。博物館のボランティア活動が新しい方向を目指して、早くも三年が過ぎようとしています。皆さんと一緒に、また新しい年の始まりを迎えられたことを、うれしく思います。
私たちが目指すボランティア活動には、大きく三つの目標があります。一つは「自己実現と生きがいの発見」、二つ目に「ボランティアの拠点やアイディアをいかした博物館運営」、そして三つ目が「利用者にとってのサービスの充実」です。とりわけ三つ目の目標がこの三年の大きな柱であつたと考えています。つまり、来館者のニーズから生まれるボランティア活動の実現といつていいでしょう。

とはいえ、ボランティア活動は、自分で学習機会を得、その成果を生かすことが基本です。自分の研鑽が他人を喜ばせる。自分のためでありながら、他人のためでもある。そんなボランティア活動を、これからも継続してほしいと思います。

県博で迎える最後のお正月に...

新年おめでとうございます

沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体代表 平良知二
明けましておめでとうございます。昨年中のご協力に感謝し、こつとも博物館・美術館の発展のため働く喜びを共有していきたいと思えます。
開館六年目になりましたが、県立博物館・美術館の存在は多くの県民に知れ渡っていると自負しておりますが、実は入館者の数は開館当初に比べ減少し、「頭打ち」の状態です。企画展入館者も伸び悩んでいます。こつしはこの状況を何とか打破したいものです。
来館者に日々接するボランティアの皆さんの役割は、その意味でも大きいものがあります。文化の杜共同企業体も頑張ります。一緒に前進しましょう。

発行日：2013年 1月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

～ 教育普及 ～

●平成25年度のポラテンテイア登録について

長・博物館のポラテンテイアを続けられている方々、新たにポラテンテイア登録された5期生の方々、あわせて約90名のポラテンテイアが日々活動されています。みなさまもいろいろとご紹介します。
 次年度の活動のための申請書提出の時期となりました。ポラテンテイア活動を継続希望される方は下記を参照の上、登録申請書を提出されるようよろしくお願い申し上げます。

<p>◆ポラテンテイア 申請書受付期間：2/19(火)～3/5(火) ※平日・17時まで 提出方法：3階学芸員室の池原へ手渡し (面談と活動評価結果の通知があります)</p>	<p>◆ポラテンテイアB(ふれあい体験室専属) ポラテンテイアBの皆様は3/3の会合時に 申請書の提出と面談があります。 ※出席出来ない方は事前にご連絡ください。 日時：3月3日(日) 10時～12時 場所：ポラテンテイア室</p>
---	---

◎更新研修について

ポラテンテイア活動回数が少ない方を対象に更新研修を行います。対象者は面談時にてご報告いたします。
 更新研修＝3月13日(水)・21日(木) 両日の参加必須 午前10時～12時(実習室にて)
 ※ポラテンテイアBの方の研修内容は3月3日の会合にて詳細報告。

●学校団体対応(民具体験)参加の呼びかけ

今年度の小学校民具体験は2月をもって終了となりました。参加されたことのない方はこの機会に民具体験にチャレンジしてみてください。(ポラテンテイア室に募集掲示、見学・補助参加も可)

～ 文化の社 ～

こんにちは。ふれあい体験室スタッフの安藤名です。思うところがありました。また、いくつになっても、大学の卒業を機に、2月の勤務でふれあいスタッフの仕事を退職します。取り方など見習うことが多くあります。最後に、ふれあいの仕事をサポートしていただき、自然、時には人生の事など色々な話題のお話を聞か、ありがとうございました。体に気を付けて元気に活躍してください。(安藤名健吾)

◆～◆～ 2月の勉強会 ◆～◆～

- ※ 民俗勉強会・・・2/2(土)10:00～12:00 ポラテンテイア室及び民俗展示室
- ※ ガイドマニュアルを活用しての勉強会 * ガイドマニュアルをご持参下さい。
- ※ 歴史勉強会・・・2/9(土)10:30～12:00 3階研修室
- 1. 午前：岸本私人学芸員による講演(演題は未定)
- 2. 午後：製糖工場見学13:30～ * 詳細は掲示版をご確認下さい。
- ※ 美工勉強会・自然勉強会・未定(ポラテンテイア室の掲示版をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ポラテンテイア室の掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。

発行日：2013年 2月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

～ 教育普及 ～

●平成24年度ポラテンテイア活動の終了

平成24年度も終わりを迎えようとしています。ふれあい体験室や学校団体見学サポート、新聞記事取り抜き、体験学習サポート等々、様々な場面でポラテンテイアの皆様には活躍していただきました。民俗勉強会メンバーによる民俗分野展示ガイドも好評を得ながら順調にすすみ、また、10月に加わった新メンバーもいまでは先輩ポラテンテイアと肩をならべて活動していらっしゃいます。それぞれ得意分野や活動の場は違っても、共通して“本館者のために”という想いでポラテンテイア活動に取り組んでいただきました。一年間の活動お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。今後皆様様の協力を得ながら本館者に喜んでもらえる博物館作りを進めていきます。よろしくおねがいします。

●ポラテンテイア証交付式のお知らせ

平成25年度のポラテンテイア登録申請書を提出された方々へお知らせです。下記の日程で平成25年度登録証交付式を行います。現在使用の登録証は当日新しいものと交換(色が異なります)します。ふれあい体験室専属ポラテンテイアさんも同じ日に交付します。

継続ポラテンテイア登録証交付式 = 4月26日(金) 午後2時～5時

～ 文化の社 ～

民具体験も2月をもちまして26校2190人すべての対応が終了しました。ご尽力いただきましたポラテンテイアの皆様ありがとうございました。今年は、先輩・新指ポラテンテイアさんが共に協力し学習サポートする姿が印象的でした。新指ポラテンテイアさんに関して、養成講座で研修を受けていますが、実際に参加すると戸惑うことが多かったと思います。中でもよく相談を受けたことは“子どもたちに対する発問”です。ポラテンテイアの皆さんは、それぞれの発問方法をお持ちだと思いますが、今回は、私の方法を少し紹介いたします。私は、ポラテンテイア室にある児童の感想から、材料集めをしています。感想文には児童が博物館で興味を持った体験や気に入っ

◆～◆～ 3月の勉強会 ◆～◆～

- ※ 民俗勉強会・・・3/2(土)10:00～12:00 ポラテンテイア室及び民俗展示室
- 1. ガイドマニュアルを活用しての勉強会 * ガイドマニュアルをご持参下さい。
- 2. 平成25年度の勉強会について、及び世話人選任について(民俗担当学芸員の岸本先生参加)
- ※ 歴史勉強会・・・3/9(土)10:30～12:00 3階研修室
- 1. ガイドマニュアルの中から、古戦地原貝塚の世界、米重車面とナンパープレートについての勉強会 * ガイドマニュアルをご持参下さい。
- ※ 美工勉強会・自然勉強会・未定(ポラテンテイア室の掲示版をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ポラテンテイア室の掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示版での確認をお願いします。

XI その他

1 移動展

名称：第5回 沖縄県立博物館・美術館 移動展
会期：平成24年11月16日（金）～17日（土）
開催時間：午前9時～午後7時（金曜日は10時から）
開催地：沖縄県栗国村（栗国村離島振興総合センター、島あしび館）
対象：一般
観覧料：無料
主催：沖縄県立博物館・美術館、文化の杜共同企業体
栗国村、栗国村教育委員会
協賛：琉球海運株式会社



趣旨

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが難しい離島の方々にも、県民の財産である当館の博物館資料や美術品を移動展の展示として見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供することを目的としている。

会場：沖縄県栗国村（栗国村離島振興総合センター、島あしび館）
宮古島市総合博物館（講演会、宮古島関連資料等展示）

展示内容

【総合センター】

- ①「世界の化石と輝く石」恐竜の骨格標本、岩石
- ②「沖縄の自然、歴史、文化」沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
- ③ 教育普及展示 教育普及キットを利用した体験学習

【島あしび館】

- ④「沖縄の美術」美術・絵画

(1) 移動展開催準備・当日の様子

※次頁参照

(2) 来場者数

総入館者数 470人（博物館229人、美術館196人）

内訳

○11月16日（金）274人

博物館159人（70歳以上13人、一般62人、高大0人、小中57人、未就学児27人）

美術館115人（70歳以上12人、一般71人、高大2人、小中21人、未就学児9人）

○11月17日（土）196人

博物館70人（70歳以上5人、一般40人、高大0人、小中16人、未就学児9人）

美術館126人（70歳以上9人、一般64人、高大1人、小中44人、未就学児8人）

野外観察会：参加者24人

11/16（金）19：00～20：30「栗国村に生息する光る生き物を探そう」山崎仁也（生物）

学芸員講座：参加者14人

11/17（土）10：30～12：00「凝灰岩が語る栗国島の起源-トゥージに至るまで-」仲里健（地学）

キュレータートーク：参加者4人

11/17（土）14：00～14：30「美術館ギャラリートーク」仲里安広

栗国村の協力で地元広報誌における告知ができた。その成果として、島民の約60%にご来場いただいた。会場では、何度も足を運ぶお年寄りや子どもの姿や職員とコミュニケーションをとる様子も伺えた。教育普及催事や学校団体の受け入れを積極的に行うことができた。

（大瀨萌子）

移動展開催準備・当日の様子



01 展示作業風景



02 開会式テープカット



03 学芸員による解説



04 友の会による支援



05 紙芝居ちむどんどん



06 骨スーツ



07 野外観察会の様子



08 講演会の様子

2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の印刷・作成を小・中学校に依頼している。

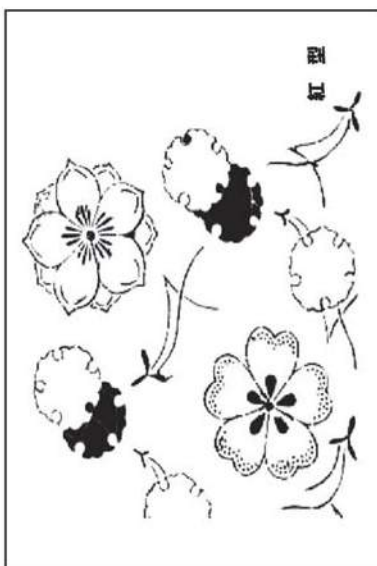
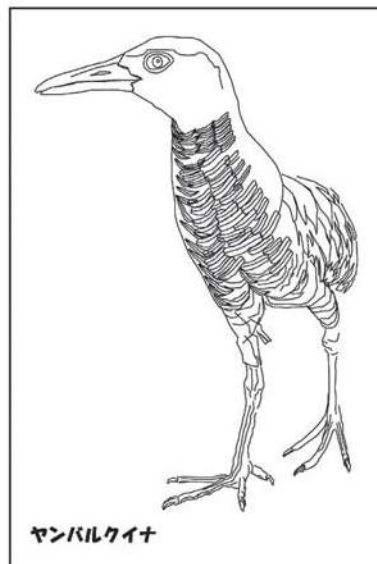
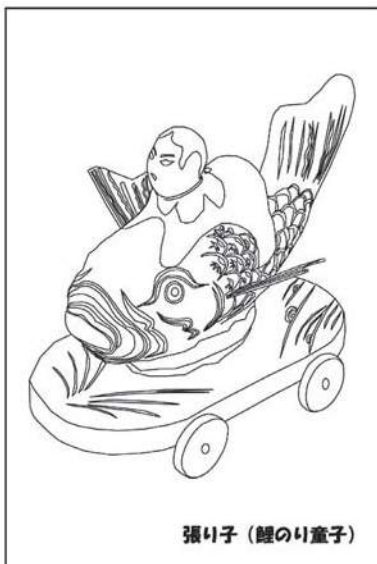
表紙は沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよい。裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印できる形になっていて、学校で印刷した上で、裏面に校長印を押印し、来館時に総合案内に提出する。

利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

平成22年度から、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴム）をプレゼントしている。今年度の対象者は0名。

(中村愛)

【表紙】



【裏面】

沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!!				
				10
				ちょっと半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!

沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!!				
				10
				ちょっと半分だよ!
				20
もう少し!				30
				ゴール!!

3 職場体験

博物館では、平成15年度から、学校の計画する就業体験学習を受け入れている（平成18・19年度は新館移転準備のため休止）。平成22年度から、文化の杜が問い合わせと対応の窓口となり、指定管理者が担う展示交流員やもぎりなど、主に来館者サービスに従事する業務を体験した。

今年度は、16件の依頼があったが、他校との日程の関係や館内行事の都合上、9校25名を受け入れた。近年の特徴として、学校ではなく保護者から直接依頼が来るケースが目立つ。

今後は、生徒がより自主性を持った体験ができるよう、受け入れ時期や人数、体験内容の見直しを行いたい。

（島袋・中村）

体験内容：展示交流員（展示室における監視業務）、もぎり（入場券の確認）、ふれあい体験室（来館者への展示紹介、ワークショップの準備）、ミュージアムショップ（接客、商品の管理）、学校対応（小学校が来館した際の民具体験補助）

※7月4日～6日に受け入れた3校は、期間中の1日、学芸員業務の一つである資料整理を行った。

受け入れ校：9校25名（小学校2校、中学校3校、高等学校4校）

- ①那覇市立首里中学校(3名)7月4日～6日(3日)
- ②沖縄県立浦添工業高等学校(2名)7月4日～6日(3日間)
- ③那覇市立松島中学校(2名)7月4日～5日(2日間)
- ④那覇市立真和志小学校(2名)8月8日(午前のみ)
- ⑤那覇市立鏡原中学校(3名)9月4日～6日(3日間)
- ⑥沖縄県立開邦高等学校(3名)9月26日～28日(3日間)
- ⑦沖縄県立那覇商業高等学校(2名)10月17日～19日(3日間)
- ⑧なはグッジョブ連携協議会実施「ジョブシャドーイング」
那覇市立若狭小学校(5名)11月27日(午前のみ)※1
- ⑨沖縄県立那覇国際高等学校(3名)12月12日～14日

※1「ジョブシャドーイング」は米国で定着している職業教育の一つであり、中学生や高校生が半日程度、企業に赴いて従業員に密着し、職場での仕事ぶりを観察する、というものである。今回は、5名の児童が、それぞれ博物館、美術館、文化の杜の職員に割り振られ、来館者対応や会議の場に同席した。



4 けんぱくキット貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸出しています。貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等です。事前（一ヶ月前）に申請等の手続きが必要となり、貸出期間は一週間となります。無料で貸出しておりますので積極的に活用してください。資料の詳細についてはお問い合わせください。

平成24年度 けんぱくキット貸出一覧

- 1 利用者名：城岳小学校
利用目的：読み聞かせ
貸出期間：7月17日～7月20日
資料名：ちむドンドン

- 2 利用者名：天久保育所
利用目的：誕生会アトラクション
貸出期間：8月23日～8月24日
資料名：ちむドンドン

- 3 利用者名：西原東小学校
利用目的：展示と説明（生徒による）を行い、①「骨格」について学ぶ②動物と人間の体のちがいについて知る
貸出期間：10月19日～10月22日
資料名：骨スーツ

- 4 利用者名：当山小学校
利用目的：社会科授業
貸出期間：2013年1月29日～2月1日
資料名：むかしむん

- 5 利用者名：デイサービス ViVi まわし
利用目的：眠っていた記憶を呼び覚ます「回想法」
貸出期間：2月18日～2月21日
資料名：うす、たる、豆腐木杵、シンメー鍋、蓋、ハンマー、布

- 6 利用者名：松川小学校
利用目的：「やってみよう昔のせんたく」における、実物体験教材資料として
貸出期間：2月27日～3月6日
資料名：洗濯キット・むかしむん

5 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティア内の民俗班と歴史班は、来館者サービスの向上と自己研鑽を目的に、平成22年度から展示ガイドマニュアルを作成し、月1回開催される勉強会の中で、担当学芸員と一緒に勉強会や来館者を見据えたトレーニングを重ねている。

民俗班は今年度から本格的に、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）の子どもたちを対象とした展示ガイドを実施している。来館当日は、文化の杜スタッフが引率教員と担当ボランティアとの引き合わせをするが、＜教員との打ち合わせ～オリエンテーション～展示ガイド～まとめ＞までボランティアが先導して行っている。5月～2月の間に合計13校128人の受け入れをした。

歴史班は、研修を目的に来館した小学校教諭に対し、試験的に展示ガイドを実施した。ガイド終了後、参加者から意見や感想を聞き、マニュアルや声掛けの見直しを行った。

広報については、現在のところホームページ掲載のみであり、団体受付時の情報センタースタッフによる案内がきっかけとなり、申し込みをするケースが主であった。また、少数ではあったが旅行会社の添乗員による口コミ効果もあり、今後希望校が増えることが期待できる。

今後の課題としては、対象に合わせた言葉の選び方、発問の仕方に関する研究・実践をあげたい。また、小規模校の修学旅行の時期が集中するため、展示ガイドができるメンバーを増やすなどの努力が必要であるが、一方で、人数が増えると、解説レベルの維持やメンバー間の意思の疎通が難しくなり、新たな課題を抱えることが予想される。民俗班による展示ガイドは、ボランティアによる発案のもと、マニュアルの作成、試行期間等、長い時間をかけて実施に至った経緯がある。自立したボランティアを育成する上でモデルとなるケースであることから、学芸員や教育普及スタッフのサポートが求められている。

(中村愛)

(1) 民俗ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00

②所用時間：15分～30分

③対象：県内の離島をはじめとする20人以下の小学校・中学校・高等学校

④受付方法：

a「沖縄県立博物館・美術館博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。

(FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません)

bその後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡差し上げます。

※見学をする2週間前までの予約が必要です。(先着順)

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【15分】「海とのかかわりを学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜ウミのワザ、沖縄の住まいと衣食、年中行事と魔よけ＞

Bコース【15分】「昔の道具を学びたい子どもたちへ（田畑仕事を中心に）」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜アギのワザ、くらしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食＞

アギとは…ウミに対して、陸地を意味する方言、限られた土地を上手に利用して田畑をこしらえました。さまざまな仕事で使う道具にも人々の知恵と工夫をみることができます。

Cコース【30分】「民俗分野全体を学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室(村落をとりまく世界→御嶽と神人→訪ね来る神々→人の一生→ウミのワザ→アギのワザ→くらしに生きる自然素材→沖縄の住まいと衣食→年中行事と魔よけ→祭り→行事の現在→変わりゆく風景)

※メニューを基準に、内容の組み換えは可能です。

※現時点で、民俗分野以外の解説はできませんが、他の分野の展示物の見どころをお話しすることは可能です。(ただし、解説ではなく、展示物名を紹介する程度です。ご了承ください)

	日付	団体名	人数 (引率込み)	生徒数
1	5月9日	宮古島市立城辺小学校	19	16
2	5月9日	宮古島市立西辺小学校	15	12
3	6月1日	石垣島 学校法人カトリック学園 海星小学	12	9
4	6月5日	渡名喜村立渡名喜小学校	6	4
5	6月6日	宮古島市立狩俣小学校	8	4
6	6月15日	久米島町立比屋定小学校	14	10
7	6月15日	石垣市立明石小学校	10	7
8	10月3日	南城市立久高小中学校	9	7
9	10月4日	名護市立屋我地小学校	18	13
10	10月12日	東村立東小学校	18	8
11	11月30日	竹富町立大原小学校	9	6
12	12月14日	大宜味村立大宜味小学校	19	14
13	2月27日	豊見城市立豊見城中学校	5	2
合計			128	84



6 企画展関連事業

①復帰40周年記念「紅型BINGATA琉球王朝のいろとかたち」

関連催事として、シンポジウム1回(参照:IV博物館文化講座)、学芸員講座1回(参照:V学芸員講座)、体験学習教室1回(参照:Ⅲ体験学習教室)、展示解説会(参照:VI展示解説会)を4回、ワークショップを2回開催した。

ワークショップ「千代紙で琉服をつくる」

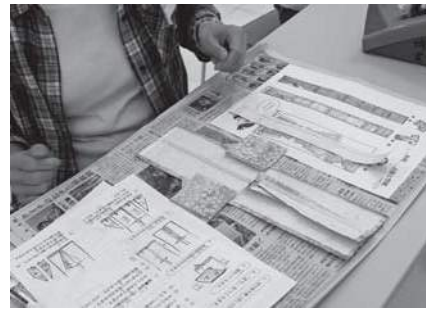
日時:2012年4月30日(月祝)14:00~15:30

参加者:14名(事前申込制/定員15名)(参加者内訳:小学生1名、大人13名)

講師:與那嶺一子(美術工芸担当学芸員)

場所:1階エントランス対象:小4~大人参加費:200円

前半は、着物はどんなふうになられているか、シャツやスカートと何が違うのか、実際にふれあい体験室の着衣体験用の琉装を、参加者に試着させながら解説。後半は、きれいな千代紙を使って、ミニ着物を作りながら、琉服の構造を学んだ。参加者以外にも、学ぶ機会を与えたいと考え、フリースペースであるエントランスで開催した。通りすがりの来館者も、與那嶺一子学芸員の解説に聞き入った。テレビ取材も入り、夕方のニュースで大きく取り上げられるなど、関心の高さを伺えた。



ワークショップ「みんなで紅型を染める！」

日時:2012年5月5日(土)10:00~、定員に達し次第終了(当日は14:30終了)

講師:琉球びんがた事業協同組合参加者:100名(当日先着/定員100名)

場所:正面玄関外(雨天時は博物館実習室)対象:小学生~高校生参加費:無料

その他:所要時間15分~30分/一度に体験できる人数が限られています。体験までお待ちいただくことがあります。/作品の持ち帰りはできません。

展覧会担当の與那嶺一子学芸員主導のもと、琉球びんがた事業協同組合と共同で開催した。組合に伝統工芸士の派遣、材料の準備を依頼し、文化の杜が事前調整、広報、当日の受付、記録を担った。布は、2009~10年に開催した、沖縄県地域文化芸術振興プラン「ものづくりの知恵を学ぶ体験プログラム」の中で苧麻から糸を繋ぎ、織り機で織った布を使用した(『沖縄県地域文化芸術振興プランものづくりの知恵を学ぶ体験プラン』2010)。約100名で染めた長さ10メートルの紅型作品は、2週間後に糊落としをした後、展覧会会場に展示した。展示をきっかけにこの取り組みを知る人も多く、ワークショップの意義を深めることができた。

2月23日(土)、3月3日(日)、3月20日(水祝)には、ボランティア有志を中心に、完成した紅型作品をスディナ(琉服)に仕立てるワークショップも開催し、72人の参加者を集めた。スディナ(琉服)はふれあい体験室で着衣体験ができる。



博物館常設展エピローグ「沖縄の現代生活」をテーマに写真募集

復帰40年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」関連事業として、一般県民より写真を公募した。教育普及は、その写真募集に係るチラシポスターの作成から7月末の応募受付までの業務を教育普及班で担当した。

締切までに応募のあった224点は、博物館3階の講堂側通路に設置のパネルに掲示した。また、写真審査会を8月末に行い、表彰式を開催した。

・業務概要と取組み期間

募集要項作成、ちらし・ポスター制作依頼：～平成23年3月末

告 知：平成24年 4月～

写 真 受 付：平成24年 7月10日～31日

写真作品審査会：平成24年 8月22日(水)13:00～17:00 博物館会議室にて

表 彰 式：平成24年10月27日(土)11:00～12:00



公演「お笑い本土復帰」

日時：2012年11月3日（土）2回公演13:00～14:00 16:00～17:00

脚本/演出：小波津正光（まーちゃん）

出演：山城智二・よっちゃん・まーちゃん・いさお名ゴ支部・知念だしんいちろう・パーラナイサーラナイ・ゴリラコーポレーション・ニッキー・ドラゴンエマニエルしょうご

参加者：367名（1公演につき定員200名／自由席）

場所：沖縄県立博物館・美術館講堂

価格：一般1,000円、高大600円、小中500円 ※展覧会前売券とのセット販売（当日券は200円増）

より広い世代に展覧会に興味を持ってもらうため、沖縄を風刺した笑いを展開する「お笑い団体FEC」が、復帰40年をテーマにコントを披露した。チケットは9月から当館ミュージアムショップ「ゆいむい」で販売し、公演前日に完売した。小さい子どもからダイサービスのお年寄りまで、皆声を出して笑ったり、沖縄が抱える諸問題に顔をしかめる様子が見られた。公演終了後は、3世代一緒に展覧会を見学する姿があった。



③沖縄県立博物館・美術館×八重瀬町具志頭歴史民俗資料館合同企画展

「大山盛保生誕100年記念発見への情熱」

関連催事として、文化講座2回（参照：IV博物館文化講座）、学芸員講座3回（参照：V学芸員講座）、展示解説会2回（参照：VI展示解説会）を開催した。また、マンガを活用した配布資料や、沖縄タイムス「ワラビー」での特集など、小中学生に興味を持ってもらうための働きかけをした。

コラボ企画「マンガ家大城さとしの博物館と発掘のウラ見ちゃいました」(全3回)

「パート1」 収蔵庫編2012年5月1日発行配布枚数：9500枚

「パート2」 港川フィッシャー編2012年7月15日発行配布枚数：9000枚

「パート3」 情熱は続く編2012年10月25日発行配布枚数：8800枚

沖縄タイムスで人気連載中の「おぼあタイムス」「エイトマン 糸満市ヒーロー課」の作者である大城さとし氏に当館の活動を取材の上、展示会開催までの約半年の間にパート1~3まで3回に渡りマンガを描きおろしてもらった(A4サイズ1枚)。近年、他館においてもマンガを活用して博物館を紹介する事例が見られるが、かたい博物館の取り組みを、やわらかく表現してもらうことを期待した。マンガは展示会の告知として、当館と八重瀬町具志頭歴史民俗資料館で配布した他、館周辺の小学校の児童生徒に配布した。

特集記事沖縄タイムス子ども新聞「ワラビー」

掲載日：2012年9月9日(日) 1面・8面

内容：「港川人の生活発掘調査だ」「沖縄化石がいっぱい」

その他：11月25日(日)、12月9日(日)、12月16日(日) 3面には、「マンガ家大城さとしの博物館と発掘のウラ見ちゃいました」が掲載された。

沖縄タイムスから毎週日曜日に発行されている子ども新聞「ワラビー」において、現在当館の人類担当学芸員を中心に進められている南城市サキタリ洞の発掘調査の様子が特集された。取材当日は、山崎真治学芸員の案内のもと、ワラビーリポーターの小学生2名とマンガ家の大城さとし氏が発掘体験をした。紙面においては、「港川人の生活発掘調査だ!」と題し、発掘することの意味や面白さ、化石研究の現状や大山盛保氏について山崎真治学芸員のインタビューが掲載された。

また、「マンガ家大城さとしの博物館と発掘のウラ見ちゃいました」もカラー化して紙面で連続掲載された。





1072 1973 1982 1987 1988 2000 2001 2002 2003 2004

博物館 × お笑い集団 FEC = !!

「お笑い東軍基地」やテレビ、CMでおなじみのお笑い集団FECが、本土復帰をテーマにコントを披露。新作もあるよ。

復帰40年記念 博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」関連公演

お笑い本土復帰

FECが沖縄県立博物館・美術館で復帰40年をテーマに、コント公演を開催します。
笑った後は、展示会を見て少しお勉強。家族や友達と復帰について語り合おう。
(復帰40年記念 博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」前売券とのセット販売になります。FECの公演のみのチケット販売はありません)

日時：2012年11月3日(土) 2回公演 | ①13時～14時 ②16時～17時
会場：沖縄県立博物館・美術館 3階講堂
定員：1公演につき200席

※自由席 各回30分前に開場 (係員の誘導に従い、ご観覧いただけます)

館内行事の関係上、当日は駐車場が混雑になる可能性があります。公共機関をご利用いただくか、時間に余裕を持ってご来館ください。会場内は冷風が強くある場所があります。上着やひき掛けをお持ちください。

沖縄県立博物館・美術館 ミュージアムショップ ゆいむい

問合せ **098-941-0749** 発売日：9/7(金)～

【前売】一般1,000円、高大600円、小中500円
【当日】一般1,200円、高大600円、小中700円

※前売券完売の場合、当日券の販売はありません。
※未就学児のお客様で席が必要な場合は、チケットをお買い求めください。

沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Historical Museum & Art Museum

主催

- 開演時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後5時まで)
- 休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日が休館) ● 〒900-0008 那覇市おもろまち5-1-1 TEL.098-941-2200

(中村愛)

※博物館常設展エピソード「沖縄の現代生活」をテーマに写真募集の項目は池原盛浩が執筆を担当した。

7 常設展に関する取り組み

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、10,000枚を配布した。また、英語版「ここだけは見逃すな！」についても、800枚を配布した。

正月には昨年の「龍展」に引き続き「へび展」を開催した。2人の学芸員が、博物館常設展内において、新年の干支にちなみ「へび」に関係した資料を紹介。解説文（400～600文字程度）を展示した。新年の干支である「へび」を取り上げることにより、違った視点で展示を楽しんでもらうことを目的とした。

解説内容：三線／園原謙、自然史部門展示室のへび標本／山崎仁也

(中村愛)

①博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」配布枚数：10,000枚

②博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！（英語版）」配布枚数：800枚



8 新聞・雑誌等掲載一覧

博物館で開催した催事に関する新聞や雑誌における掲載は下記の通りである。

新聞掲載

○文化講座・シンポジウム

沖縄タイムス	5月18日(金)	文化面	沖縄復帰40周年記念「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」シンポジウム「紅型からのメッセージを解く」
沖縄タイムス	5月20日(日)	ひとまち面	沖縄復帰40周年記念「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」シンポジウム「紅型からのメッセージを解く」
琉球新報	5月20日(日)	社会面	沖縄復帰40周年記念「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」シンポジウム「紅型からのメッセージを解く」
沖縄タイムス	10月18日(木)	文化面	復帰40年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」の関連シンポジウム
沖縄タイムス	10月22日(月)	文化面	復帰40年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」の関連シンポジウム
沖縄タイムス	12月21日(金)	文化面	博物館文化講座「港川人が語る東アジアの人類史」
沖縄タイムス	2月14日(水)	文化面	文化講座「坂本龍馬と水中考古学—沈没船いろは丸の水中調査から—」
沖縄タイムス	3月22日(金)	文化面	文化講座「有名?無名?島の生き物たち」

○体験教室

沖縄タイムス	5月6日(日)	ワラビー	博物館体験教室「紅型にチャレンジ！」
沖縄タイムス	1月22日(火)	社会面	博物館体験教室「うこん染めで手織り」

○特別公演

沖縄タイムス	11月4日(日)	社会面	復帰40年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」関連公演
--------	----------	-----	----------------------------------

○博物館ボランティア募集

沖縄タイムス	3月25日(日)	オピニオン	第5期生ボランティア募集
沖縄タイムス	4月22日(日)	オピニオン	第5期生ボランティア募集

雑誌掲載

○ふれあい体験室

「Hanako 1023号」	7月26日(木) 発売	発行：株式会社マガジンハウス	
----------------	-------------	----------------	--

○企画展関連事業

沖縄タイムス	2月23日(土)	情報面	みんなでスディナ(琉服)をつくろう!
沖縄タイムス	2月24日(日)	ひとまち面	みんなでスディナ(琉服)をつくろう!
琉球新報	3月26日(火)	RyuRyu	みんなでスディナ(琉服)をつくろう!

9 印刷物一覧

	タイトル	規格	デザイン	印刷	部数
1	文化講座（11回）	A4 （両面モノクロ）	文化の杜共同企業体	館内手刷り	各800
2	学芸員講座（全13回）	A4 （両面モノクロ）	文化の杜共同企業体	館内手刷り	各800
3	学芸員教室 （美術館「夏休み！子どもフェスタ2012」との共同制作）	A4 （両面カラー）	Doucatty 田原幸浩	印刷の通販 グラフィック	9,500
4	シンポジウム 「紅型からのメッセージを解く」（裏面：紅型展開関連催事）	A4 （片面カラー・モノクロ）	宜壽次美智	印刷の通販 グラフィック	1,000
5	特別展開連公演 「お笑い本土復帰」（裏面：ふれあい体験室ワークショップ）	A4 （両面カラー）	文化の杜共同企業体	印刷の通販 グラフィック	2,000
6	特別展開連事業「沖縄の現代生活」写真募集	A3二つ折り （両面カラー）	O C Y	近代美術	5,000 （増刷分）
7	特別展解説シート「あの日、あの時、あの場所で」	A3二つ折り （両面カラー）	宜壽次美智	印刷の通販 グラフィック	3,500
8	企画展解説シート 「大山盛保生誕100年記念展 コラボ企画 マンガ家大城さとしの博物館と発掘のウラみちやいました」（全3回）	A4 （片面モノクロ）	大城さとし	平山印刷	各10,000
9	常設展解説シート 「これだけは見逃すな」（日本語版）	A4 （両面2色）	教育普及班 （県・文化の杜共同企業体）	精印堂印刷	3,000 （増刷分）
10	ふれあい体験室ワークシート 「港川人研究所 港川人 VS 現代人」	A4 （片面モノクロ）	—	館内手刷り	3,000
11	ふれあい体験室ワークシート 「土倉と遺物からわかること 黒曜石で切ってみよう」	A4 （片面モノクロ）	—	館内手刷り	1,000
12	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器①三線でチューリップを弾いてみよう」	A4 （片面モノクロ）	—	館内手刷り	1,000
13	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器②工工四で弾いてみよう」	A4 （片面モノクロ）	—	館内手刷り	1,000
14	ふれあい体験室ワークシート 「衣からわかること 琉装ぬりえ」	A4 （片面モノクロ）	—	館内手刷り	500
15	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち①古地図パズルのおまけ 琉球国惣 絵図」（18～19世紀）」	A4 （片面モノクロ）	—	館内手刷り	500
16	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち②古地図絵本のおまけ 琉球国之図 （1471年）／琉球国図（1696年）」	A4 （片面モノクロ）	—	館内手刷り	500
17	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち③古地図かるたのおまけ 琉球国図 （16世紀）」	A4 （片面モノクロ）	—	館内手刷り	500
18	教育普及報告書	A4冊子	教育普及班 （県・文化の杜共同企業体）	企画印刷ハーツ	1,000
19	復帰40年関連講座 冊子（講座内容）	A4冊子	文化の杜共同企業体	企画印刷ハーツ	1,000
20	移動展 図録	A4冊子	教育普及班 （県・文化の杜共同企業体）	東洋企画印刷	800

平成24年度
博物館教育普及活動
2013(平成25)年3月

発行	沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 Tel (098) 941-8200 (代表) Fax (098) 941-2392
編集	沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体
印刷	企画印刷 ハーツ 〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川3-13-8 Tel (098) 835-3752 Fax (098) 835-3754